

平成 29・(30) 年度

研 究 紀 要

沖縄県教育委員会指定
体育・スポーツ推進校

研究主題

運動に親しみ進んで体力づくりに取り組む児童の育成

～各領域におけるスタイルの確立と互いを高め合う学び合いを通して～



石垣市立 宮良小学校



〒907-0243 沖縄県石垣市字宮良 331-1
電 話 0980-86-7016
F A X 0980-86-7392
E-mail miyara-s@ishigaki.ed.jp



はじめに

情報化社会（いわゆる「Society4.0」）が目覚ましい発展により、高度テクノロジー社会（「Society5.0」）への移行期にさしかかった今日において、職業スタイルや生活スタイルの急激な変化と共に国民に必要な資質（望まれる個々の職能）も高度化してきた。

数年後には、私たちが予想もしなかった職業が生まれる等、この後、四半世紀の間には実に60%の職業が消滅するとも言われている今、正に予測不能の時代で私たち教育現場に託された使命は、その重要性を飛躍的に強めた感がある。それは、これからの社会を生き抜く主体性・協働性・創造性に優れた人材を育成していくことであり、新指導要領の改訂と共に多角的・多面的な視点に則った新たな課題への取り組みが急務とされてきた。

そのような中、全国的に、児童・生徒の体力・運動能力の二極化や体力低下についても様々な立場から指摘されて久しく、体力向上もまた学校課題の一つに挙げられている。

沖縄県においては、近年、日常的な軽運動（歩く）を奨励しつつ、各校の各校一運動等、特色ある取り組みを通して楽しく主体的に運動に親しむ児童の育成を目指している。

本校では、昨年度から、沖縄県教育委員会「体育・スポーツ推進研究校の指定を受け、校内研修の研究テーマを「運動に親しみ進んで体力づくりに取り組む児童の育成」サブテーマに～日常的な体育活動を通して～とし、全職員で協働体制を確立し、運動に親しみ進んで体力づくりに取り組む児童の育成を目指し研究を推進してきた。1年次は特に1単位時間の体育学習の授業スタイルづくりに重点を置き、全職員が検証授業等を積み重ね体育学習の工夫改善に努めてきた。

今年度は、2年次（最終年次）として、1年次の成果（みやびいスタイルの確立）に加えて協働的な学習の構築（児童同士の学び合い）を目指し、各学年の研究授業を通して体育学習の更なる進化に努めてきた。その成果として、学年や単元を越えた体育学習の授業スタイルが確立され先生方の授業力が向上してきたこと、児童一人ひとりの運動意欲の高まり等が挙げられる。休み時間や昼の休憩時間、放課後等を利用して一輪車や竹馬、縄跳びに汗を流したり、サッカーなどボール運動に勤しむ子が増え、主体的且つ協働的に運動に親しむ児童の姿が日常的に見られるようになってきたことは大変喜ばしい状況である。

このように本研究を通して得られた多くの成果が、更に他教科の学習や学校の教育活動全般に生かされ、主体性・協働性・創造性に富んだ児童の育成と共に、益々活気ある学校へとつながっていくことを期待し、今後とも職員一同研鑽に励んで参ります。

結びに、本研究の側面的な支援として、本校職員の県内外における研鑽の場を数多く提供して頂きました県教育庁保健体育科の皆様、4月当初から学校と連携を図り、研究主任を導き、体育の理論研修、検証授業での講話、授業研究の指導助言等、多くの示唆を賜りました八重山教育事務所の小林弘樹指導主事や期間中お世話になりました全ての関係機関職員に対し厚く御礼申し上げますと共に、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年 1月

学校長 仲間一史

目 次

はじめに

I	研究の概要	
1.	研究主題	1
2.	主題設定の理由	1
3.	めざす子ども像	1
4.	研究仮説	2
5.	研究の方針	2
6.	研究の内容	2
7.	研究の計画	2
8.	研究組織	3
9.	研究組織の活動内容	3
10.	研究経過	4
11.	研究構想図	6
II	研究の実践	
1.	授業スタイル「みやびいスタイル」	7
2.	互いに高め合う学び合い「まなびいスタイル」	9
3.	宮良小学校の共通実践	10
III	各学年の実践	
1.	第1学年「マット遊び」	15
2.	第2学年「キックベースボール」	27
3.	第3学年「ポートボール」	39
4.	第5学年「ソフトバレーボール」	55
IV	研究の成果と課題	
1.	児童の意識調査と児童の実態	67
2.	体力テストの移り変わり	73
3.	成果と課題	90

おわりに

研究同人

I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 めざす子ども像
- 4 研究仮説
- 5 研究の方針
- 6 研究の内容
- 7 研究の計画
- 8 研究組織
- 9 研究組織の活動内容
- 10 研究経過
- 11 研究構想図

1. 研究主題

『運動に親しみ、進んで体力づくりに取り組む児童の育成』
～各領域におけるスタイルの確立と互いを高め合う学び合いを通して～

2. 主題設定の理由

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中、スマートフォンやインターネットの普及、ICTの進化、食生活の変化等により、社会を取り巻く環境や生活スタイルは昔と比べ大きく変化している。結果的に、それは、今日の子どもたちの健康・体力面において多大な影響を及ぼしてきている。

学習指導要領解説体育編（平成29年7月）においては、「運動する子とそうでない子の『二極化傾向』が見られること」「子どもの体力について、体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、依然として低い状況が見られること」「健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であること」等が課題として指摘されている。本県においても、新体力テストのアンケートの結果より、「肥満傾向の児童生徒が多いこと」「まったく運動しない児童が多いこと」「徒歩登校の児童が少ないこと」等が課題として指摘されている。

これらの課題を改善すべく、新学習指導要領では、体育学習において「運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協同的な学習活動」を取り入れることを奨励し、『「知識および技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を育成すること』等、体育学習における各観点の目標を新たに示している。

本校では、平成29年度（一年次）、「日常的な体育的活動を通して」をサブテーマに、校内における活動において、朝スポや持久走大会など、体力の向上につながる取り組みを推進するとともに、全学年統一した体育の授業におけるタイムマネジメント（45分完結型の授業スタイル「みやびいスタイル」）の確立を目指し研究を進めてきた。その結果、各学年1単位時間の授業スタイルが定着し、授業内における運動量を20分以上確保することができた。また、一輪車や竹馬、低鉄棒、雲梯、アスレチック等の遊具を校内に設置することで、意欲的に運動に親しむ児童が多く見られた。その一方で、「みやびいスタイル」に取り組みにくい単元があること、授業や朝のスポーツタイムなどの活動において、児童が進んで運動に取り組める場の設定を工夫することなどが課題となった。

これらの課題を踏まえ、平成30年度（二年次・最終年次）は、これまでの取り組みを実践しながら、授業における運動量の確保に留意しつつ、各単元に対応した「みやびいスタイル」の確立を目指すとともに、子ども同士が学び合いながら互いを高め合う授業づくり等を実践することで、より多くの児童が「運動に親しみ、進んで体力の向上に取り組むであろう」と考え、本主題を設定した。

3. めざす子ども像

体育科の授業において、課題解決に向けた相互の学び合いを積極的に行い、「できる喜び」を実感しながら、進んで運動する子。

4. 研究仮設

体育の授業において、以下の手立てを工夫することにより、運動の楽しさやできる喜びを味わうことができ、運動に親しみ進んで体力づくりに取り組むようになるであろう。

- ① 45分間の授業時間の中で、運動量を確保しながら各領域における授業スタイルを確立する。
- ② 個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫する。

5. 研究の方針

- (1) 校内研修推進委員会を中心に研究を行い、全職員の共通理解のもとに研究を推進する。
- (2) 「生涯スポーツ」の基礎づくりにおける学校体育の課題解決にむけて研究する。
- (3) 研究仮設に沿った研究を推進する。
- (4) 児童の実態や本校の課題を分析・考察し、児童の望ましい変容と教師の資質の向上を期するため、全学年で研究授業（校内）や公開授業（実践研究発表）を行う。
- (5) PDCAサイクルを確立し、研究に取り組む。
- (6) 原則として毎月第3水曜日に校内研修日とし、必要に応じて別に研修日を設ける。
- (7) 講師を招聘して指導助言を受け、授業研究会で成果と課題の共有化を図る。
- (8) 各種研究会・研修会の資料は全職員で共有する。
- (9) 研究記録、研究物の保管および体育的活動に適応した環境整備の改善を図る。

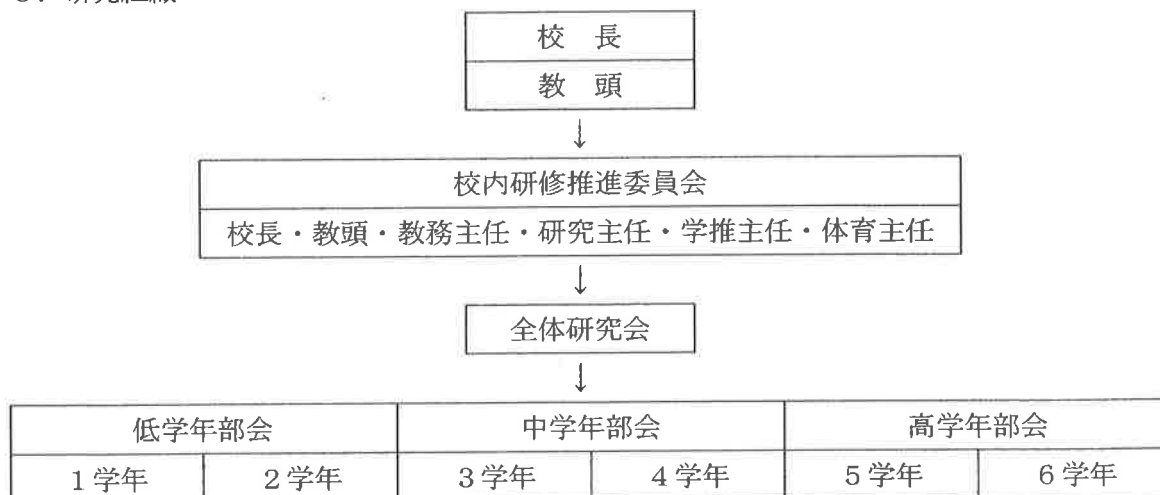
6. 研究の内容

- (1) 体育の授業における、授業スタイルの確立（タイムマネジメント）
- (2) 互いに学び合い、学習意欲や技能を高める授業づくりの工夫改善
- (3) 体力の向上を図る運動環境および学習意欲を高める学習環境の整備
- (4) 2年間を通しての新体力テストの結果の活用
- (5) 個に応じたためあての設定と振り返りの工夫（ワークシート・学びの足跡）

7. 研究計画

一 年 次	<ol style="list-style-type: none">(1) 研究テーマの設定・研究計画・研究の全体構想と研究組織体制づくり(2) 体育学習における理論研究と授業研究会の実施(3) 体育科の授業におけるスタイル（タイムマネジメント）の確立(4) 体育科年間計画の見直し(5) 新体力テスト・意識調査による実態把握(6) 一年次のまとめ
二 年 次	<ol style="list-style-type: none">(1) 一年次の研究の成果と課題をもとにした研究の見直し(2) 体育学習における理論研究と授業研究会の実施(3) 体育科の授業における各単元のスタイルの確立と定着(4) 進んで学び合う児童の育成(5) 体育科年間計画の見直し(6) 二年次のまとめ（県内小学校を対象に研究発表会を行う）

8. 研究組織



9. 組織の活動内容

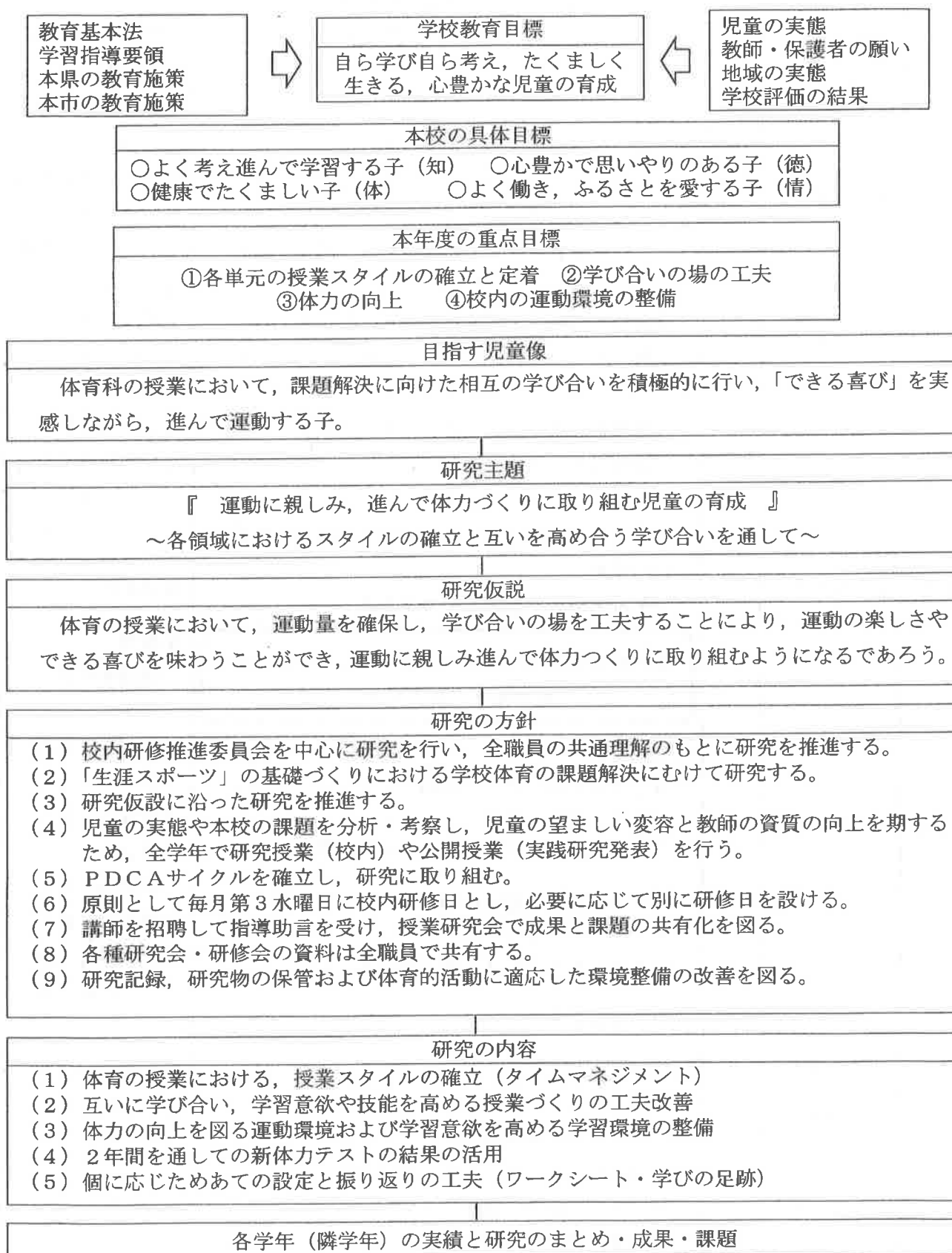
組織名	活 動 内 容	構成職員
校長	①研究全体の総括および指導助言 ②指導主事・講師・来賓等の対応 ③渉外	
教頭	①校長の補佐および研究全体の連絡調整 ②指導主事・講師招聘・他校への参観呼びかけ（公文作成・発送等） ③研究授業および研究発表会の日程調整および案内等	
校内研修 推進委員会	①研究全体の推進・研究の連絡調整 ②各種計画および調査等の案作成・実施・集計・報告 ③指導案の提案・検討・作成 ④授業研究会の計画および進行等の検討 ⑤理論研修に係る内容と日程の検討 ⑥研究集録の原稿作成およびまとめ ⑦研究の進行状況の把握 ⑧研究発表会の役割・内容の確認 ⑨研究報告書作成	校長 教頭 教務主任 研究主任 学推主任 体育主任
全体研究会	①研究推進に係る全体討議 ②研究内容・方法等の検討および共通理解 ③理論研究会・伝達講習会・授業研究会 ④各種調査の内容の検討 ⑤体力向上への取り組み	全職員
学年部会	①低学年部・中学年部・高学年部における情報交換 ②教材・教具の準備および資料の作成 ③授業スタイルおよび指導案の検討 ④授業研究会の記録と報告 ⑤アンケート等の作成・実施・集計・分析および考察 ⑥研究報告書の作成に関すること	

10. 研究経過

回	月日	曜日	研究内容	主事・講師・担当
1	4月3日	火	○校内研修推進委員会	体育部会
2	4月5日	水	○全体研修 ・H30年度研究の方向性について ・校内研修全体計画について	研究主任
3	4月18日	水	○校内研修 ・体育における授業の進め方（みやびスタイル）	研究主任 体育部会
4	5月16日	水	○校内研修 ・体力向上の取り組み（朝スポ・新体力テスト）について	体育部会
5	5月30日	水	○スポーツチャレンジデー ・全体朝スポ	体育部会
6	5月30日 ～6月1日	水 ～ 金	○西日本体育研究大会（高知大会）参加	6学年担任 嘉手納 倫 教諭
7	6月13日	水	○全体研修『第5学年 体育科研究授業』 領域「ボール運動」 単元名「ソフトバレーボール」 授業者：5学年担任 水谷 直揮 教諭	【指導助言】 八重山教育事務所 指導主事 小林 弘樹
8	7月11日	水	○全体研修『第2学年 体育科研究授業』 領域「ボール運動」 単元名「キックベースボール」 授業者：2学年担任 白金 晴香 教諭	【指導助言】 八重山教育事務所 指導主事 小林 弘樹
9	7月27日	金	○校内研修 ・西日本体育研究大会伝達研修	6学年担任 嘉手納 倫 教諭
10	8月1日 ～3日	水 ～ 金	○全国体育科研究大会（福山大会）参加	3学年担任 根路銘 結奈 教諭
12	8月28日	火	○校内研修 ・保幼小連携 宮良保育園体験 「リズム運動見学」	全職員
13	8月30日	木	○校内研修 ・「発達の土台を支えるからだづくり」 ～いつでもどこでもできる からだづくりの実践を通して～	【講師】 レジリエンス・ スポーツセンター 管理者 栄 孝之

14	9月12日		○校内研修 ・全国体育科研究大会等 夏休み各研修 伝達研修	各研修参加教諭
15	10月18日 ～19日	木 ～ 金	○読谷村立 喜名小学校 体育専科公開授業 ○宜野座村立 宜野座小学校 実践発表会 参加	研究主任 照屋 祐樹 教諭 4学年担任 桑江 大地 教諭
16	10月24日	水	○全体研修『第2学年 体育科研究授業』 領域「ボール運動」 単元名「キックベースボール」 授業者：2学年担任 白金 晴香 教諭	【指導助言】 八重山教育事務所 指導主事 小林 弘樹
17	11月14日	水	○校内研修 ・読谷村立 喜名小学校 体育専科公開授業 ・宜野座村立 宜野座小学校 実践発表会 伝達研修	研究主任 照屋 祐樹 教諭 4学年担任 桑江 大地 教諭
18	12月12日	水	○全体研修『第2学年 体育科研究授業』 領域「ボール運動」 単元名「キックベースボール」 授業者：2学年担任 白金 晴香 教諭	【指導助言】 八重山教育事務所 指導主事 小林 弘樹
19	12月26日	水	○校内研修 ・今年度の成果と課題およびまとめ	研究主任
20	1月25日	金	沖縄県教育委員会指定 体育・スポーツ推進校 最終年次 研究発表会 ○公開授業 4年1組領域「ボール運動」 単元名「タグラグビー」 授業者：4学年担任 桑江 大地 教諭 6年1組領域「器械運動」 単元名「跳び箱運動」 授業者：6学年担任 嘉手納 倫 教諭 ○研究発表全体会	県教育庁 保健体育課 課長 平良 朝治 【指導助言】 県教育庁 保健体育課 健康体育班 主任指導主事 古賀 義之
21	2月3日	日	○校内持久走大会	体育部会
22	2月20日	水	○校内研修 ・研究発表会の振り返り	研究主任
23	3月6日	水	○校内研修 ・研究指定校最終年次のまとめ ・次年度の校内研究の計画	研究主任

11. 研究構想図



II 研究の実践

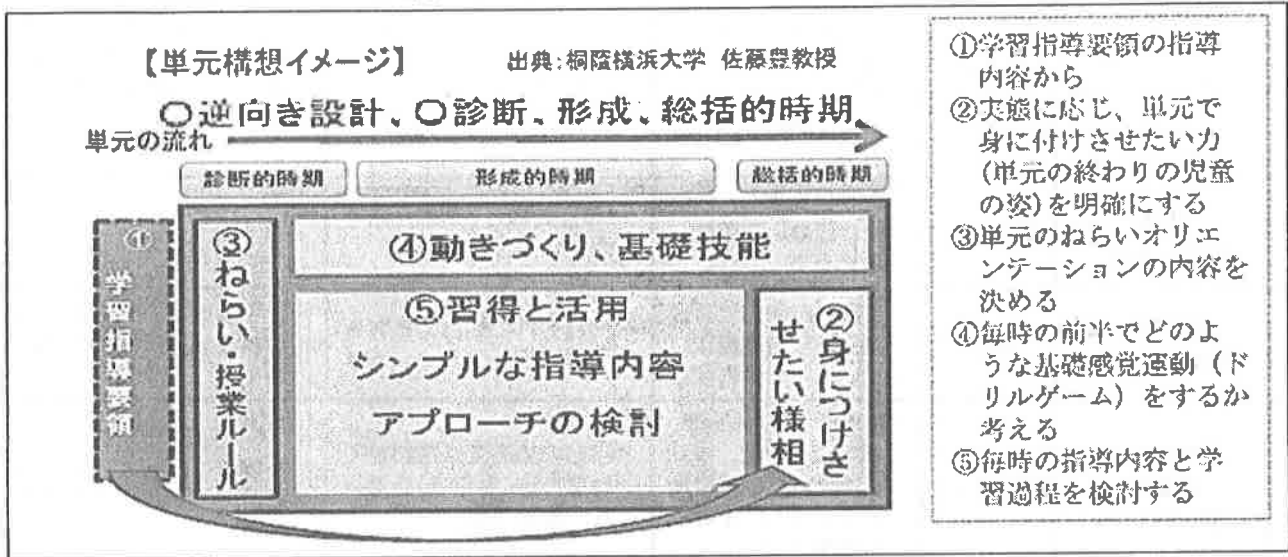
- 1 授業スタイル「みやびいスタイル」
- 2 互いに高め合う学び合い
「まなびいスタイル」
- 3 宮良小学校の共通実践

1. 授業スタイル「みやびいスタイル」

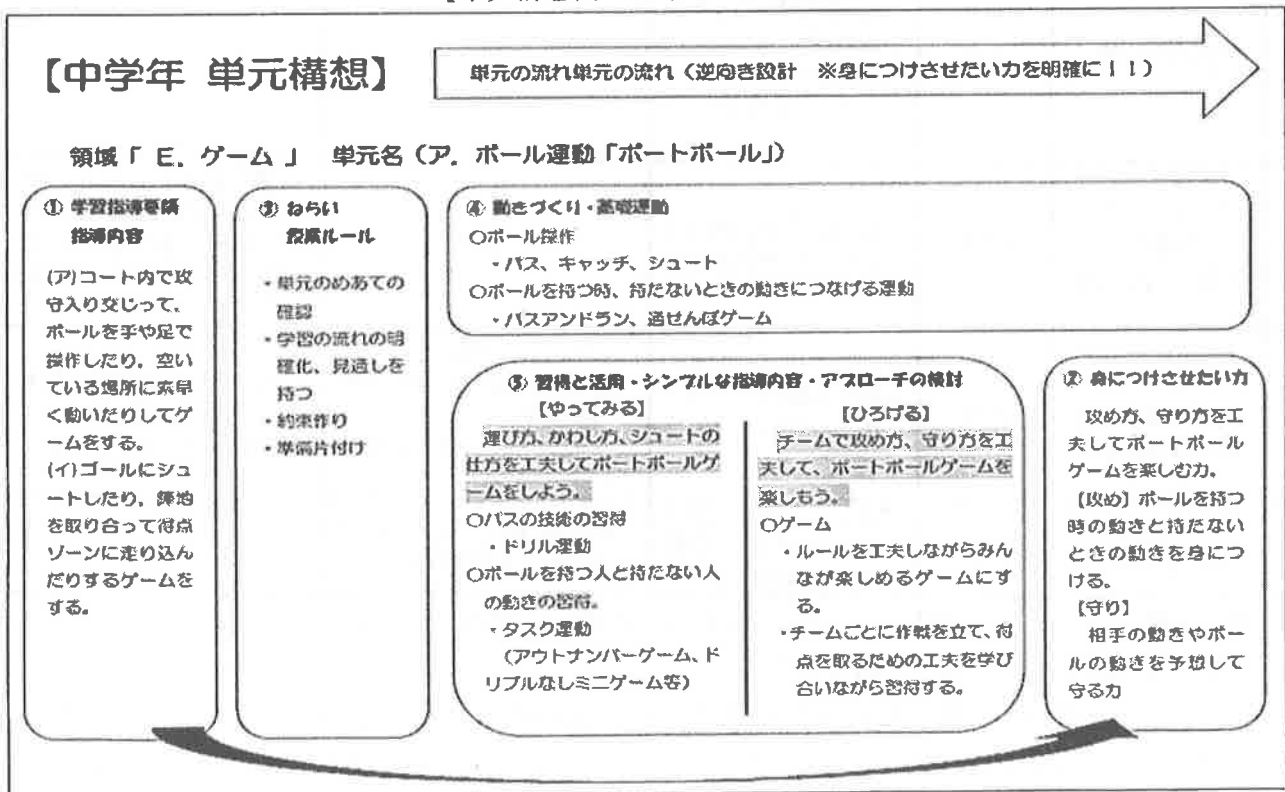
(1) 単元構想

1 単位時間の授業を展開するにあたり、まず単元全体を見通して「身に付けさせたい力（単元終わりの児童の姿）を明確にした単元構想を練る」ことが、学びのある体育・保健体育の授業につながっていく。そこで、『「問い」が生まれる授業サポートガイド』を参考に、単元を計画し、実践した。

【単元構想イメージ（沖縄県教育委員会「問い」生まれる授業サポートガイドより）】



【単元構想例：3年ボール運動】



(2) 授業スタイル

体育科 45分完結型授業 「みやびスタイル(基本スタイル)」

学習過程	時間	活動内容	活動の視点	
			めあて	学び合い
① ウォーミングアップ	5分	・準備体操 ・なわとび ・ジョギング など	・運動領域に合わせたウォーミングアップの意義を理解して行う	・ペアなどで互いに支え合いながら、準備運動を行う
② めあての確認(学び合い①)	5分	・学習のめあての提示 ・運動のポイントの確認 ・自分(グループ・チーム)のめあてを立てる	・自分の力に合わせためあてを設定する ・めあてに合わせて練習方法(場や技)を選択する	・前時の振り返りをもとに、話し合っグループ・チーム)のめあてを立てる
③ 準備(単元に応じて)	(3分)	・安全に考慮し、素早く、協力して用具の準備をする	・(単元に応じて)みんなで協力して行う	
④ 基礎運動(学び合い②)	5分	・主運動に即した基礎運動、基礎感覚作り ・サーキット運動など	・それぞれの動きの意義を理解して行う	・上手な児童の動きを確認しよさを見つけて伝え合う
⑤ チャレンジ運動①(学び合い③)	12分	・個やペア、グループ、習熟度別など、単元に合わせて学習形態を工夫し、主運動に挑戦する	・自分のめあてに合わせて練習方法(場や技)を選択し、練習する	・「技(技能)のポイント」を確認し、個、ペア、グループでアドバイスを伝え合う
⑥ 学び合い④	5分	・チャレンジ運動①での活動やそれぞれの動き、できたこと、できなかったことなどを確認し話し合う。		
⑦ チャレンジ運動②(学び合い⑤)	13分	・協力して学び合いながら、主運動を行う		・「技(技能)のポイント」ができているか、ペアやグループ内で互いに評価、アドバイスし、高め合う
⑧ めあての振り返り(学び合い⑥)	5分	・めあてをふり返る ・自分の課題について考え、次時につなげる	・めあてが達成できたか、練習の効果があったかをふり返る ・友だちのよい動きを見付け伝え合う	・先生や他の児童からもらった評価やアドバイスを参考に本時をふり返る
⑨ 片付け(単元に応じて)	(3分)	・安全に考慮し、素早く、協力して、用具等の準備をする	・(単元に応じて)みんなで協力して片付けを行う	

※基礎運動・チャレンジ運動①②・学び合い①②の時間は、単元や第〇時、児童の実態などに応じて、多少の変更する場合があります。

※準備をその日最初の時間の学年が行い、片付けをその日最後の学年が行うことにより、運動量を確保する。(※45分のタイムマネジメントは、準備・片付けの時間を省いて計画しています。)

2. 互いに高め合う学び合い「まなびいスタイル」

新学習指導要領解説体育科編には、体育科における「主体的・対話的深い学び」の具体例が記載されている。

【主体的な学び】

運動の楽しさや健康の意義等に気付き、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。

【対話的な学び】

運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりするなどの対話的な学びを促すこと。

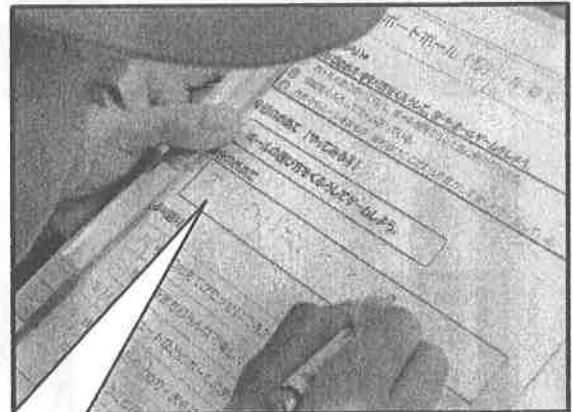
【深い学び】

それらの学びの過程を通して、自己の運動や健康についての課題を見つけ、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するなどの深い学びを促すこと。

本研究では、互いに高め合う学び合いとして、「主体的・対話的な深い学び合い」を実践するにあたり、以下の視点を重点的に取り組む。

【まなびいスタイルの視点】

- ①めあて（目標）を立てる
- ②自分の課題を立てる
- ③練習方法や練習の場を話し合う
- ④運動や技のポイントを話し合い、伝え合う
- ⑤運動や技のできを話し合い、伝え合う
- ⑥課題を確認し、振り返りについて話し合う



意見を伝え合う場での、作戦ボードや付箋紙の活用

前時の振り返りから課題を見つけ、自分のめあてを立てる。



単元に応じて ICT 機器を活用し、技を見合い、課題を確認。

3. 宮良小学校の共通実践

(1) 準備体操の統一 《ジンギスカン体操（動的ストレッチ）・ペアラジオ体操》

昨年度より「ジンギスカン体操（ジンギスカンの曲に合わせた動的ストレッチ）」・「ペアラジオ体操」を授業の準備体操や運動会などの準備体操に導入した。

BGMに合わせて児童も楽しく準備体操ができ、全学年で準備運動を統一することにより、いつでも、どこでも、授業や課外活動などで共通した運動ができるようになった。

(2) 効率的な授業展開のための準備物

授業を効率的に展開するために、前学年で決まった準備物を統一し授業を展開することで、児童が次の行動を予測して行動することができ、授業スタイルの定着にもつながる。

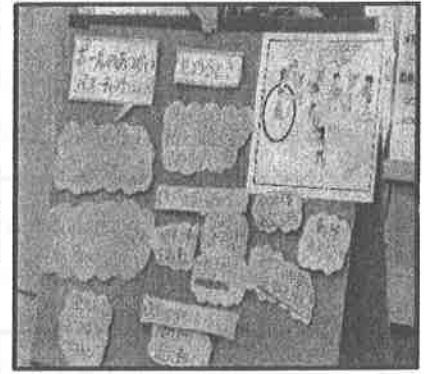
① 掲示板（掲示物）



《大型掲示板》



《電子黒板》



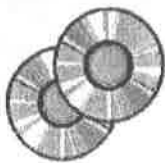
《簡易掲示板》

② 学習カード



学習カードはファイリングし、グループでかごの中へ整理する。（副読本、体育専用の筆記用具も準備）

③ その他



《BGM》

BGMを活用し、児童の気持ちや意欲を高める。また、曲の時間に合わせて、授業の流れを確認することができる。



《カラーコーン》



《タブレット》

(3) 朝の帯タイム「宮小朝スポ」

朝の帯タイムの時間を活用し、8時15分から8時35分までの20分間を「みやびい朝スポ」の時間とし、運動に親しみ、体力を高める取り組みを昨年度より行っている。

活動日を月曜日1・2年生、火曜日3・4年生、水曜日5・6年生とし、体育の年間計画や行事に連動した運動テーマを設定し、取り組んでいる。

《みやびい朝スポ：月テーマ》

月：低学年 火：中学年 水：高学年

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
単元 行事	体ほぐし 鉄棒	ボール運動 (ネット型)	水泳 体カテスト	ボール運動 (ベース ボール型)	夏休み	陸上運動 運動会
内容	鬼ごっこ 体ほぐし 体づくり 鉄棒運動 雲梯	ボール遊び ボール運動	ストレッチ 体カテスト 各種目の運動	ボール遊び ボール運動		走の運動 バトンパス
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	陸上運動	マット運動 ドッジボール大会 保健	鬼遊び ボール運動 (ゴール型)	ボール運動 (ゴール型)	持久走大会 体づくり 保健	とび箱運動
内容	短距離走 バトンパス ハードル走	ストレッチ 体づくり マット運動 ドッジボール	ボール遊び ボール運動	ボール遊び ボール運動 持久走	一輪車 竹馬 フラフープ 縄跳び 鉄棒・雲梯	ストレッチ 体づくり とび箱運動

※ 道具等の数に限りがあるため、低・中・高に分け、曜日を指定する。

※ 低・中・高で連携し、内容を決定し取り組むようにする。



竹馬に
チャレンジ

《全体朝スポ》
全校児童で
ジンギスカン体操

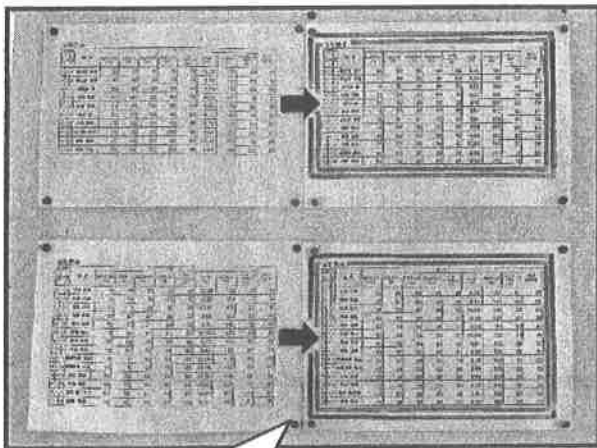


(3) 校内持久走大会

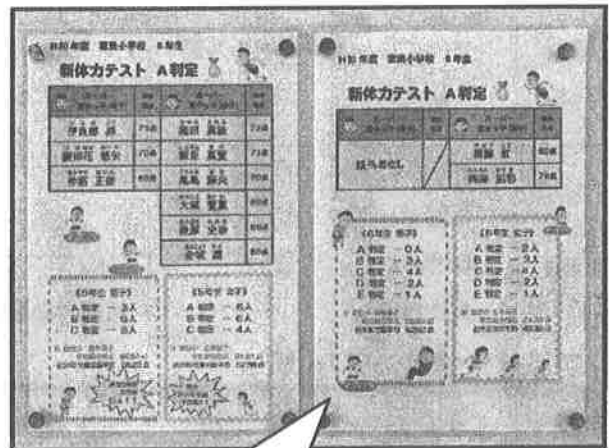
幼稚園（400m：運動場2周），1～6年生（1000m：外周コース1周）とし，小学校全学年の距離を1000mに統一することにより，6年間の児童の成長を記録し，変容を確認することができる。

(4) 新体カテスト

全児童体力テストを実施。2年間の変容を調査し，体力テストの個人成績を配布し，学年別総合得点者上位者や学年成績等を掲示することで，自分の体力に関心を持たせる。二年間の調査で総合評価A・B・C判定が増加し，E判定の児童が減少している。



昨年度と今年度の記録を掲示し，自身の記録の変容を確認。



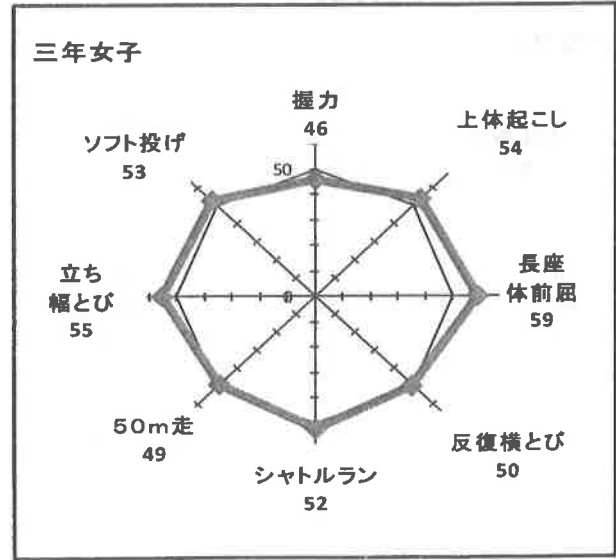
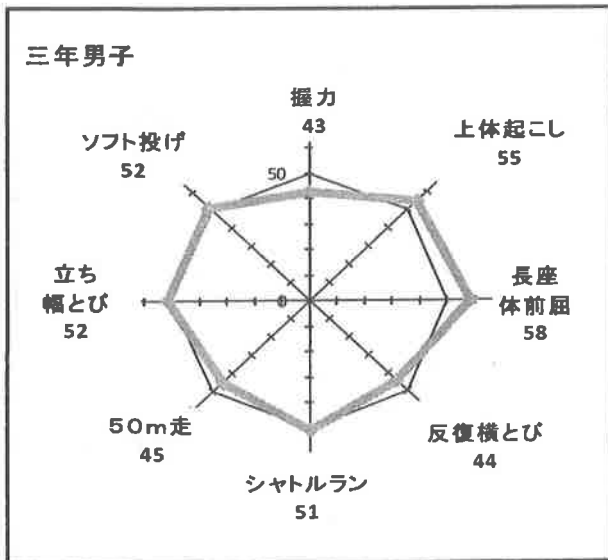
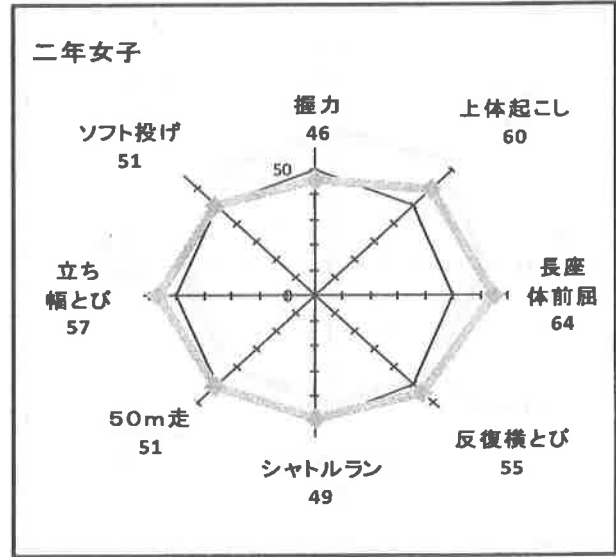
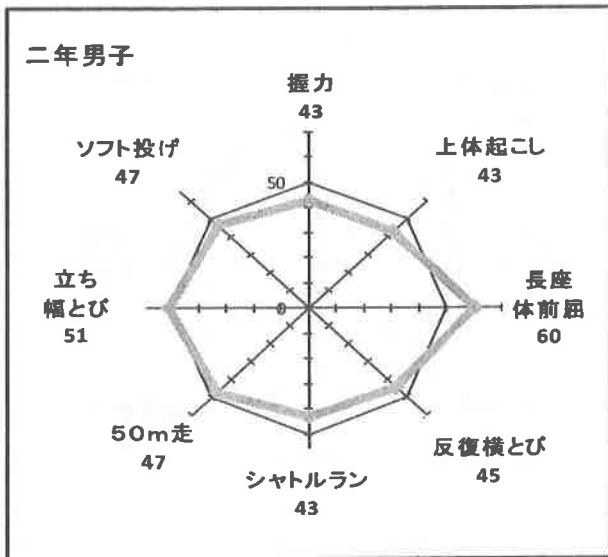
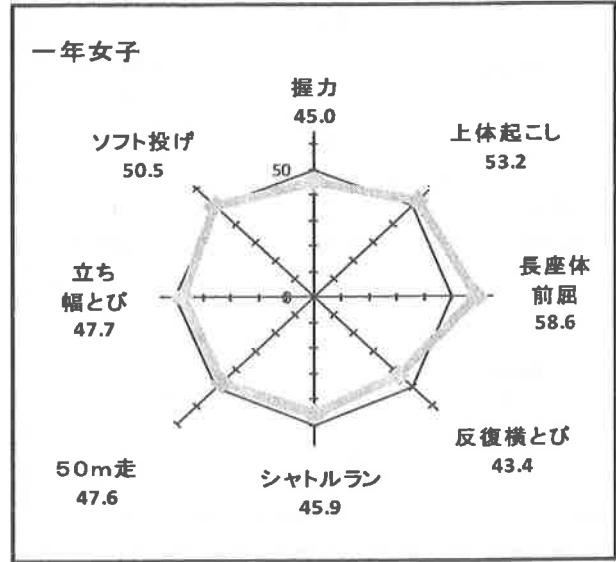
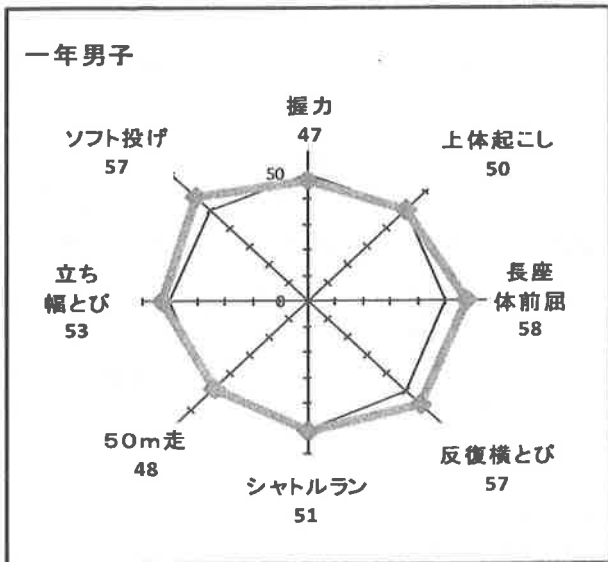
総合上位の記録を掲示。上位者との記録を比較することで関心をもたせる。

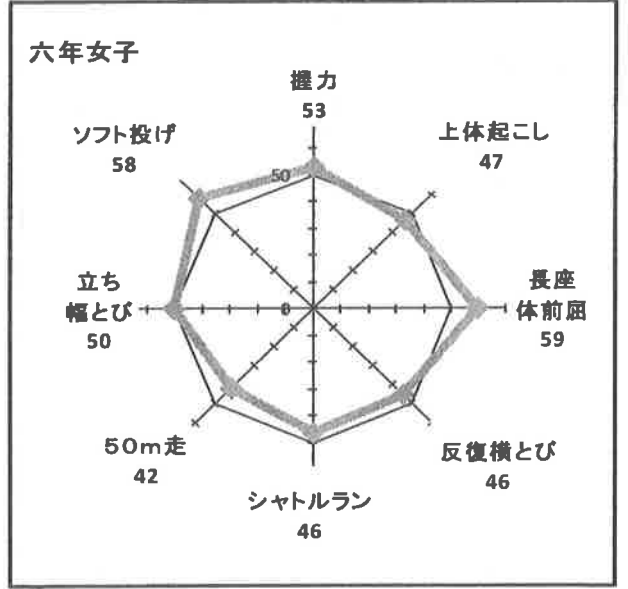
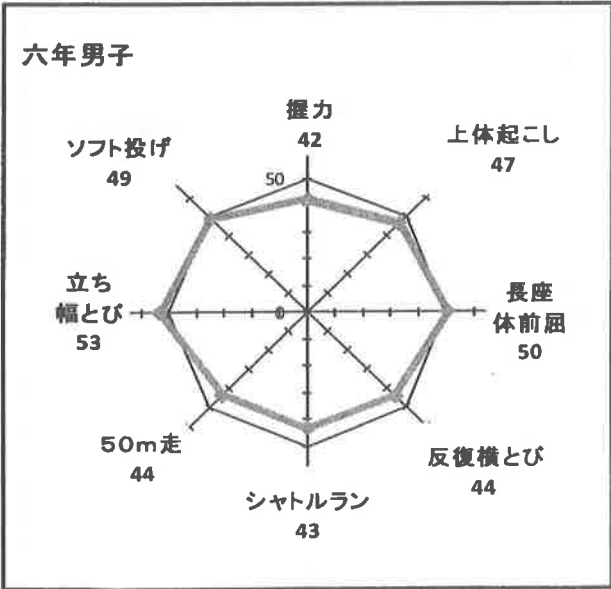
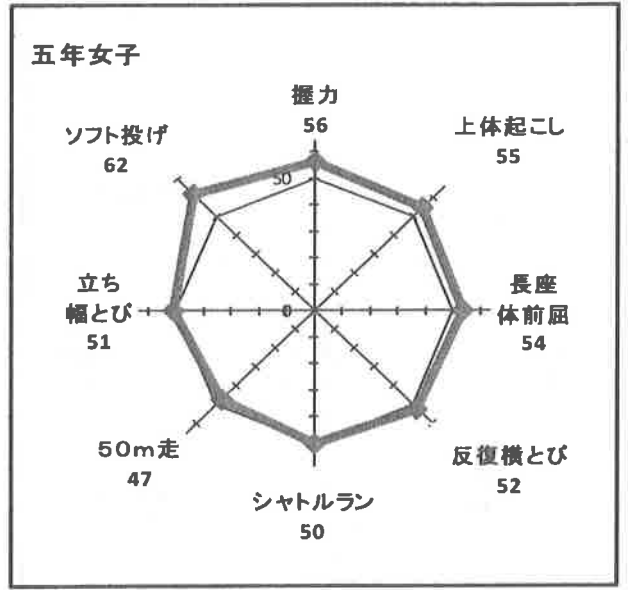
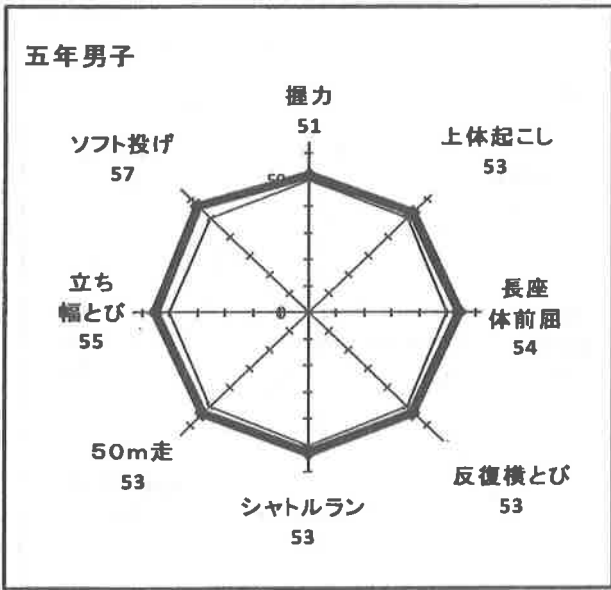
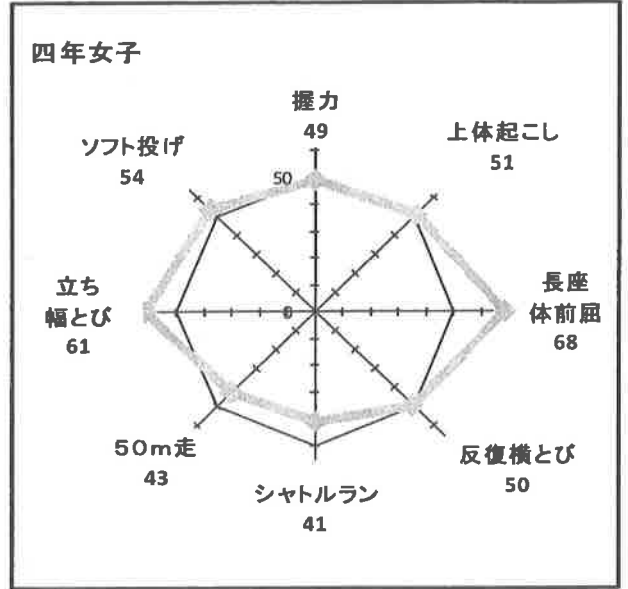
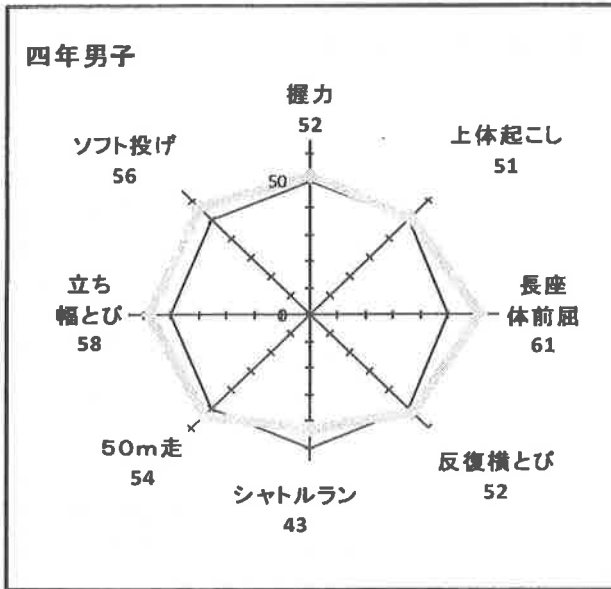


体力テストに向けて，朝スポや授業で各種目の練習や体力アップに取り組む。



平成30年度 宮良小学校新体力テスト 学年・男女・種目別体力偏差値 (全国平均値50)





Ⅲ 各学年の実践

- 1 第1学年「マットを使ったマット遊び」
～ スーパーにんじゃに大へんしん ～
- 2 第2学年「キックベースボール」
～ ボールとどっちがはやいかな ～
- 3 第3学年「ポートボール」
～ ポートボールゲームを楽しもう ～
- 4 第5学年「ソフトバレーボール」
～ レシーブ・トス・アタックに挑戦しよう ～

第1学年 授業実践

領域「B. 器械・器具を使つての運動遊び

イ. マット使つた運動遊び」

単元名「マットあそび ～スーパーにんじゃに大へんしん～」



第1学年体育科学学習指導案

平成30年 10月24日(水) 5校時

1年1組 男子8名 女子10名 計18名

授業者 T1 宮良 陽子 印

T2 前本 香 印

1. 領域・単元名

領域 「 B. 器械・器具を使つての運動遊び イ. マットを使った運動遊び 」

単元名 「 マットあそび ～スーパーにんじゃに大へんしん～」

2. 単元の目標

- (1) マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすること。 【B(1)イ 技能】
- (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。 【B(2) 思考・判断】
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。 【B(3) 態度】

3. 単元について

(1) 学習指導要領の記述

本単元は、学習指導要領第1学年・第2学年の目標である

①運動

(1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身につけるようにする。

②思考・判断

(2) 各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。

③態度

(3) 各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したり、意欲的に運動する態度を養う。

(2) 運動の特性

①一般的特性

マット運動遊びは、いろいろな回り方で転がったり、手や背中で支持しての逆立ちをしたり、そのいくつかの技を連続して行ったりして楽しむ運動遊びである。また、いろいろな動きや自分の力にふさわしい課題に取り組む楽しさを味わうことができる運動遊びである。

②児童からみた特性

マット運動遊びは、鉄棒や跳び箱に比べると技を自由に楽しむことができやすい運動である。いろいろな技に挑戦し、できるようになると楽しく、さらに技を組み合わせることも比較的簡単で楽しく取り組める運動である。また、運動のスピードもそれほど速くないため、技のできばえや直すところを見つけやすい。そのため、友達同士で教え合ったり励まし合ったりすることで上達しやすく、その喜びも大きい。しかし、逆さ感覚や腕支持感覚など、日常経験することの少ない動きもあるため、経験の多少による個人差が出てしまう運動でもある。

(3)教材観

子どもによって、経験している動きに差がある1年生では、マットの上での感覚づくり運動を通して、マット遊びやマット運動につなげていきたい。そこで、「やってみる」では前転がりや後ろ転がりなどの基本的な回り方を、「ひろげる」では、いろいろな場で繰り返して転がったり、いろいろな転がり方をつなげたりして遊ぶ。

4. 児童の実態

【体育事前アンケート結果】

(10月 10日 実施 18人)

①体を動かすことは好きですか？

	すき	まあまあすき	あまりすきではない	すきではない
男子	8人	0人	0人	0人
女子	6人	2人	1人	1人
クラス	14人	2人	1人	1人
すきなところ		すきでないところ		
・楽しい (12) ・うんどうがとくい (9) ・すっきりする (9) ・できるとうれしい (6)		・つかれる (1) ・できない (1)		

②マット遊びをやったことがありますか？

	ある	ない
男子	8人	0人
女子	10人	0人
クラス	18人	0人

③ マット遊びはすきですか？

	すき	まあまあすき	あまりすきではない	きらい
男子	8人	0人	0人	0人
女子	9人	1人	0人	0人
クラス	17人	1人	0人	0人
すきなところ				
・楽しい (14) ・できると楽しい (11)				

【考察】

本学級は、男子8名、女子10名と男女数のバランスが比較的良い学級である。休み時間には男子児童のほとんどが外に出て遊んでいる。一方、女子児童は外で遊ぶ子が約半分であり、天気が良くても室内で遊ぶことを好み進んで運動しようとしなない子もいる。アンケート結果から、「運動すると疲れる」「できないから楽しくない」等の理由から、運動をあまり好まない苦手と感じている児童がいることが分かった。日常の遊びや体育の授業の中で、体力をつける運動の場や自分の力に合った課題に取り組める場の設定を意図的に設ける必要があると考えられる。マット運動に関しては、全ての児童が幼稚園や保育園での経験があり、「好き」「まあまあ好き」と答えている。「技ができると楽しい」と答えた子が多く、できたり認められたりする事の喜びが好きな理由につながっていると考えられる。マット運動に対して恐怖心をもっている児童は見られないので、やり方のポイントを示したり、友達同士の教え合いを工夫したりしながら楽しく取り組める場を設定していくとよいと考えられる。

また、本学級には、特別支援学級（知的障害）から交流に来ている児童が1名いる。その他にも、情緒が不安定な児童（1名）や発達に遅れがあり支援が必要な児童（2名）もいる。これらの児童が安全に楽しく進んで学習に参加できるように、特別支援学級担任がT2として支援に入ることが必要であると考えられる。

5. 研究主題との関わり

(1) 研究主題

『運動に親しみ進んで体力づくりに取り組む児童の育成』
～各領域におけるスタイルの確立と互いを高め合う学び合いを通して～

(2) 研究仮説

体育の授業において、以下の手立ての工夫を実践することにより、運動の楽しさやできる喜びを味わうことができ、運動に親しみ進んで体力づくりに取り組むようになるであろう。

- ① 45分の授業時間の中で、運動量を確保しながら各領域における授業スタイルを確立する。
- ② 個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫する。

(3) 研究の視点

① 各領域における授業スタイルの確立

- ・ 45分の授業時間の中で、各領域や単元に合わせ、活動時間を5分から15分程度のまとまりにし、集中力が持続するようにタイムマネジメントを工夫する。

② 学び合いの場の工夫

- ・ 個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫し、充実させることで、自分や友だち、チームの動きに気付き、運動の技能を向上することができ、達成感や成就感を味わい、「できる喜び」感じることができる。

(4) 授業スタイルについて

45分完結型授業「マット運動みやびいスタイル」

学 習 過 程		時 間	活 動 内 容
①	ウォーミングアップ	5分	・ジンギスカン体操やペアラジオ体操, なわとび, 単元の運動に適したストレッチなど
②	めあての確認 学び合い①	5分	・学習のめあての提示 ・主運動のポイントの確認 ・チームのめあてを立てる →自分(個人)のめあてを立てる
③	準備(単元に応じて)	(3分)	・安全に素早く, 協力して, 本時の準備をする
④	基礎運動	5分	・本時の運動に合わせた基礎運動 ・サーキット運動や基礎感覚作りとしての類似運動を取り入れた運動など
⑤	チャレンジ運動① ※単元や児童の実態に合わせて 活動の仕方を計画する	10分	・個やペア, グループ, 習熟度別など, 学習形態を工夫し, 主運動に挑戦する
⑥	学び合い②	5分	・チャレンジ運動①での活動やそれぞれの動き, できたこと, できなかったことなど, チーム等での動きを確認し話し合う
⑦	チャレンジ運動②	10分	・グループで協力して学び合ったことを実践しながら, 主運動を行う
⑧	めあての振り返り	5分	・めあてをふり返る ・チームの課題や自分の課題について考え, 次時につなげる
⑨	片付け(単元に応じて)	(3分)	・安全に素早く, 協力して, 安全に片付けをする

(5) 単元における手立て

- ①意欲的に取り組めるように, 「スーパーにんじゃに変身する」というストーリーを設定する。
- ②動きのポイントを焦点化し, ポイントを意識した運動ができるようにする。
- ③場の設定や掲示物を工夫し, グループで協力したり教え合えたりできるようにする。

6. 指導にあたって

低学年は「忍者」や「ヒーロー」が大好きである。「スーパーにんじゃに変身する」という設定で忍者の動きを具体的にイメージさせながら, 必然的な関りを生み出す工夫をし, 児童が主体的・対話的に学ぶ力を高めていきたい。また, 音楽やワークシートも工夫し, できた喜びや達成感を得られるように取り組んでいきたい。さらに, 低学年では「マットを使った運動遊び」で遊びが中心となるが, 中学年「マット運動」の基礎となる運動を学習するので, 前転・後転・倒立の動きにつながるようにポイントを意識させた運動遊びに取り組んでいきたい。

7. 単元の評価規準

	(運動への) 関心・意欲・態度	(運動についての) 思考・判断	(運動の) 技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> マットを使った運動遊びに進んで取り組むとともに、順番やきまりを守り、仲よく運動をしようとしたり、運動する場の安全に気を付けようとしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する器械・器具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見つけている。 マットを使った運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転などができる。

8. 単元計画と評価計画

段階	時間	主なねらい・学習活動	評価規準 (重きを置く観点)			教師の指導・支援
			関	思	技	
やってみる	1	<ul style="list-style-type: none"> ○約束づくり ・場の準備や片づけの仕方 ・安全の約束の確認 ・グループ決め ○感覚づくりの運動 ・くまあるき ・アザラシあるき ・シャクトリムシ ・うさぎとび など 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れやルールについて随時指導する。 ・用具の準備の仕方や片づけなどのしかたを確認する。
	2・3 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> ○感覚づくりの運動 ○いろいろな転がり方をする場 ・ゆりかご ・まるたころがり ・前ころがり・<u>後ろころがり</u> ○巡回して取り組む ・感覚づくりの運動を組み合わせた場 ・いろいろな転がり方をする場 	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲をもち、楽しく活動ができるよう助言する。 ・本時で取り組む動きのポイントを全体で確認し、ポイントを意識して運動できるようにする。 ・グループの友達と協力して安全に運動ができるよう、適宜助言やアドバイスを行っていく。
やってみる	4・5	<ul style="list-style-type: none"> ○感覚づくりの運動 ○川跳びの場・かえるの足うち ・川とび ○壁登り逆立ちの場 ○巡回して取り組む ・感覚づくりの運動を組み合わせた場 ・いろいろな転がり方をする場 ・川跳びの場 		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・よい動きや工夫した動きを賞賛し、全体へと広げていく。

ひろげる	6・7	○感覚つくりの運動 ○壁登り逆立ちの場 ○巡回して取り組む ・感覚つくりの運動を組み合わせた場 ・いろいろな転がり方をする場 ・川跳びの場 ・壁登り逆立ちの場	○	◎	・ふり返りタイムでは、楽しかったことやできるようになったことをふり返るようにする。
------	-----	---	---	---	---

9. 本時の指導 (3/7)

(1) 本時の目標

いろいろなマット遊びとともに、後ろ転がり遊びをすることができる。

(2) 授業仮説

場の設定や掲示物を工夫したり、本時の動きのポイントを焦点化したりすることで、児童が遊びながらもポイントを意識した運動や教え合いができるであろう。

(3) 準備するもの

・マット ・掲示物 ・ラジカセ ・ペン ・ワークシート ・鉛筆 ・リストバンド

(4) 本時の展開

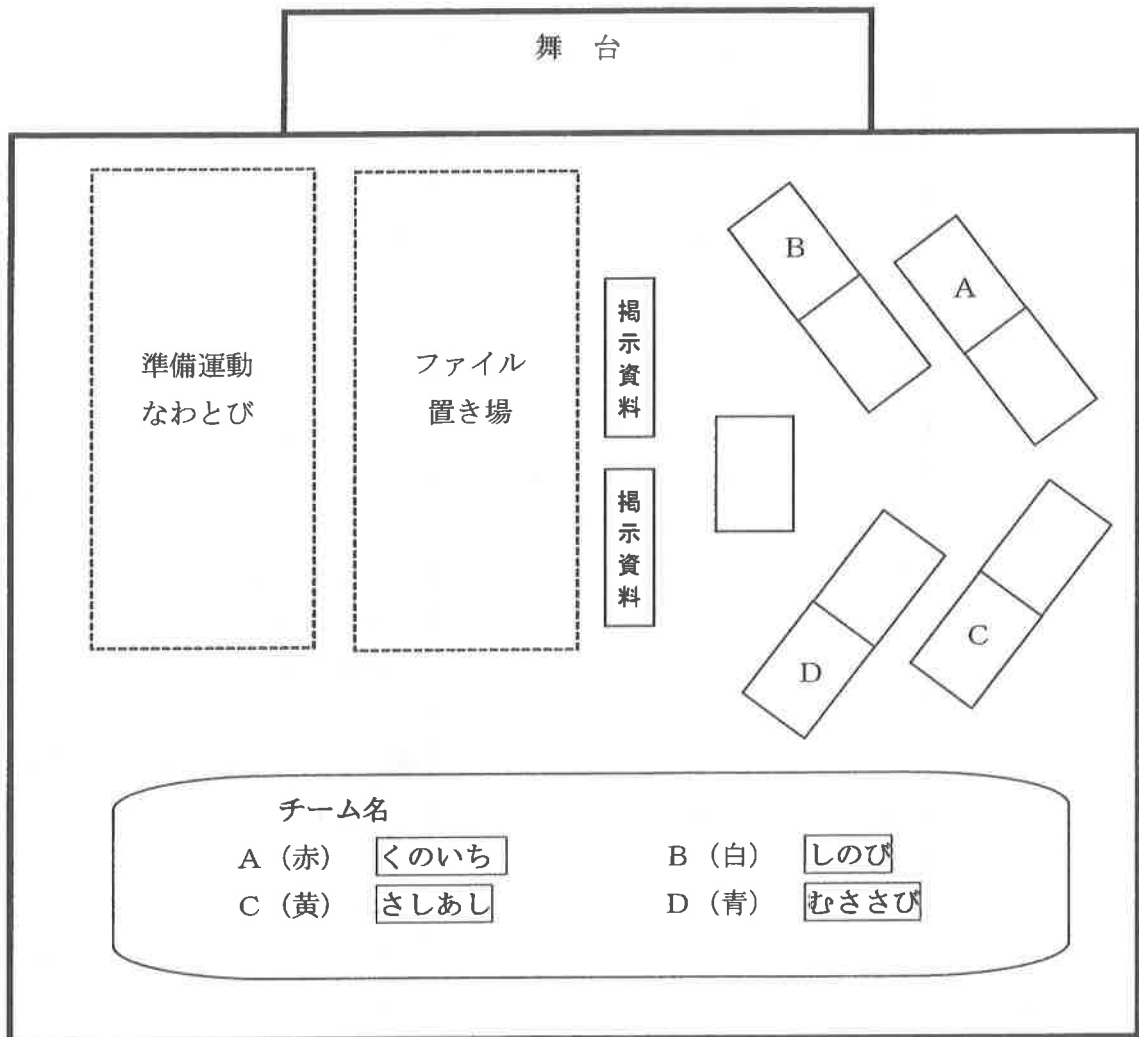
学習過程	学習内容・学習活動	○T1の支援と留意点 ●T2の支援 ◇【評価の観点】
導入 (10分)	①ウォーミングアップ (5分) 準備体操 ・ジンギスカン体操 ・ストレッチ ・なわとび体操	○音楽に乗りながら正しく体を動かせるよう、確認しながら運動させる。 ●行動が遅れる児童を支援する。
	②めあての確認 (5分) 本時のめあてを確認する。 うしろころがりのじゅつができるようになるろう。	○めあてを確認し、練習の仕方やルールを確認する。
展開 (27分)	③基礎運動 (4分) 本時の動きにつながる運動をする。 ・くまあるき ・くもあるき ・あざらしあるき ・うさぎとび ・ゆりかご ・まえころがり	○動きのポイントを可視化し、ポイントを確認しながら取り組めるようにする。 ○音楽を流しながら、意欲的に運動できるようにする。 ◇【態】きまりを守り、仲よく進んで運動に取り組んでいるか。 (観察)

	④ チャレンジ 運動1 (3分)	後ろ転がりの練習をする。	○チームごとに練習させる。 ●危ない動きをする児童に対して支援する。
	⑤話し合い (5分)	後ろ転がりのポイントを考える。 ① 目はどこを見る？ ② 手はどうする？ ③ どんなふうに転がる？ (予想される児童の反応) ① おへそを見る。 ② 顔・耳のよこにつける。 ③ 勢いをつけて (おなかに力を入れて) 「ころりん」と転がる。 ※手はパーで着き、マットを押す。	○動きのポイントを焦点化し、児童に発表させる。 ○児童の意見を吹き出しに書き、掲示する。 ●話し合いに集中できない児童を支援する。 ◇【思】 友達の発表を聞きながら動きのポイントを考え、理解しているか。(発言・観察)
	④ チャレンジ 運動2 (15分)	ポイントを意識して後ろ転がりの練習をする。 (坂あり・坂なし) 全体で動きを交流する。	○チームごとに練習させる。 ○できない児童は、坂のマットで練習させる。 ○友達同士で教え合えるように助言する。 ●できない児童に対して支援する。 ◇【思】 ポイントを意識しながら教え合っているか。(観察) ○前より上手くできるようになった児童を発表させ、ポイントの再確認をする。
まとめ (8分)	⑤ 振り返り (8分)	本時のめあてをふり返る。 ・自己評価し、出来た喜び次時への目当て等を書く。 ・今日のキーワードと、次時のめあてを伝える。	○ワークシートに記入させ、発表させる。 ●書けない児童を支援する。

10. 評価

いろいろなマット遊びとともに、後ろ転がり遊びをすることができたか。

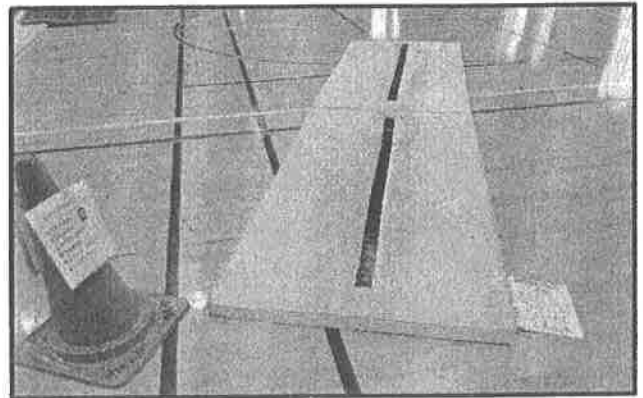
11. 場の設定



(授業の様子)



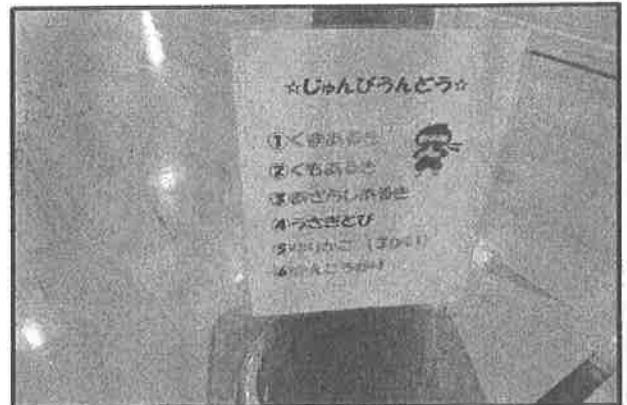
スーパーにんじやに変身しよう！



マットの中心を意識しよう



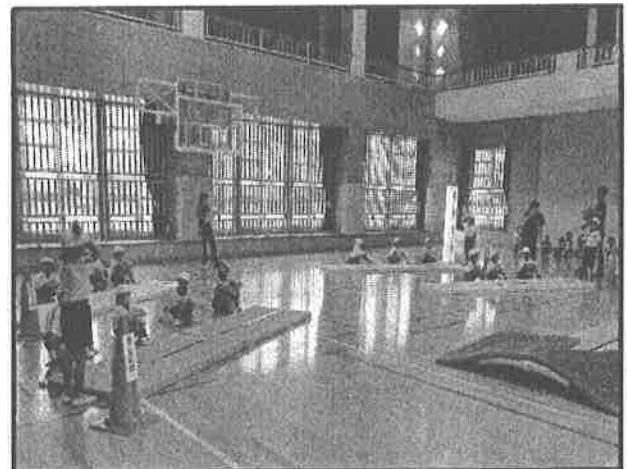
シンギスカン体操後になわとび体操



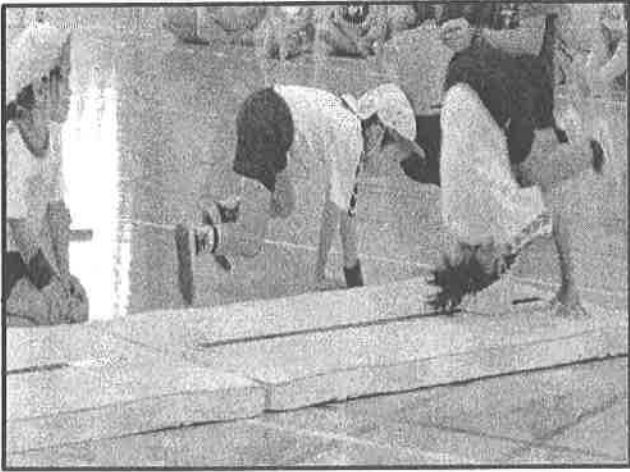
グループで自主的に準備運動



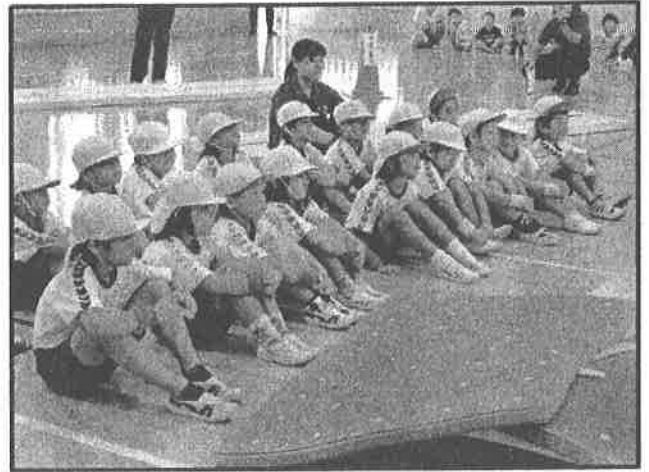
上を見て「くもあそび」



工夫した場の設定



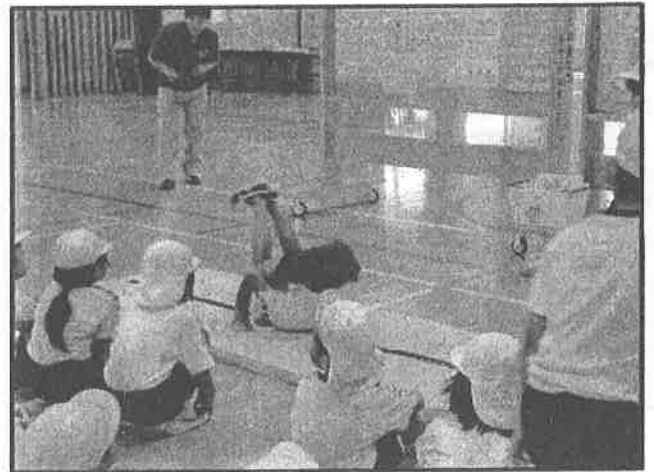
前時「前転がり」の復習



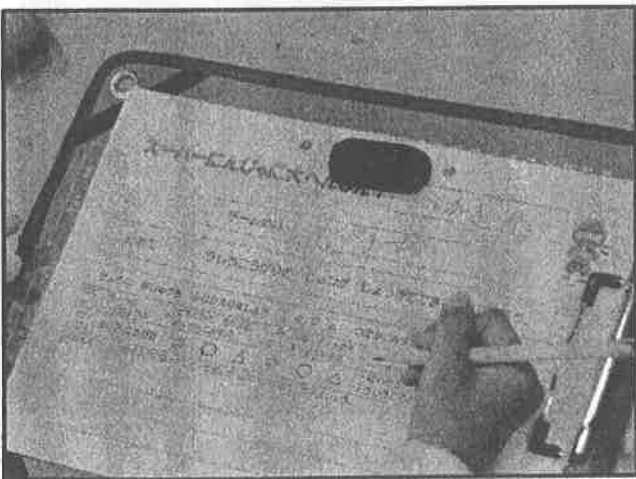
動きのポイントを全員で確認



補助マットを使っでの練習



友達の技のよさをみんなで共有



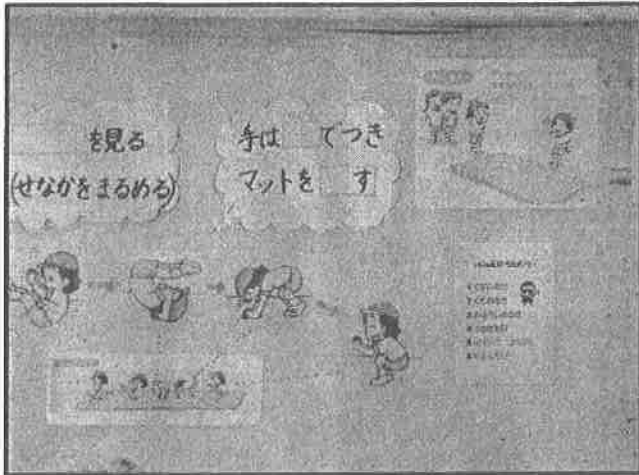
ワークシートで自己評価



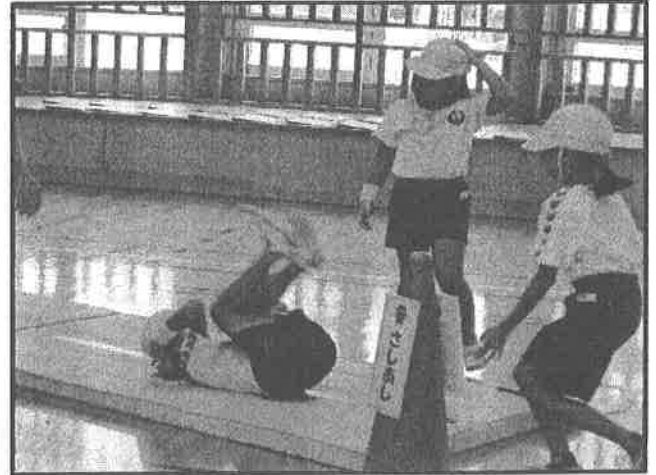
ふり振り返り・感想を発表

(成果)

- ① 1年生は、2学期から他学年同様にみやびいスタイルで授業に取り組むことができた。
- ② 「スーパーにんじゃになる」という設定で、マット運動が苦手な子も楽しく取り組むことができた。
- ③ グループ練習の際、安全面の配慮で「どうぞ」「はい」の言葉かけの徹底ができた。
- ④ 動きのポイントを吹き出し形式で掲示し、全体で確認することで、ポイントを意識して練習する姿が見られた。

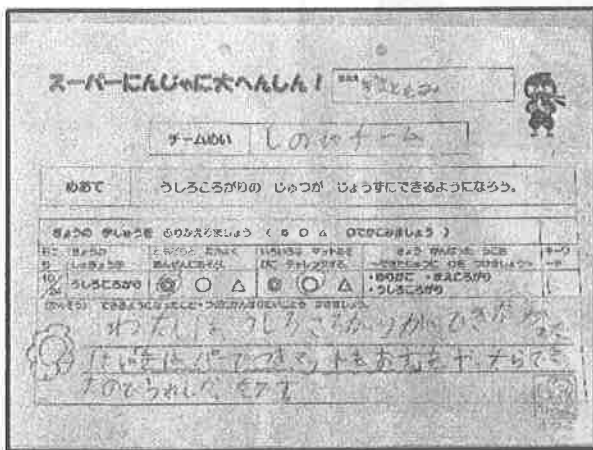


うしろ転がりのポイントを吹き出しで確認



ポイントを意識したグループ練習

- ⑤ 動きのポイントに合ったふり返りをすることができた。



(課題)

- ① 話し合い・学び合いを充実させる工夫が必要（児童から出た言葉を拾う）。
（※教師が意図しておさえない言葉を児童が理解している言葉から拾う。）
- ② グループ練習の際，リーダーを中心に児童同士で教え合う（動きの良さを認め合う）役割分担ができるようになるとうい。

(児童の変容)

- ① 本単元の最後に「スーパーにんじゃ大会」を開き，スーパーにんじゃに選ばれた児童は，自信をつけ，他の学習においても自信を持ってがんばる姿が見られるようになった。選ばれなかった児童も，「スーパーにんじゃバッジ」をもらうことで，他の運動にも意欲的に取り組むようになった。



スーパーにんじゃに選ばれた7人 各グループのリーダーとしても大活躍！！

- ② 各教科のふり返しにおいて，ポイントをおさえて文章を書けるようになってきた。
- ③ 体育以外の学習においても，リーダーを中心に，積極的にグループ学習が進められるようになってきた。
- ④ 話し合いをすることで，児童同士のコミュニケーション能力が高まった。
（※これまで友達の言葉を素直に受け入れられなかった児童が，素直に受け入れられるようになってきた。）
- ⑤ 道徳の授業において，「友達のいいところを見つけよう」では，友達の個性（よさ）をたくさん見つけ，認めることができるようになってきた。

第2学年 授業実践

領域「E ゲーム ア.ボールゲーム」

単元名「ボール蹴りゲーム キックベースボール

～ボールとどっちが早いかな～



第2学年体育科学習指導案

平成30年 7月11日(水) 5校時
2年1組 男子6名 女子15名 計21名
授業者 白金 晴香 印

1. 領域・単元名

領域 「E. ゲーム」

単元名 「ボールけり キックベースボール ～ボールとどっちが早いかな～」

2. 単元の目標

(1) 蹴る・止める・当てるなど、簡単なボール操作をし、攻めと守りのあるゲームをすること。

【E(1)ア 技能】

(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにすること。

【E(2)態度】

(3) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにすること。

【E(3)思考・判断】

3. 単元について

(1) 学習指導要領の記述

本単元は、学習指導要領第1学年・第2学年の目標である

①運動

(1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身につけるようにする。

ア. ボール運動では、簡単なボール操作と攻めや守り方の動きによって、易しいゲームをすること。

②思考・判断

(2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友だちに伝えること。

③態度

(3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気をつけたりすること。

(2) 運動の特性

①一般的特性

2つのチームが攻撃と守備を交代し合い、ボールを足でけて、塁をとったりとられたりしないようにして得点を競い合う集団ゲームである。チームが勝ったときはもちろん、負けても自分が塁に出たり、好プレーをしたりしたときなどに楽しさを感じる。

②児童からみた特性

ベースボール型ゲームのおもしろさは、「ボールと打者（ボールをける攻撃側の人）のどちらが早く塁をとれるか」である。打者は、ボールよりも早く塁についてセーフになることができるか、守りは、ボールを受けたり塁に投げたりして、打者や走者をアウトにすることができるかどうかの攻防がおもしろい。

(3)教材観

ボールけり遊びは1年生で経験しているが、ベースボール型ゲームは初めての学習である。技能的には、まだ男女差や個人差は少ないが、ルールの理解や興味の中で幾分男女差が見られる。また、少数ではあるが、飛んでくるボールを怖がる子どももいる。そこで、慣れるまではできるだけ柔らかい軽量のボールを使用したり、空気を抜いたりして使うなど、恐怖心を和らげる工夫し、配慮していく。

4. 児童の実態

【体育事前アンケート結果】

(6月25日 実施 21人)

①運動は好きですか？

	すき	まあまあすき	あまりすきではない	すきではない
男子	6人	0人	0人	0人
女子	15人	0人	0人	0人
クラス	21人	0人	0人	0人
すきなところ				
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすのが好き ・楽しいから ・走るのが好き ・ボール遊びが好き ・体を動かすと健康にいいから ・汗をかくと気持ちいいから ・パワーが出る ・運動すると目が覚める ・運動するとすっきりする ・ジンギスカン体操が楽しい ・鉄棒が得意だから 				

②体育の授業は楽しいですか？

	たのしい	まあまあたのしい	あまりたのしくない	たのしくない
男子	6人	0人	0人	0人
女子	15人	0人	0人	0人
クラス	21人	0人	0人	0人
たのしいところ				
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことがあるから ・跳び箱や鉄棒が楽しいから ・おもしろいから ・泳ぐのが楽しい ・いろいろな授業をするから ・プール、泳ぐのが楽しい ・体をいっぱい動かせるから ・いろいろできるようになるから ・なわとびがすき ・先生がみんなにわかりやすく教えてくれるから ・ペアラジオ体操やジンギスカン体操が楽しいから 				

③ボール遊びは好きですか。

	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	きらい
男子	6人	0人	0人	0人
女子	15人	0人	0人	0人
クラス	21人	0人	0人	0人
好きなボール遊び（複数回答可）				
・ドッジボール（17人） ・インベーダーゲーム（6人） ・サッカー（6人） ・あておに（4人） ・ドッジビー（3人） ・野球				

【考察】

本学級は、男子6名、女子15名と女子が多い学級である。鬼ごっこが好きな児童が多く、休み時間には外に出て鬼ごっこなどを楽しんでいる児童が多い。アンケート結果から、ボールをつかう好きな遊びは、ドッジボールとあげる児童が多く、サッカーは5人と少ない。このことから、ボールを投げたりキャッチしたりすることが好きな児童が多く、ボールを蹴って遊ぶことが身近でないことがわかった。また、キックベースボールというゲームを知らない子がほとんどである。2年生という発達段階と、普段の児童の様子から考えても、ボールを足で操作することは大半の児童にとっては困難であると予想できる。しかし、静止しているボールを蹴ってベースに向かって全力で走る、という一連の動きについての理解は容易であると考えられる。

指導に際しては、軽量ボールなどの易しい条件で、練習や学級の実態に合わせた簡易化されたゲームを児童に提示し、特性に応じた楽しさやできた喜びに十分触れられるようにする。

5. 研究主題との関わり

(1) 研究主題

『運動に親しみ進んで体力づくりに取り組む児童の育成』
 ～各領域におけるスタイルの確立と互いを高め合う学び合いを通して～

(2) 研究仮説

体育の授業において、以下の手立ての工夫を実践することにより、運動の楽しさやできる喜びを味わうことができ、運動に親しみ進んで体力づくりに取り組むようになるであろう。

- ① 45分の授業時間の中で、運動量を確保しながら各領域における授業スタイルを確立する。
- ② 個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫する。

(3) 研究の視点

① 各領域における授業スタイルの確立

- ・ 45分の授業時間の中で、各領域や単元に合わせ、活動時間を5分から15分程度のまとまりにし、集中力が持続するようにタイムマネジメントを工夫する。

②学び合いの場の工夫

- ・個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫し、充実させることで、自分や友だち、チームの動きに気付き、運動の技能を向上することができ、達成感や成就感を味わい、「できる喜び」感じることができる。

(4) 授業スタイルについて

4 5分完結型授業「ボール運動みやびいスタイル」

学 習 過 程		時 間	活 動 内 容
①	ウォーミングアップ	5分	・ジンギスカン体操やペアラジオ体操, なわとび, 単元の運動に適したストレッチなど
②	めあての確認 学び合い①	5分	・学習のめあての提示 ・主運動のポイントの確認 ・チームのめあてを立てる →自分（個人）のめあてを立てる
③	準備（単元に応じて）	（3分）	・安全に素早く，協力して，本時の準備をする
④	基礎運動	5分	・本時の運動に合わせた基礎運動 ・サーキット運動や基礎感覚作りとしての類似運動を取り入れた運動など
⑤	チャレンジ運動① ※単元や児童の実態に合わせて活動の仕方を計画する	10分	・個やペア，グループ，習熟度別など，学習形態を工夫し，主運動に挑戦する
⑥	学び合い②	5分	・チャレンジ運動①での活動やそれぞれの動き，できたこと，できなかったことなど，チーム等での動きを確認し話し合う
⑦	チャレンジ運動②	10分	・グループで協力して学び合ったことを実践しながら，主運動を行う
⑥	めあての振り返り	5分	・めあてをふり返る ・チームの課題や自分の課題について考え，次時につなげる
⑦	片付け（単元に応じて）	（3分）	・安全に素早く，協力して，安全に片付けをする

※ボール運動の領域では，スタイルの中にグループで協力したり教えあったりする学び合いの場を設定。

(5) 単元における手立て

- ①低学年の実態に応じたボール蹴りゲームに合った展開を考え，授業スタイルを確立する。
- ②攻め方や守り方，ボールの蹴り方など，掲示物を充実し，やってみいたいという意欲を高める。
- ③グループで協力したり教えあったりする場を設定し，技能の質を高める。

6. 指導にあたって

足でボールを扱うゲームは初めてなので、「基礎運動」では、柔らかいボールなどで色々な蹴り方で、運動のもととなる易しい技能を身につけられるようにする。

「チャレンジ運動」では、学級の実態に合わせたルールを確認し、場や規則、学び合い（話し合い）の場の設定などを工夫して、友だちと協力し仲よくゲームができるようにしていく。

7. 単元の評価規準

単元 の 評 価 規 準	(運動への) 関心・意欲・態度	(運動についての) 思考・判断	(運動の) 技能
	<ul style="list-style-type: none"> ゲームの勝敗を楽しみながらも、進んでボール蹴りに取り組もうとしている。 友だちと協力して、用具の準備や後片付けをしようとする。 規則を守り、仲間と励まし合いながら練習やゲームをしたり、勝敗を素直に受け入れようとする。 場の危険物を取り除いたり用具の安全をたしかめたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ボール蹴りゲームの行い方を知り、楽しくゲームができる場や得点の方法などの規則を選んでいる。 ボール蹴りゲームの動き方を知り、攻め方を工夫してゲームに生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらったところボールをおもいっきり蹴ることができる。 蹴る、止める、当てるなどの簡単なボール操作をし、易しい遊び方でゲームをすることができる。

8. 単元計画と評価計画

段階	時間	主なねらい・学習活動	評価規準 (重きを置く観点)			教師の指導・支援
			関	思	技	
やってみる	1	学習のめあてと道筋を理解し、学習の進め方について見通しを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> めあての確認 グループ分け (5 / 5 / 5 / 6) 役割分担 約束やルールの決め方 コート の 作り 方 	◎			<ul style="list-style-type: none"> 本時で取り組む動きのポイントを確認する。 学習の流れやルールについて随時指導する。

	2 ・3 【本時】	塁をとったりとられたりしないように工夫して、キックベースボールをする。 ・ルールの確認 ・簡単な練習 ・静止したボールを蹴る ・向かってくるボールを捕る／止める ・一塁へ向かって思い切り走る		◎	○	・用具の準備の仕方や片づけなどのしかたを確認する。 ・グループで活動し、お互いに協力できるようにする。
ひろげる	4 ・5 ・6	チームで攻め方・守り方を工夫して、キックベースボールをする。 ・新しいルールの確認 ・簡単な練習 ・工夫した攻め方 ・守り方の確認 ・対戦チームの確認 ・自分のチームに必要な練習 ・チームごとに作戦を考える		◎	○	・ゲームの中で、ルールを守り、けがなく楽しく運動できるよう助言する。 ・チームで活動し、お互いに協力できるようにする。 ・今まで学んだ動きを取り入れて、チームで楽しく遊べるようにする。

9. 本時の指導「キックベースボール」(3/6)

(1) 本時の目標

止まったボールをねらった方向に蹴る工夫をすることで、楽しくキックベースをすることができる。

(2) 授業仮説

ボールの蹴り方を教え合うことにより、ねらったところにボールを蹴ることができ、ゲームを楽しむことができるであろう。

(3) 準備するもの

・ボール ・ホームベース ・カラーコーン ・CD ラジカセ

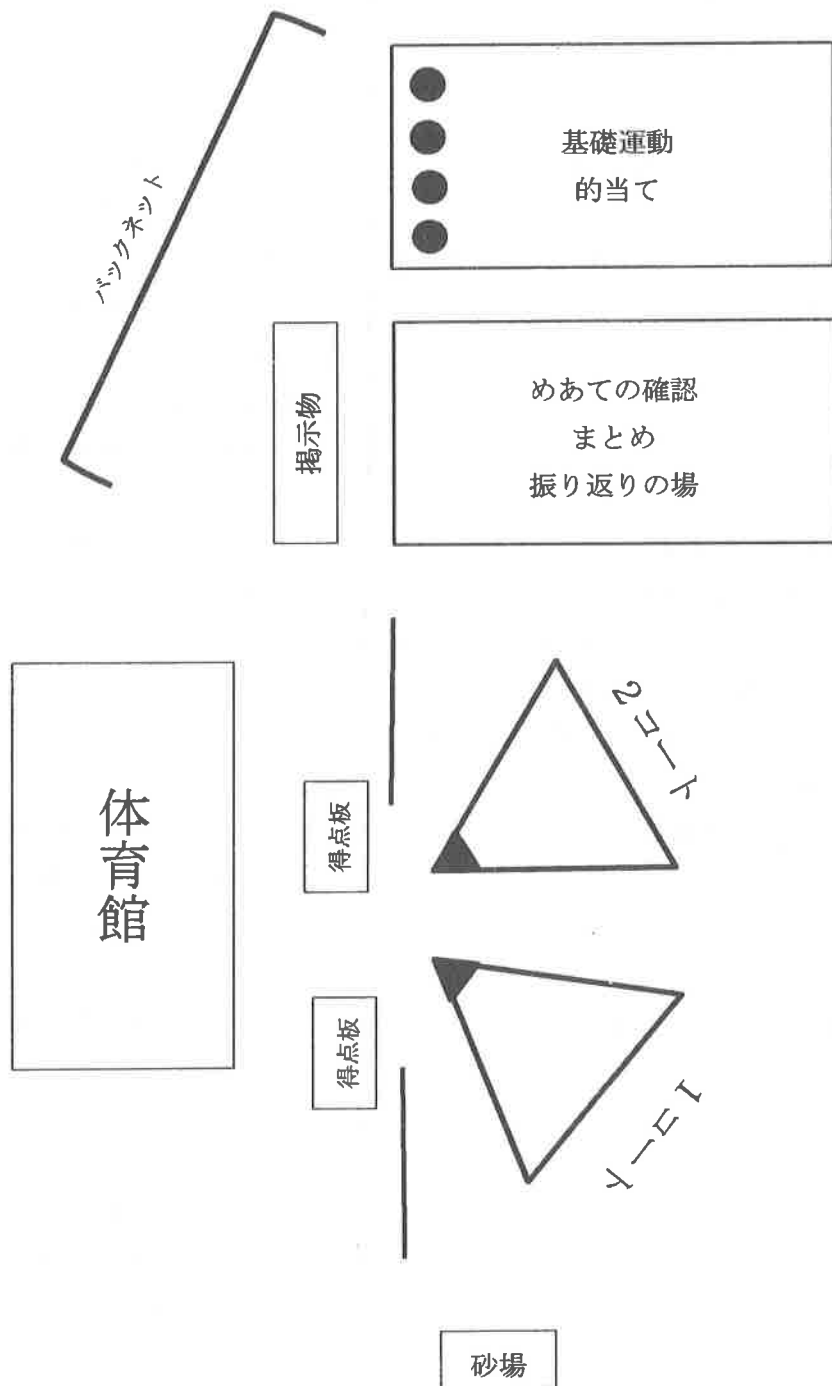
(4) 本時の展開

	学習過程	学習内容・学習活動	○個に応じた支援と留意点 ◇【評価の観点】
導入 (10分)	①ウォーミングアップ (5分)	準備体操 ・ジンギスカン体操	○音楽に乗りながら正しく体を動かせるよう、確認しながら運動させる。
	②めあての確認 (5分)	本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ねらったところへボールをけるくふうをして、キックベースボールをしよう。</div>	○めあてを確認し、練習の仕方を確認する。
展開 (30分)	③基礎運動 (5分)	ボール慣れの簡単な練習をする。 ・まとあてゲーム カラーコーンを的にして、まとあてゲームをする。	○初めてのボールキックは、ボールを足のつま先でける児童が多いと思われるが、足の内側でける(インサイドキック)か得意な児童は足の甲でける(インステップキック)がねらったところにけりやすいことを説明し、意識して練習するように助言する。
	④チャレンジ運動1 (10分)	第1ゲームをする。 ・1塁のみを設ける ・チームの全員(6人)がけり終えたら攻めと守りを交代する。 ・1塁で折り返し、本塁まで戻れたら1点	○チームごとに分かれ、各コートでゲームをさせる。
	⑤話し合い (5分)	話し合いや練習をする。	○ねらったところへボールをけるにはどのようにボールをけるとよいかについてチームごとに話し合いをさせる。
	⑥チャレンジ運動2 (10分)	話し合ったことを活かし、キックベースボールをする。	○チームごとに分かれ、各コートでさせる。 ◇ねらったところへボールをけることができたか。
まとめ (5分)	⑥振り返り (5分)	本時のめあてをふり返る。 ・個人での振り返り ・振り返りの発表	○ワークシートを使って、できたこと、よかったことを記入させる。 ◇ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームができたか。

10. 評価

止まったボールをねらった方向に蹴る工夫をすることで、楽しくキックベースをすることができたか。

11. 場の設定



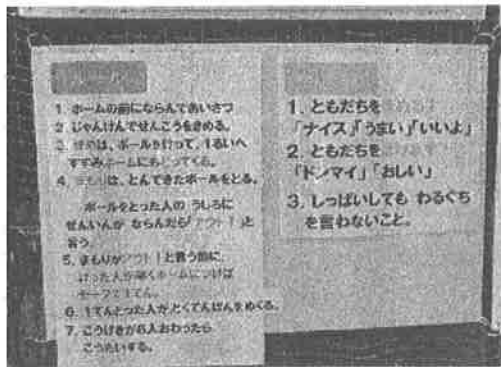
I. 授業の様子



基礎運動：まとあてゲーム



ルールの確認



ルール



試合前のあいさつ



どっちが早いかな？



ボールを取った人の後ろにならんで「アウト！」



チーム → 個人でふりかえり



ふりかえり発表

II 授業研究会

1. 授業者の反省

- ・みやびスタイルがあることで、授業の流れが決まっているので、授業が進めやすかった。児童も流れを把握できていたので、動きやすかった。
- ・ベースボール型なので運動量が心配だったが基礎運動を的当てにし、運動量の確保ができたと思う。
- ・一塁のベースランニング（往復）、守りは、ボールを取った子の後ろに全員が肩を組んで並んでアウト！を採用したルールでゲームを楽しんだ。
- ・子どもの意欲も増してきて、塁を増やしたりルール変更したり、次へステップアップできそう。

2. グループ研究協議

◎成果

- ・規律や児童同士の声かけ：グッジョブ・ナイス・いいね！・「～した方が、いいよ」・拍手
- ・2年の実態に合ったルール
- ・タイマーの活用
- ・スケジュールの掲示
- ・ワークシートの振り返り：3行多くもなくちょうど良い

△課題

- ・振り返りの視点
- ・守備の位置が近い
- ・蹴り方の視点 ・見本の視点
- ・狙うのはどこを狙うか ・コーンの距離が適切だったか
- ・ボールと軸足の位置 ・守備が近い ・学び合いの視点
- ・児童同士もめたらどうする？
- ・振り返りの視点 ・指導案に明記
- ・ねらったところは、「人がいないところにける」を子どもに落とす
- ・評価

○改善策

- ・助走をつけると遠くに蹴ることができる。
- ・基礎運動と主運動の関係性を生かし、まとあてではなく、コーンの隙間を狙ったほうがいいのでは。
- ・児童のよい蹴り方に〇〇キックと名前を付けると、親しみをもってボールを蹴る際のポイントをおさえ、技を高められる。

3. 指導助言（小林 弘樹先生）

- スムーズな流れができています。スタイルの確立し、児童に定着している。
- めあて手立てスタイルなどに整合性がある。
- アンケートから見える実態
 - ⇒◎運動が好きな児童 100%
 - ⇒▲蹴る運動として、サッカーが身近に行われずにいる。
- 男女比のアンバランスは気にならない。
- 2年生のボールを蹴る運動にしては、レベルが高い。
- ゲーム要素があり、児童の興味関心が引き出させる工夫がある。
- 学び合いを促進する、チームの良さ。
- 本時の目標が達成されていたか。
 - ⇒◎キックベースボールを楽しんでいた。
 - ⇒▲狙ったところに蹴ることにについては工夫が必要。
- 学び合いの場 … みやびいスタイルの設定が子ども達に落ちている。
- 基礎運動と主運動 … コーンにあてる→主運動は的に当てるのではなく隙間をねらうので、基礎運動でも隙間をねらう運動をした方がいい。
 - ⇒ 隙間を創り出す設定→作戦→実行→守りの作戦
- 学び合い … 視点の焦点化 ゲームの場面で、空いている所を狙ったのか、狙おうとしたのか。
- 成果を実感させる振り返り … 楽しかったなどのうわべの感想が多かった。
 - 「何をしたからどうけることができてどうなった。」
 - セルフジャッジのしかた：タンバリンなどの音でセーフを判定
 - 聴覚視覚で判定する工夫
- 一単位時間のみやびいスタイルの良さ◎
- 一次では、ルールや基礎技能の定着。
- 二次の単元計画のスタイルもどうか？ゲーム → 作戦など

Ⅲ成果と課題

【成果】

- ・体育の学習を通して、ルールの徹底・学習規律が良くなり学級経営にもつながった。
- ・みやびいスタイルに合わせて授業を進めることで、児童が授業流れを覚え、スムーズに授業を進めることができた。
- ・児童同士で、ほめたり、励ましたりの声かけがあり、児童同士の人間関係も良くなった。
- ・蹴ることが得意な子が蹴り方のアドバイスをし、児童同士で教え合う姿が見られた。

【課題】

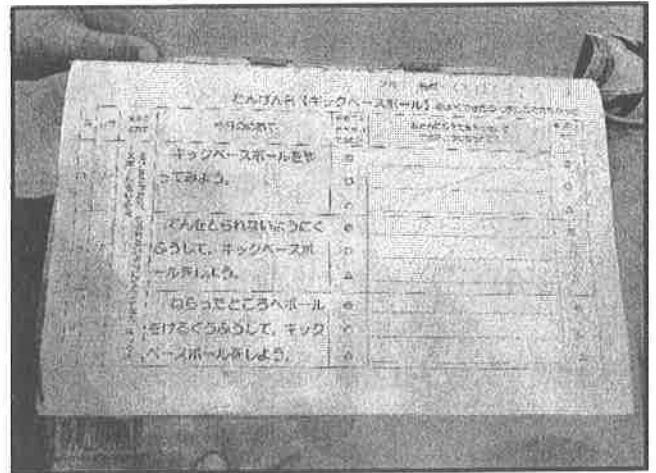
- ・学び合いの際の話合いの進め方，視点などを明確にする。
- ・児童をどう見取り，評価するか。
- ・児童の実態に合ったコート（ホームから塁への距離など），場の設定をする。

【児童の変容】

- ・学習規律・ルールの徹底ができ，話の聞き方など，授業態度が良くなった。
- ・児童同士の良いところを見つけることができるようになった。
- ・チームを意識し，チーム力を発揮するようになった。
- ・勝敗にこだわる児童がいたが，勝敗に関係なく，ゲームを楽しめるようになった。
- ・友達にアドバイスできる児童が増えた。



聞く姿勢もびしゃっと！！



ワークシートも自分の言葉で書けるように。

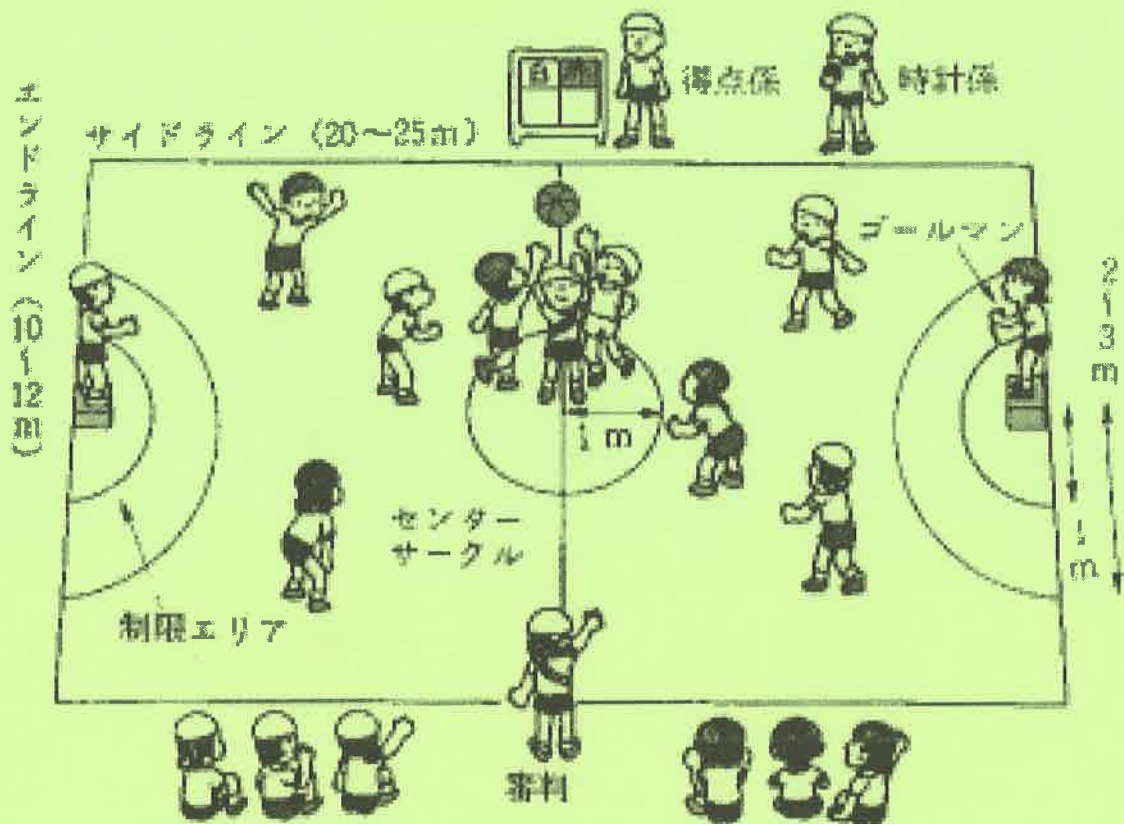


教え合い，学び合う姿も。

第3学年 授業実践

領域「E.ゲーム ア.ゴール型ゲーム」

単元名「ポートボールゲームを楽しもう」



I. 指導案

第3学年体育科学習指導案

平成30年 12月12日(水) 5校時
3年1組 男子15名 女子8名 計23名
授業者 根路銘 結奈 印

1. 領域・単元名

領域 「 E. ゲーム ア. ゴール型ゲーム 」
単元名 「 ポートボールゲームを楽しもう 」

2. 単元の目標

- (1) 基本的なボール操作やボールを持たないときの動きができる。 【E(1) ア 技能】
(2) きまりやルールを守り、協力してゲームをしようとしている。 【E(2) 態度】
(3) 自分や友達の良さを見つけて、ゲームに応じた簡単な作戦を選んでいる。 【E(3) 思考・判断】

3. 単元について

(1) 学習指導要領の記述

学習指導要領解説体育編「ゲーム及びボール運動」第3学年・第4学年の目標

①運動

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。

②態度

(2) 運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気をつけたりすることができるようにする。

③思考・判断

(3) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。

(2) 運動の特性

①一般的特性

ゴール型ゲームは、コート内で攻守が入り交じり、手や足などを使って攻防を組み立て、一定時間内に得点を競い合うことを課題としたゲームである。手を使ってゴールにシュートすることを競い合うハンドボールやポートボールなど、足を使ってゴールにシュートすることを競い合うラ

インサッカーやミニサッカーなど、陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むことを競い合うタグラグビーやフラッグフットボールなどがあげられる。

ポートボールは、ボールを手で操作したり、空いている場所に素早く動いたりして、攻守が入り交ってゲームを行うことをねらいとする。しかし、発達の段階を踏まえると高度な技能を求めてゲームを行うのは難しい。そこで、このゲームは、比較的少人数で、身体接触を避け、用具や場の設定などを工夫することによって、ボール操作の機会が多く、簡単なボール操作で取り組みやすいように易しくしたゲームである。

②児童からみた特性

チームの仲間と協力して、攻め方や守り方を工夫することで、楽しさが生まれる運動である。その反面、自分がチームの一員として頑張ったという意識が生まれないと意欲を失ってしまう運動ともいえる。

(3)教材観

ボール運動の動きは、「ボールを持った時のボール操作の技術」と「ボールを持たない時の動き」に分けることができる。ゲーム中の子どもたちの動きは、「ボールを持たない動き」が大部分を占める。このバスケットボール型ゲーム及びバスケットボールの学習では、パスやシュート等の基本的な技術の習得と同時に、ゲームを通して「どこに動けばいいか」を身に付けられるように設定していく。また、個人ではなくチームで協力して点数を決めたり作戦を考え守備を成功させたりできる楽しさが味わえる教材である。勝つ喜びだけでなくチームで協力する楽しさを感じられるような工夫を行っていき、他のゴール運動やボール運動等の学習に生かせるようにしていきたい。

4. 児童の実態

【体育事前アンケート結果】

(11月26日実施 23人)

①運動がすきですか。

	すき	まあまあすき	あまりすきではない	すきではない
男子	11人	3人	1人	0人
女子	7人	1人	0人	0人
クラス	18人	4人	1人	0人
	すきなところ		すきでないところ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいから ・体が温まるから ・挑戦できるから ・おもしろいことがおきるから ・運動したら気持ちがいいから ・動くことが好きだから ・体がやわらかくなるから ・みんなで楽しめるから 		<ul style="list-style-type: none"> ・おなかが痛くなったり、ケガしたりするから ・少し苦手なものがある 	

②体育の授業は好きですか。

	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
男子	10人	5人	0人	0人
女子	7人	0人	1人	0人
クラス	17人	5人	1人	0人
好きなところ			好きでないところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいから ・先生がやさしく教えてくれるから ・できないのがどんどん上手になってくるから ・好きな運動ができるから ・みんなでアドバイスして助け合えるから ・めあてとか達成するとうれしいから ・にがてなことができるから 			<ul style="list-style-type: none"> ・よくけんかになるから ・苦手なものがあるから 	

③ボール運動は好きですか。

	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
男子	15人		0人	
女子	8人		0人	
クラス	23人		0人	
好きなところ (2つまで解答可)			好きでないところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・試合が楽しい⑮ ・みんなでできる⑦ ・シュートやパスが楽しい④ ・ボールを使うのが好き⑧ ・勝つとうれしい⑥ 			<ul style="list-style-type: none"> ・ルールがめんどう① 	

④体育の授業で教え合う (学び合う) ことは好きですか。

	好き	好きではない
男子	13人	2人
女子	5人	3人
クラス	18人	5人

⑤これまで体育の授業で友達と教え合っできるようになったことはありますか。

	はい	いいえ
男子	15人	0人
女子	8人	0人
クラス	23人	0人
できるように なったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動 (後転, 開脚前転, 開脚後転, かべ倒立, 側転, 起き上がる姿勢) 	

⑥体育の授業で教え合い（学び合い）は必要だと思いますか。

	はい	いいえ
男子	15人	0人
女子	8人	0人
クラス	23人	0人
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合って、後転ができるようになったから。 ・教え合ってみんなができるようになったから。 ・どんどん上手になってくるから ・教え合ってできたらうれしいから。 ・できない人が教え合わなかったらできないままだから ・苦手なものもできるようになるから ・学び合わないといろいろなことができなくなる。 ・ただ練習してもできるようにならないから ・けがの防止につながる ・自分の悪いところを言ってもらえるから。 	

【考察】

本学級は普段の学校生活でも男女ともに活発で、昼休みには外で体を動かして遊ぶ児童がほとんどである。アンケートの結果からも、「運動が好き」と答える児童がほとんどであった。体育の授業に関しても同様である一方、けがや友達ともめるなどの経験や苦手な運動がある児童は運動や体育の授業に抵抗があるといえる。どの児童も楽しく運動に取り組み体育の授業に参加するためには、安全面の指導を徹底し、けがを防ぐことに合わせて、勝敗にこだわるのではなくチームで協力することの良さや運動そのものの楽しさ、学び合い高め合えることの素晴らしさに児童が気づくことができるよう、授業を展開していくことが重要である。

ボール運動について、本学級の児童は全員が「好き」「まあまあ好き」と答えている。試合そのものの楽しさに加え、ボール運動の楽しさやチームで協力できる良さをこれまでに味わってきているといえる。また、勝ったときのうれしさやシュートやパスなどの技能面の上達に楽しさを感じる児童もあり、本教材を通して基礎・基本的な技能面の習得とボールゲームの特性を生かしチームで楽しめるような仕組みづくりが必要である。そのなかで、複雑なルールではなく児童の実態に合わせたルールをみんなです話し合いながら設定していく。

学び合いについて、「あまり好きではない」「好きではない」と答える児童が数名いるが、学び合いの必要性は全員が感じていることが結果から分かった。特に、技能面の習得においてその必要性を感じた児童が多く、本単元においても教師は積極的に学び合う場を設定し技能面の習得、主体性、協調性の向上を図っていきたい。

以上のことから、本単元では、チームで協力し勝敗にこだわらないボール運動の楽しさを味わえるよう、学び合いを通して運動の技能を高め合ったり、みんなで話し合いながらルールを工夫したりしてどの児童も楽しめる授業を実践していきたい。

5. 研究主題との関わり

(1) 研究主題

『運動に親しみ進んで体力づくりに取り組む児童の育成』
～各領域におけるスタイルの確立と互いを高め合う学び合いを通して～

(2) 研究仮説

体育の授業において、以下の手立ての工夫を実践することにより、運動の楽しさやできる喜びを味わうことができ、運動に親しみ進んで体力づくりに取り組むようになるであろう。

- ① 45分の授業時間の中で、運動量を確保しながら各領域における授業スタイルを確立する。
- ② 個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫する。

(3) 研究の視点

① 各領域における授業スタイルの確立

- ・ 45分の授業時間の中で、各領域や単元に合わせ、活動時間を5分から15分程度のまとまりにし、集中力が持続するようにタイムマネジメントを工夫する。

② 学び合いの場の工夫

- ・ 個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫し、充実させることで、自分や友だち、チームの動きに気付き、運動の技能を向上することができ、達成感や成就感を味わい、「できる喜び」感じることができるよう工夫する。

(4) 授業スタイルについて

45分完結型授業「ゴール型運動みやびスタイル」

学 習 過 程		時 間	活 動 内 容
①	ウォーミングアップ	5分	・ジンギスカン体操やペアラジオ体操, なわとび, 単元の運動に適したストレッチなど
②	めあての確認 学び合い①	5分	・学習のめあての提示 ・主運動のポイントの確認 ・チームのめあてを立てる →自分(個人)のめあてを立てる
③	準備(単元に応じて)	(3分)	・安全に素早く, 協力して, 本時の準備をする
④	基礎運動	5分	・本時の運動に合わせた基礎運動 ・サーキット運動や基礎感覚作りとしての類似運動を取り入れた運動など
⑤	チャレンジ運動① ※単元や児童の実態に合わせて活動の仕方を計画する	10分	・個やペア, グループ, 習熟度別など, 学習形態を工夫し, 主運動に挑戦する
⑥	学び合い②	5分	・チャレンジ運動①での活動やそれぞれの動き, できたこと, できなかったことなど, チーム等での動きを確認し話し合う
⑦	チャレンジ運動②	10分	・グループで協力して学び合ったことを実践しながら, 主運動を行う
⑥	めあての振り返り	5分	・めあてをふり返る ・チームの課題や自分の課題について考え, 次時につなげる
⑦	片付け(単元に応じて)	(3分)	・安全に素早く, 協力して, 安全に片付けをする

(5) 単元における手立て

- ①全員が楽しさを味わえるようなボールを使った簡単なゲームを毎時間のはじめに取り入れる。
- ②チームで協力したり学び合ったりする場面を積極的に設定し, 互いに高め合えるようにする。
- ③みんなが楽しめる試合にするために, ゲームを進めていく中で話し合いを持ち, 学級の実態に合ったルールづくりを行っていく。

6. 指導にあたって

ボールを持つ局面とボールを持たない局面があることから, ボール操作の技術を学習すると共に, ボールを持たない時に, どこに動けばいいかを理解できるようにする。また, ドリブルをしてボールを運ぶよりパスで回すことでゲーム全体の質が向上すると考える。よって有効なパスが出せるよう, チームの人数を3人以下にしたり, ドリブル無しのゲームを行ったりして, 子どもたちが双方の局面でも十分に運動を行えるようにしていく。

7. 単元の評価規準

(運動への) 関心・意欲・態度	(運動についての) 思考・判断	(運動の) 技能
ア. ゲームに進んで取り組み、ルールを守り、協力して運動しようとしている。 イ. 場や用具の安全に気をつけて運動しようとしている。	ウ. ルールを工夫したり、チームで作戦を選んだりしている。	エ. 基本的なボール操作やボールを持たない時の動きができる。

学習における具体的な評価規準

評価の観点/規準		目指す児童像	努力を要する子への具体的な手立て
関心・意欲・態度	①関心意欲	自分から進んで活動し、運動を楽しむことができた。	少しでもできたところや伸びたところを賞賛していく
	②協力	自分の役割を果たし協力して学習している。	一人一人が協力することで楽しく学習できることを理解させる
	③マナー	準備や片付けをし、素直に勝敗を認めたり友達によさを見つけたりすることができる。	友達によさに目を向けることで自分の活動が深まることを理解させる
	④安全	周りの安全に気を配っている。	毎時間安全についての確認をし、危険なことが予測される場合には個人的に声を掛ける。
思考・判断	①めあて	自分やチームの課題に応じためあてを立てることができる	自分のできることとできないことを確認させ、めあての立て方を確認する
	②練習の工夫	課題をもとに工夫して練習している。	どんな練習することでできるようになるか、具体的な動きを参考に考えさせる
技能	①基礎的な動き	パス・シュート・キャッチなどの基本的なボール操作ができる。	上手な子の動きを観察し、実践する。
	②攻め方	空いているところを見つけパスを出したり、受けたりすることができる。	攻撃時の空いているスペースを見つけ、走り込むように具体的な指示をする。チームメイトにフリーになっていることを知らせる
	③守り方	ボールを保持する相手をマークしたり、パスコースを予想したりして動くことができる。	スペースを埋めることや立ち位置を具体的に指示する。作戦ボードを使って動きを俯瞰させて自分の動きを考えさせる。

8. 指導計画と評価計画 ()

は活動を通して意識させ、身に付けさせたい力)

時	1	2	3	4	5 (本時)	6	7
10	単元の学習課題を明確にし、学習の流れに見通しを持つ。	【やってみる】 ボールを持つ動きと持たないときの動きを考えながらポートボールをする。		【ひるげる】 チームで攻め方・守り方を工夫して、ゲームをする			
20	・学習の進め方の場の準備や片づけの仕方 ・安全のきまりの確認 ・ルールの確認 ・ボールなれの運動の仕方	ゲームの仕方になれ、楽しくゲームができる。 【ドリル運動】 パスやキヤッチ、シュートなどの基本的な操作に慣れる運動をさせる。 【ドリル運動】 パスやキヤッチ、シュートなどの基本的な操作に慣れる運動をさせる。 慣れてきたらチームで練習する内容を考えて行う。 【タスク運動】 スペースの発見 スペースの活用	【簡単なミニゲーム】 ドリル運動で身についた技能を生かして試合につながる簡単なミニゲームを通してルールを確認していく。 ルール、試合に慣れる	ボールの運び方を工夫してポートボールゲームをする。 【ドリル運動】 パスやキヤッチ、シュートなどの基本的な操作に慣れる運動をさせる。 慣れてきたらチームで練習する内容を考えて行う。 【タスク運動】 スペースの発見 スペースの活用	チームで攻め方、守り方を工夫してポートボールゲームを楽しもう。 【タスク運動】 チームで必要な練習を行う。 【ゲーム (作戦タイムあり)】 攻め方、守り方を工夫してゲームを行う。		
30		【簡単なミニゲーム】 ドリル運動で身についた技能を生かして試合につながる簡単なミニゲームを通してルールを確認していく。 ルール、試合に慣れる		【簡単なミニゲーム】 ドリル運動で身についた技能を生かして試合につながる簡単なミニゲームを通してルールを確認していく。 ルール、試合に慣れる			
40		【簡単なミニゲーム】 ドリル運動で身についた技能を生かして試合につながる簡単なミニゲームを通してルールを確認していく。 ルール、試合に慣れる		【簡単なミニゲーム】 ドリル運動で身についた技能を生かして試合につながる簡単なミニゲームを通してルールを確認していく。 ルール、試合に慣れる			
個人やチームでの振り返り・全体での振り返り・次時へのつなぎ							
まとめ・振り返り							
評価							
関・意・態	③	①・④	②	①・③	①・③	①～④	①～④
思・判			②	②		①・②	①
技		①			②		③

9. 本時の指導 (5/7)

(1) 本時の目標

空いているところを見つけて動くことができる。【運動 (技能)】

(2) 授業仮説

練習の場において、ルールを工夫することにより、ボールを持たない時の動きを身につけることができ、パスをつないでゲームをすることができるであろう。

(3) 準備するもの

- ・得点板
- ・作戦ボードセット (教師用・児童用)
- ・ビブス
- ・立ち台
- ・ワークシート (チーム用・個人用)
- ・掲示物
- ・ボール
- ・ホイッスル

(4) 本時の展開

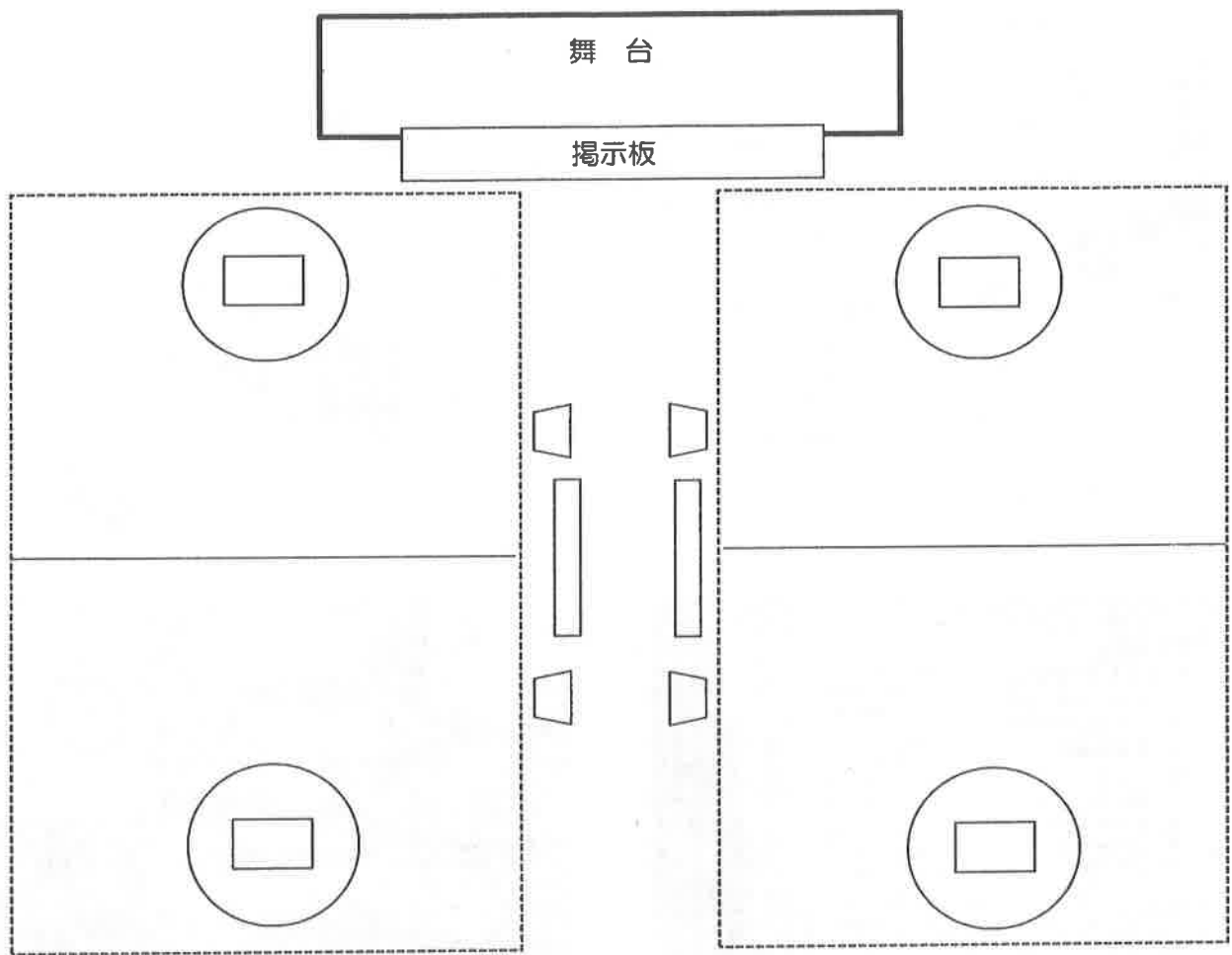
学習過程		学習内容・学習活動	○支援と留意点 ◇【評価の観点】
導入 (10分)	①ウォーミングアップ (5分)	準備体操 ・ジンギスカン体操	○音楽に乗りながら正しく体を動かせるよう、確認しながら運動させる。
	②めあての確認 (5分)	本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ボールの運び方を工夫してゲームをしよう。</div>	○めあてを確認し、練習の仕方やルールを確認する。
展開 (28分)	③基礎運動 (5分)	本時の動きにつながる運動をする。 前半：チームで課題に即した練習を行う。 ・ボールキャッチ ・パス練習 ・シュート練習 後半：ツーメン	○動きのポイントを可視化し、ポイントを確認しながら取り組めるようにする。 ○音楽を流しながら、意欲的に運動できるようにする。 ◇【態】きまりを守り、仲よく進んで運動に取り組んでいるか。 (観察)
	④チャレンジ運動1 (8分)	タスク運動 アウトナンバーのミニゲームを行う。	○チームごとに練習させる。 ○運動をしながらも本時のめあてに繋がる学び合いの声かけを行っていく。

	<p>⑤作戦タイム・話し合い (全体3分 チーム2分)</p>	<p>ボールを持たないときの動きを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①ボールを持っている人にたいしてどこに動いたらいいかな。 ②ボールをもらうためにどんな声かけをしたらいいかな。</p> </div> <p>(予想される児童の反応)</p> <p>①の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くにいく ・まもりに重ならないところに行く <p>②の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ぶ ・もらいたいときに「はい!」と合図する。 	<p>○作戦ボードを活用し、動きを考えられるようにする。</p> <p>○うまくパスをつないでいるチームを紹介し、動きの具体例を示す。</p> <p>○グループごとに練習などで気づいたことを付箋紙に書き合い、そこからゲームでのめあてを立てるようにする。</p>
	<p>⑥チャレンジ運動2 (10分)</p>	<p>パスをつなぐことを意識してポートボールゲームをする。</p> <p>全体で動きを交流する。</p>	<p>○チームごとに練習させる。</p> <p>○友達同士で教え合えるように助言する。</p> <p>◇【技】空いているところを見つけて動くことができたか。(観察)</p> <p>○パスが繋がったときの工夫や成功例を児童に発表させ、ポイントの再確認をする。</p>
<p>まとめ (8分)</p>	<p>⑦振り返り (5分)</p> <p>⑧片付け</p>	<p>本時のめあてをふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの振り返り ・個人での振り返り 	<p>○ワークシートに記入させ、発表させる。</p> <p>○次時の学習の確認をする。</p>

10. 評価

空いているところを見つけて動くことができたか。【運動(技能)】

1 1. 場の設定



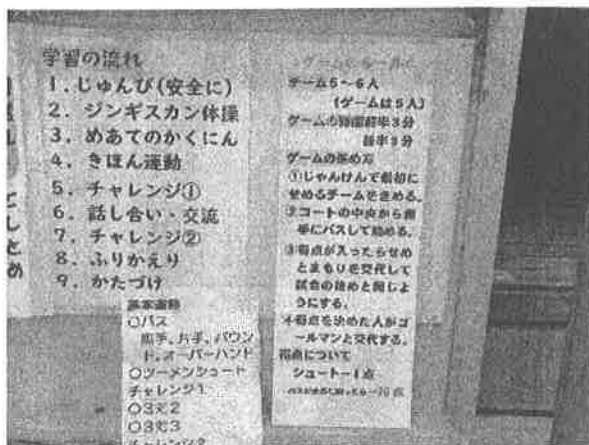
II. 授業の様子



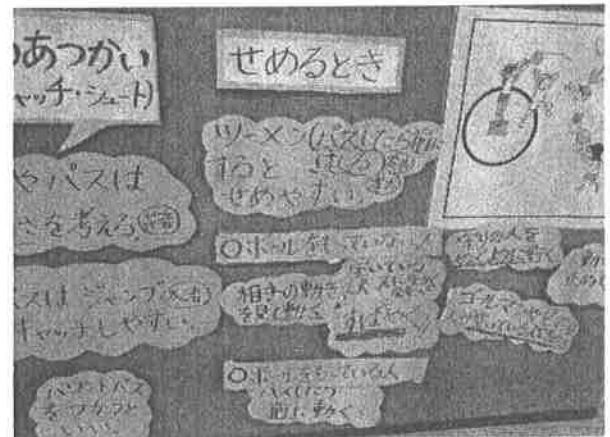
①ウォーミングアップ (ジンギスカン体操)



②めあての確認



③きまりごと：学級で考えたルール



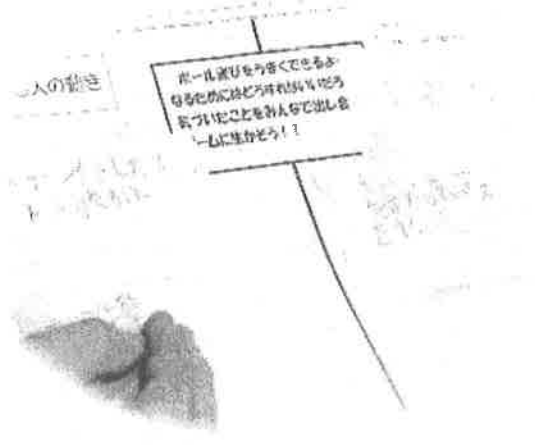
④動き方：どう動くかを確認



⑤基礎運動：チームごとに基本練習



⑥チャレンジ運動①：3対2のアウトナンバー



⑦学び合い1：チームで意見を出し合う



⑧学び合い2：チャレンジ②の作戦タイム



⑨チャレンジ運動②：ゲーム



⑩めあての振り返り

Ⅲ. 授業研究会

①検証授業者反省：根路銘結奈先生

- ・児童の実態把握に努め、単元計画を入念に行うことで、見通しを持った授業展開ができた。
- ・チームの人数、コートの広さなど、いろいろと迷いがあったが、子どもの声を大切にし、授業づくりを行った。独自のルールを継続するだけでなく発展させたり、技能が高まってきたら無くしたりすることも考える必要がある。
- ・ボールを持った時のボール操作の技術、ボールを持たない時の動きの技能どちらも高めていかないといけない。ボールを持たない時には、どこに動けば良いかに気づかせなければいけないので、全てを理解させるのが難しい。身につけさせたい力を明確し、それを子どもたちと確認していくことにより、授業の中で意識しながら運動することにつなげることができた。
- ・勝ち負けにこだわる児童の実態がある。どう指導していくか。

②グループ討議

【成果】

- ・運動量、学習規律、動きがよかった
- ・作戦ボードの活用が良かった。
- ・全体でのめあてと関連した個人のめあてがたてられていたので良かった。
- ・子ども同士の声かけが活発で学び合っていて良かった。

【課題】

- ・ボールに群がる児童をどうするのか。
- ・パスまわしに特化した練習。
- ・全体でのポイントの確認・可視化があってもよい。
- ・「めあて」にせまる動きや作戦が実践できたか
- ・空いているところを見つけて動くことができたか。

【改善策】

- ・子どもの動きや成長、思考や学びの様子を記録に残す工夫を。
- ・マグネットの動きが残るように紙を用意して鉛筆書きされても良い。
- ・目標にせまる練習を考える必要がある（スペースの利用）。
- ・ゴールを目指して前に攻めていかないといけないはずだから、その方法を考えさせる。
- ・振り返りの発表は前に出させてさせると全員に聞こえる。

③指導助言：八重山教育事務所 指導主事 小林弘樹

【指導案からうかがえる点から】

- ・問いサポを活用した単元作りによる、ドリルゲーム・タスクゲームが充実している。
- ・みんなが楽しめるための簡易化されたゲームの工夫がされている。
- ・児童の実態では、「運動」に加えて「学び合い」に対する興味関心が高い。
- ・児童の実態に即して単元の進度や時数を調整できる点でも、理想的な指導計画と評価計画（ドリル運動・タスク運動・ゲームの配置とバランス）が成されている。

【授業参観の視点から】

- ・ドリル運動で鍛えられた基礎的技能がタスク運動でいかされているかを考える必要がある。今回は、パスやスペースの意識が強く、ゴール（シュート）への意識が弱くなっていた。ゴール型運動の基礎的な力である、「ボールを持ったらずゴールに向く」ということを意識させたい。
- ・タスクゲームで鍛えられた思考力・判断力・表現力がゲームで生かせるようにしたい。ゴールのうらを使い、スペースをうまく利用できるように仕掛けると良い。また、空いている見方にパスを出すためには出す側のプレーヤーが適切な判断をしなければならない。ボール保持者へのプレッシャーが強くパスがしにくい状況になっていたので、ルールを工夫したい。
- ・「本時のドリル運動→タスク運動→ゲーム→振り返り→課題→次時のドリル運動へ」という流れで本時の運動を考えたい。
- ・資料より、「審判の判定に納得しなかったり、ゲームに勝てなかったりすることで、ゲームに意欲的に取り組めない児童には、判定に従うことやフェアなプレイの大切さについて、継続して伝えていくようにするなどの配慮をする」ことが大切である。

IV. 成果と課題

【成果】

- ・年間を通して「学び合う場」を設定することで子どもたちが互いに教え合い、学び合い技能を高めることに繋がった。さらに学び合いによりいろいろなことができるようになったと全員が答えていることから体育の技能を高めるために学び合いは重要であることを児童とともに実感できた。
- ・本校のスタイルを確立することで教師も児童も見通しを持って授業に臨め、さらに45分の授業を有効に使い運動量の確保ができるようになった。
- ・基礎的な運動技能を高めるタスク運動、その習得を生かしたタスク運動、身につけた力を実践できる場であるゲームというように単元を通して整合性のある運動を設定した授業を展開することができた。
- ・朝スポで単元の運動に関わる体づくりや遊びを取り入れることによって授業以外でも運動の特性に触れ自ら休み時間などにも楽しむ児童が増えた。

【課題】

- ・「みやびスタイル」を全時間実施すると指導の時間や学び直しの時間等が確保できないことがある。
- 単元のなかで児童の実態や本時のねらいに合わせて各運動の時間配分等に工夫が必要である。
- ・児童の実態に即し且つ身につけたい力の習得に効果的な運動の内容の設定。

V. 児童の変容

- ・めあてを達成するためにチームでの話し合いの重要性に気づくことができるようになった。また、達成できると楽しさを味わうことになり、体育の授業、運動そのものを楽しむことができた。
- ・児童同士が積極的に学び合い、技能を高めることができた。
- ・単元が進むにつれ基礎的スキルをしっかりと習得でき、運動の特性を味わいながらゲームを楽しむ児童が増えていった。

【児童の感想・自己評価】

① 今日のめあてがたっせいできた。	○
② きまりをまもりみんなで楽しく練習やゲームをすることができた。	○
③ パスやシュートなどのボールのあつかいができるようになった。	○
④ 練習のしかたやせめ方・まもり方をくふうすることができた。	○
⑤ 仲間と学び合うことができた。	△



自己評価も上がっている。

① 今日のめあてがたっせいできた。	○
② きまりをまもりみんなで楽しく練習やゲームをすることができた。	○
③ パスやシュートなどのボールのあつかいができるようになった。	○
④ 練習のしかたやせめ方・まもり方をくふうすることができた。	○
⑤ 仲間と学び合うことができた。	○

作戦タイムのときにもっとみんなでおしゃべりして声かけをしていきたい。

空いている所を探してすばやくいけてみんなにパスできたので良かったです。負けたけどとても楽しかったです。

第5学年 授業実践

領域「ボール運動 ソフトバレーボール」

単元名「レシーブ・トス・アタックにちょう戦しよう」



第5学年体育科学習指導案

平成30年 6月13日(水) 5校時

5年1組 男子12名 女子17名 計29名

授業者 水谷 直揮 印

1. 領域・単元名

領域 「E ボール運動 ソフトバレーボール」

単元名 「レシーブ・トス・アタックにちょう戦しよう」

2. 単元の見積

- (1) ネット型では、簡易化されたゲームで、チームの連携による攻撃や守備によって、攻防をすること。
【E(1)イ 技能】
- (2) 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
【E(2) 態度】
- (3) ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。
【E(3) 思考・判断】

3. 単元について

(1) 学習指導要領の記述

本単元は、学習指導要領第5学年・第6学年の目標である

①技能 イ ネット型

操作しやすいボールを用いたり、ボール操作についての制限を緩和することを通して、連携プレーによる攻撃やそれに対応する守備がしやすくなるように安易化されたゲームをする。

(ア) 軽くてやわらかいボールを片手や両手で操作したり、チームの連携プレーによる攻撃が成り立つように素早く場所を移動したりして、ネットをはさんだゲームができるようにする。

(イ) ボール操作についての制限を緩和したボールがつながりやすい状況の中で、相手が捕りにくいようなボールを打ち返すことができるようにする。

②態度

(2) 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

ア ゴール型やネット型、ベースボール型のゲームに進んで取り組むこと。

イ ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをすること。

ウ 用具の準備や片付けで、分担された役割を果たすこと。

エ 場の危険物を取り除いたり場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配ること。

③思考・判断

(3) ルールを工夫したり，自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。

ア ゴール型やネット型，ベースボール型の楽しいゲームの行い方を知り，プレーヤーの数，コート
の広さ，プレー上の制限，得点の仕方などのルールを選ぶこと。

イ チームの特徴に応じた攻め方を知り，自分のチームの特徴に応じた作戦を立てること。

(2)運動の特性

①一般的特性

ネットをはさんだチームが，パスやスパイク，レシーブなどを使ってボールをネット越しに打ち返し，相手チームのミスを誘って得点することが楽しい運動である。また，ソフトバレーボールはバレーボールの硬さとスピードに対する子どもの恐怖感を解消した種目で，男女差，個人差の少ない運動といえる。

②児童からみた特性

ソフトバレーボールのおもしろさは，いかに「自分たちのコートの中に相手からのボールを落とさせないことができるか」である。つまり，①自陣でボールを落とさないようにする。②落とさなかったボールを，攻撃に転じて組み立てようとする。③ボールを相手陣に落とそうとする，という3つの局面が子どもたちにとってはおもしろい。

(3)教材観

ソフトバレーボールは，プレーの連携による攻撃や守備によって，ネットをはさんだ攻防を楽しむゲームである。このゲームは，児童の発達の段階を踏まえ，用具やルールを工夫し，学習課題を追求しやすいうように簡易化されたゲームである。

ネット型のゲームが競い合えるよう，①軽くてやわらかいボールを片手や両手で操作したり，チームで連携プレーによる攻撃が成り立つように素早く場所を移動したりして，ネットを挟んだゲームができるようにする。②ボール操作についての制限を緩和したボールがつながりやすい状況の中で，相手が捕りにくいようなボールを打ち返すことができるように工夫をして，児童がネット型の学習を十分行えるように配慮する。

単元の初めの段階では，軽くてやわらかいボールを用意し，児童の考えを生かしながらルールやマナーを決めて，簡単なボール操作でゲームができるようにする。後半では，連携プレーによる攻撃や相手が捕りにくいようなボールを打ち返すような簡易化されたゲームができるようにするとともに，作戦や練習を選んだりするなど課題解決的なゲームの段階へと学習を進める。

指導に際しては，軽量ボールなどの易しい条件で簡易化されたゲームを児童に提示し，特性や魅力に応じた楽しさや喜びに十分触れられるようにするとともに，児童が課題解決のために規則や作戦を選んだり，考えたりすることができるように留意する。

4. 児童の実態

【体育事前アンケート結果】

(6月6日 実施 28人)

① 運動は好きですか？

	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
男子(人)	12	0	0	0
女子(人)	10	4	2	0
クラス(人)	22	4	2	0
好きなところ			好きではないところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすのが楽しいから。 ・体を動かすのが大好きだから。 ・部活をやっているから。 ・体がポカポカするから。 			<ul style="list-style-type: none"> ・好きなものときらいなものがある、きらいなものの方が多いから。 ・硬直するから。 	

② 体育の授業は楽しいですか？

	楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
男子	12	0	0	0
女子	8	5	3	0
クラス	20	5	3	0
楽しいところ			楽しくないところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・好きなものだらけだから。 ・普段できない運動ができるから。 ・みんなで協力して楽しめるから。 			<ul style="list-style-type: none"> ・あまり楽しくない。 ・苦手なものがあるから。一回骨折しているから。 ・先生の話が長い。 	

③ バレーボール (ソフトバレーボール) は好きですか？

	すき	まあまあすき	あまりすきではない	きらい
男子	9	2	1	0
女子	11	3	1	1
クラス	20	5	2	1
好きなところ			好きではないところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールをやっているから。 ・自分がアタックやフェイントなどで点を取ったら気持ちいいから。 ・ボールを打つのが楽しいから。 			<ul style="list-style-type: none"> ・好きじゃないから。 ・ルールがむずかしいから。 ・泣いたことがある。 	

【考察】

休み時間は外でボールを使って遊ぶことが好きな子が多く、休み時間の後は汗だくになって教室に帰ってくる児童がたくさんいる。男子が中心となって遊んでいることが多いが、最近では女子も交じって遊んでいることもあり、男女ともに仲良くすることができるクラスである。

アンケートの結果からは、たくさんの児童が「運動が好き」「体育が好き」と答えており、改めて運動が好きなことが分かった。体を動かせることもあるが、普段できない運動を体育でできるという楽しみを見出していたり、友達と協力して運動する面白さを感じていたりする児童もたくさんおり、体育の授業を楽しみにしていることが分かった。ただ、ケガをしたり嫌な思いをしたことがある児童には体育への抵抗があるようである。体育の楽しさは、ほめられたり新しいことができるようになったりしたときに感じる人が多いので、どの子にもそのような体験をさせることを心がけていきたい。

ソフトバレーボールに関する質問ではほとんどの子が「好き」「まあまあ好き」と答えていた。理由として、バレー部に所属している子がクラスの半分以上(15名)いることも大きい要因の一つではある。また、サーブやアタックなど、ボールを打つことへ楽しさを感じている子も多くいた。一方、好きではない子からは「ルールが難しい」という声があがっていた。ボールを落とさずに続けるの難しいのがバレーボールの特徴である。また、上手ではないことを非難されたり、試合に出してもらえなかったりして泣いたことがある子もいた。授業ではみんなが楽しくソフトバレーボールができる仕組みづくりが必要である。

そこで今回のソフトバレーボールでは、チームで教え合う学び合い活動を有効に活用して、上手な子が苦手な子を助けられるようにしていきたい。また、みんなで話し合いながらルールを工夫して、みんなが楽しめる授業を実践していきたい。

5. 研究主題との関わり

(1) 研究主題

『運動に親しみ進んで体力づくりに取り組む児童の育成』

～各領域におけるスタイルの確立と互いを高め合う学び合いを通して～

(2) 研究仮説

体育の授業において、以下の手立ての工夫を実践することにより、運動の楽しさやできる喜びを味わうことができ、運動に親しみ進んで体力づくりに取り組むようになるであろう。

- ① 45分の授業時間の中で、運動量を確保しながら各領域における授業スタイルを確立する。
- ② 個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫する。

(3) 研究の視点

① 各領域における授業スタイルの確立

- ・ 45分の授業時間の中で、各領域や単元に合わせ、活動時間を5分から15分程度のまとまりにし、集中力が持続するようにタイムマネジメントを工夫する。

②学び合いの場の工夫

- ・個人（チーム）に応じた課題をもたせ、学び合いの場を工夫し、充実させることで、自分や友だち、チームの動きに気づき、運動の技能を向上することができ、達成感や成就感を味わい、「できる喜び」を感じることができる。

(4) 授業スタイルについて

45分完結型授業「ボール運動みやびいスタイル」

学 習 過 程		時 間	活 動 内 容
①	ウォーミングアップ	5分	・ジンギスカン体操やペアラジオ体操、なわとび、単元の運動に適したストレッチなど
②	めあての確認 学び合い①	5分	・学習のめあての提示 ・主運動のポイントの確認 ・チームのめあてを立てる →自分（個人）のめあてを立てる
③	準備（単元に応じて）	（3分）	・安全に素早く、協力して、本時の準備をする
④	基礎運動	5分	・本時の運動に合わせた基礎運動 ・サーキット運動や基礎感覚作りとしての類似運動を取り入れた運動など
⑤	チャレンジ運動① ※単元や児童の実態に合わせて活動の仕方を計画する	10分	・個やペア、グループ、習熟度別など、学習形態を工夫し、主運動に挑戦する
⑥	学び合い②	5分	・チャレンジ運動①での活動やそれぞれの動き、できたこと、できなかったことなど、チーム等での動きを確認し話し合う
⑦	チャレンジ運動②	10分	・グループで協力して学び合ったことを実践しながら、主運動を行う
⑥	めあての振り返り	5分	・めあてをふり返る ・チームの課題や自分の課題について考え、次時につなげる
⑦	片付け（単元に応じて）	（3分）	・安全に素早く、協力して、安全に片付けをする

※ボール運動の領域では、スタイルの中にグループで協力したり教えあったりする学び合いの場を設定。

(5) 単元における手立て

- ①ソフトバレーボールに合った展開を考え、授業スタイルを確立する。
- ②練習の仕方や作戦など、掲示物を充実し、やってみたいという意欲を高める。
- ③グループで協力したり教えあったりする場を設定し、運動の質を高める。

6. 指導にあたって

ボール運動のゲームではボールを操作する回数や技能の個人差がみられる。このような状態を改善するためには、ボール操作の技能を発揮する機会を多くし、それを安定して発揮することができることが大切であり、そのための時間設定が必要である。特に高学年では落下点を予測して移動することや飛んでいくボールの軌跡を予測してボールを送ることを重視したい。セッターやアタッカーの打ちやすいボールを確認し、ボールの飛んできた方向に素早く移動し、返球する練習や返球する方向を変える練習は、その一例である。

ゲームにおいて、特性や魅力に触れる楽しさや喜びが十分に味わえるように、自分のチームや対戦チームの特徴を知ることやそれを知った上で自分のチームの作戦を立案することが必要になる。しかし、実際のゲームで試してみないと立案した対戦の効果を判断することは難しい。そのため、単元の作成に当たっては、単元中に同じ対戦チームとの複数回の対戦を確保することや単元の最後に大会を位置づけるなどして、作戦を活かすことが有効であることを実感できる機会の提供に配慮したい。

加えて、試合数の確保という観点からみた場合、一定の得点の先取りルールでは、授業時間中でゲームを終了させることが難しくなる。そのため時間制を取り入れるといった工夫も必要である。

7. 単元の評価規準

単元 の評価 規準	(運動への) 関心・意欲・態度	(運動についての) 思考・判断	(運動の) 技能
	<ul style="list-style-type: none"> ソフトバレーボールに進んで取り組もうとしている。 ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしている。 進んで用具の準備や片付けをしたり、コート上の危険物を取り除いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを正しく理解し、チームの特徴に応じた攻め方や守り方、練習の仕方を工夫している。 相手チームと自分のチームの特徴を理解し、特徴に応じた作戦を立ててゲームをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールの落下地点に移動してレシーブしたり、味方が受けやすいようなボールをつないだりすることができる。 トスなどの連携プレーや、アタック、フェイントなどの相手が取りにくいボールを打ち返すことができる。

8. 単元計画と評価計画

段階	時間	主なねらい・学習活動	評価規準 (重きを置く観点)			教師の指導・支援
			関	思	技	
やってみる	1	学習のめあてと道筋を理解し、学習の進め方について見通しを持つ。 ・めあての確認 ・グループ分けと役割分担 ・約束やルールの決め方 ・コートの作り方	○			<ul style="list-style-type: none"> 本時で取り組む動きのポイントを確認する。 学習の流れやルールについて、随時指導する。

	2 ・ 3	ボールを相手のコートに落としたり、自分たちのコートに落とさせないようにしたりして、キャッチバレーボールをする。 ・高いボールのキャッチからパス。 ・低いボールからのキャッチからパス ・オーバーハンドパス ・キャッチバレーボール			○	・用具の準備の仕方や片づけなどのしかたを確認する。 ・ペアやグループで活動し、お互いに協力できるようにする。
ひろげる	4 【本時】 ・5	チームで攻め方・守り方を工夫して、ソフトバレーボールをする。 ・ルールの確認 ・簡単な練習(パス練習, サーブ練習など) ・工夫した攻め方・守り方の確認 ・ソフトバレーボール			○	・ゲームの中で、ルールを守り、けがなく楽しく運動できるよう助言する。 ・ペアやグループで活動し、お互いに協力できるようにする。
ふかめる	6 ・ 7	自分のチームや相手のチームの特徴に応じた作戦を立ててソフトバレーをする。 ・対戦チームの確認 ・対戦相手の特徴に応じた作戦 ・自分のチームに必要な練習 ・ソフトバレーボール			○	・今まで学んだ動きを取り入れて、グループで楽しく遊べるようにする。

9. 本時の指導「ソフトバレーボール」(4/7)

(1) 本時の目標

- ・トスなどの関係プレーや、アタック、フェイントなどの相手取りにくいボールを打ち返すことができる。【運動(技能)】

(2) 授業仮説

運動に取り組む場において、教師が意図的な動きを仕掛け、練習やゲームなどの運動の場の設定を工夫することにより、楽しく運動することができ、ソフトバレーボールの動きを身に付けることができるであろう。

(3) 準備するもの

- ・ネット(バドミントン)、ソフトバレーボール、掲示板、電子黒板

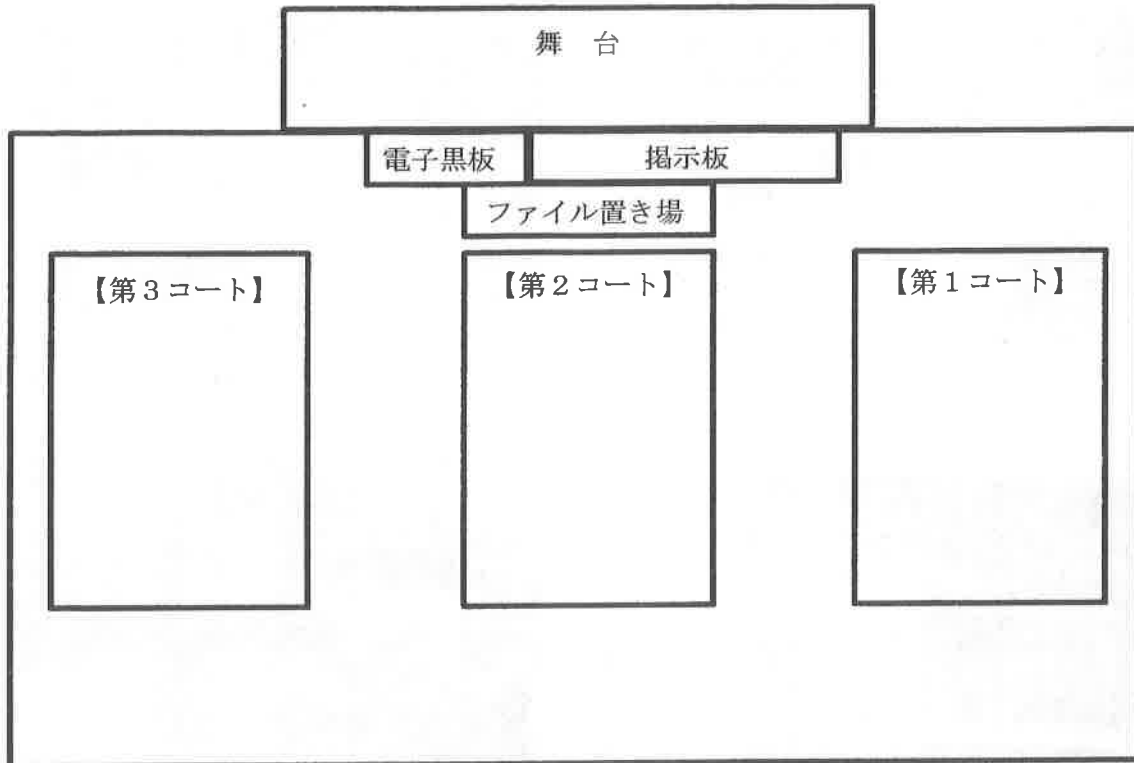
(4) 本時の展開

学習過程	学習内容・学習活動	○個に応じた支援と留意点 ◇【評価の観点】	
導入 (10分)	①ウォーミングアップ (5分)	準備体操 ・ジンギスカン体操 ・ストレッチ	○音楽に乗りながら正しく体を動かせるよう、確認しながら運動させる。
	②めあての確認 (5分)	本時のめあてを確認する。	○めあてを確認し、練習の仕方や作戦などを確認させる。 ○ルールを確認し、チームの状況によってはキャッチを許容する。
展開 (30分)	③基礎運動 (5分)	簡単な練習をする。 ・円形でパス練習 ・サーブとレシーブ練習 ・トス→アタック練習 など	○チームの状況の応じて必要な練習を考えさせ、実施させる。 ○コート縦に半分に分けて、練習させる。
	④チャレンジ運動1 (10分)	第1試合をする。 ・コートには各チーム4人が出場。 ・点が決まると交代	○みんなで声を出して、チームのめあてを確認するようにゲームをさせる。 ◇相手が取りにくいボールを打ち返そうとすることができたか。
	⑤話し合い (5分)	話し合いや練習をする。	○ゲームをふり返り、攻め方・守り方について変更したりさらに強化したりするところなどを話し合わせる。
	⑥チャレンジ運動2 (10分)	第2試合をする。 ・コートには各チーム4人が出場。 ・点が決まると交代	○チームのめあてに沿った攻め方や守り方をしているか、練習したことがゲームに生かされているかチェックしながらゲームをさせる。 ◇相手が取りにくいボールを打ち返すことができる。
まとめ (5分)	⑥振り返り (5分)	本時のめあてをふり返る。 ・グループでの振り返り ・個人での振り返り ・振り返りの発表	○ワークシートを使って、できたこと、よかったことを記入させる。 ◇ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームができたか。

10. 評価

- ・トスなどの連係プレーや、アタック、フェイントなどの相手が取りにくいボールを打ち返すことができたか。

11. 場の設定



I 授業の様子



(1) ジンギスカン体操



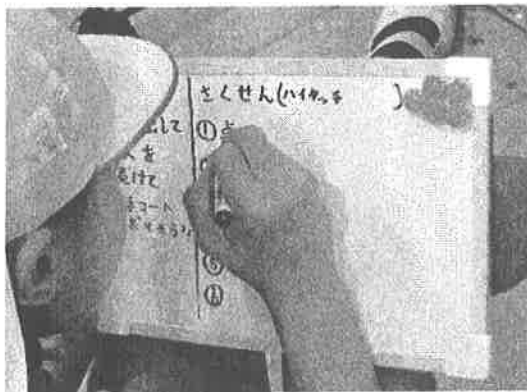
(2) めあての確認



(3) 掲示物の活用



(4) 基礎運動



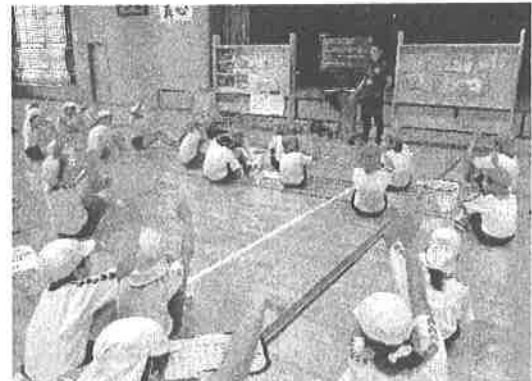
(5) 学びあい (作戦立て)



(6) 学びあい (話し合い)



(7) チャレンジ運動



(8) 振り返り

II 授業研究会

①研究授業者からの授業説明

- ・昨年度の研究の反省から、領域ごとにスタイルを作っていく必要があるとの意見があったので、今回の授業では、ボール運動に特化した授業スタイルを考えて実施した。
- ・今年度から研究主題のサブテーマに「学び合い」が新たに入ったので、スタイルの確立とともに学び合いをどのように授業に取り入れていくかについて試行錯誤した。そして、基礎運動とチャレンジ運動の間に学び合いを入れ、作戦を立てる中で友達と学び合うようにした。
- ・今年度初めての研究授業だったので、学び合いの仕方についてや掲示物の見せ方について、今日の授業で良かったのかどうかを知りたい。

②グループ協議

【成果】

- ・授業スタイルが確立されていて、タイムマネジメントができていた。
- ・子どもたちの聞く姿勢ができていたので、教師の指示がしっかり通っていた。
- ・失敗しても笑顔だったり励まし合ったり、雰囲気よかった。
- ・ホワイトボードを使った学び合いは、ツールとしてよかった。
- ・めあてなどの確認は、ICTを活用していてよかった。

【課題】

- ・めあてを伝えるところで、この授業の評価基準になるところを示すとよいのではないか。
- ・チームのめあてと個人のめあてはシートを分けて書くことができるとよいのではないか。

【質疑応答】

- ・チーム編成はどのように考えたのか。
→クラスにバレー部がいるので、チームの力が均等になるように担任が決めた。
- ・キャッチバレーボールにしたのは担任の指示でか。
→キャッチするかどうかは、子どもに決めさせて実施した。次時ではキャッチがなくなる予定。
- ・アンケートでは運動が苦手な子がいるが、その子たちへの手立てはどのようにしたのか。
→あえて苦手な子を取り上げて褒めたり、プレー中に励ましたりするようにしていた。
- ・チャレンジ①とチャレンジ②で対戦相手を変えていたが、どうしてか。
→限られた時数での対戦になるので、全チーム対戦できるようにしたかった。

③指導助言：八重山教育事務所 指導主事 小林弘樹

- ・学び合いについて、話し合いの時間を試合と試合の間に作っていたが、学び合いはプレーの中でもできる。めあては試合中に声を掛け合うように促していたが、試合中に言語活動や学び合いが行われる工夫がもっとほしかった。教師が「今の声よかったね。」など声かけの見本を見せて引っ張っていくとよい。
- ・話し合いの内容をもっと焦点化してほしい。思考・判断・表現のところをより具体的にワークシートに書くようにするとよい。
- ・消極的な児童がほとんど目につかず、みんな積極的に活動していた。
- ・場やルール工夫を子どもたちと話し合いルールを変えているところは良かった。
- ・グループについては教師が意図的に決めるのもよいが、ランダムに決めてそれに合ったルールをクラスで作れるととてもよい。

Ⅲ 成果と課題

【結果と考察】

運動に取り組む場において、教師が意図的な動きを仕掛け、練習やゲームなどの運動の場の設定を工夫することにより、楽しく運動することができ、ソフトバレーボールの動きを身に付けることができるであろう。

単元の初めのうちは、ラリーが続けられるように、「1回はキャッチしてもよい」という易しいルールを作り、バレーボールが苦手な子が自分の役割を持ち活躍できるようになった。また、「コートに出ている全員がボールにさわると」というルールを作り、全員がゲームに参加できるようにした。そうすることでチームみんなが活躍できる楽しい体育ができるようにした。

児童の学習カードには、「3人目の人がキャッチして高くあげる」と、うまくアタックを打つための方法を考えていたり、「相手が打ったアタックをキャッチしよう」と、ラリーが続くための方法を考えていたりした。

このように、ルールを簡易化することで、みんなが楽しく運動することができ、ソフトバレーボールの動きを身につけることができたと言えるであろう。



ソフトバレーボール 学習カード

(月) (日) 5年 () 組 () 名 () くん () さん

チーム名 ()

●チームのめあて

●自分のめあて

◆作戦 自分達の動きをメンバーの動き方も、誰やどきこう。

役割	名前	役割
1	マユミ	キャッチ・投げ・打て分け
2	リョウ	キャッチ・投げ・打て分け

◆今日の目標

対戦相手チーム	スコア	結果
1	0-0	勝つ・負け・引き分け
2	0-0	勝つ・負け・引き分け

●楽しくゲームができたか、(◎ ○ △) ●ルールや決まりを守れたか、(◎ ○ △)

相手の動きや、ボールの動きに注意して、ラリーやアタックなどで、チームの活躍のよかったところ

工夫	できたこと	できなかったこと

●次のゲームに向けて、気をつけていること

【成果】

- ・「みやびいスタイル」を実施することで、児童の運動量を確保し、授業のタイムマネジメントがうまくできた。また、子どもがスタイルを把握することで、テキパキ動くことができるようになっていた。
- ・ICTを活用することで、めあてをわかりやすく、スピーディに確認することができた。
- ・体育が好きな子も、そうでない子もとても楽しそうに授業をすることができた。

【課題】

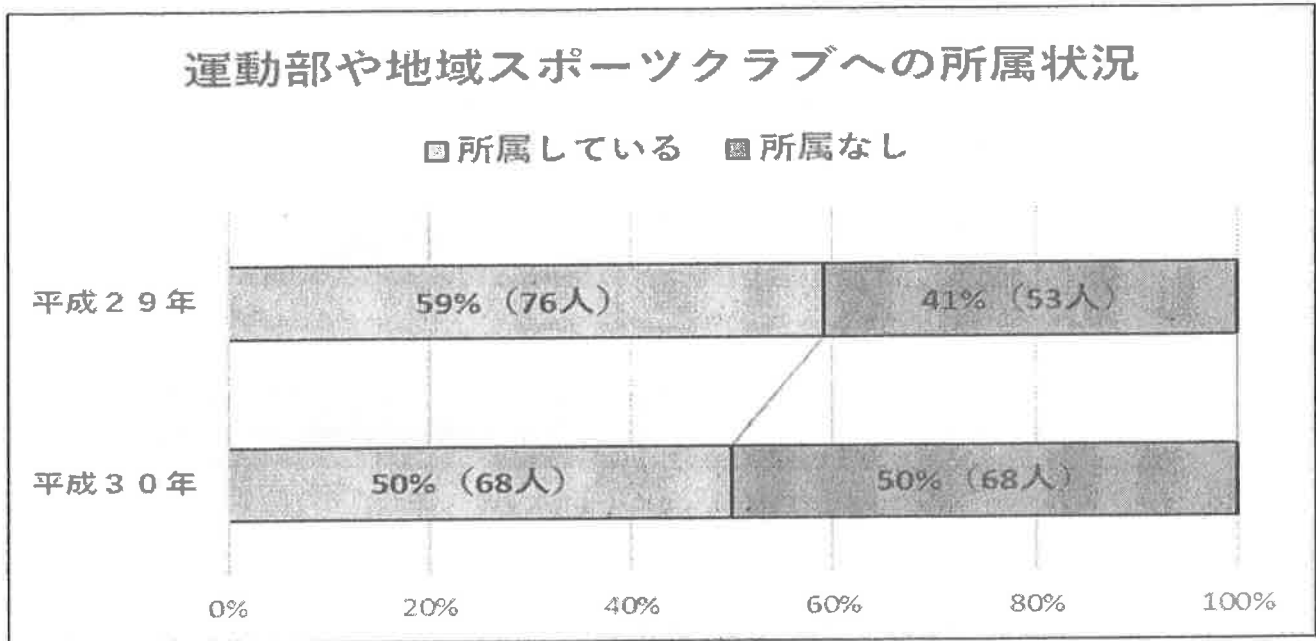
- ・学び合いについては、取り入れる場面を工夫したり、話し合いの内容を焦点化したりして実施する必要がある。そうすることでより深い学びにしていかなければいけない。

IV 研究の成果と課題

- 1 児童アンケートの結果とその考察
- 2 新体力テストの移り変わり
- 3 成果と課題

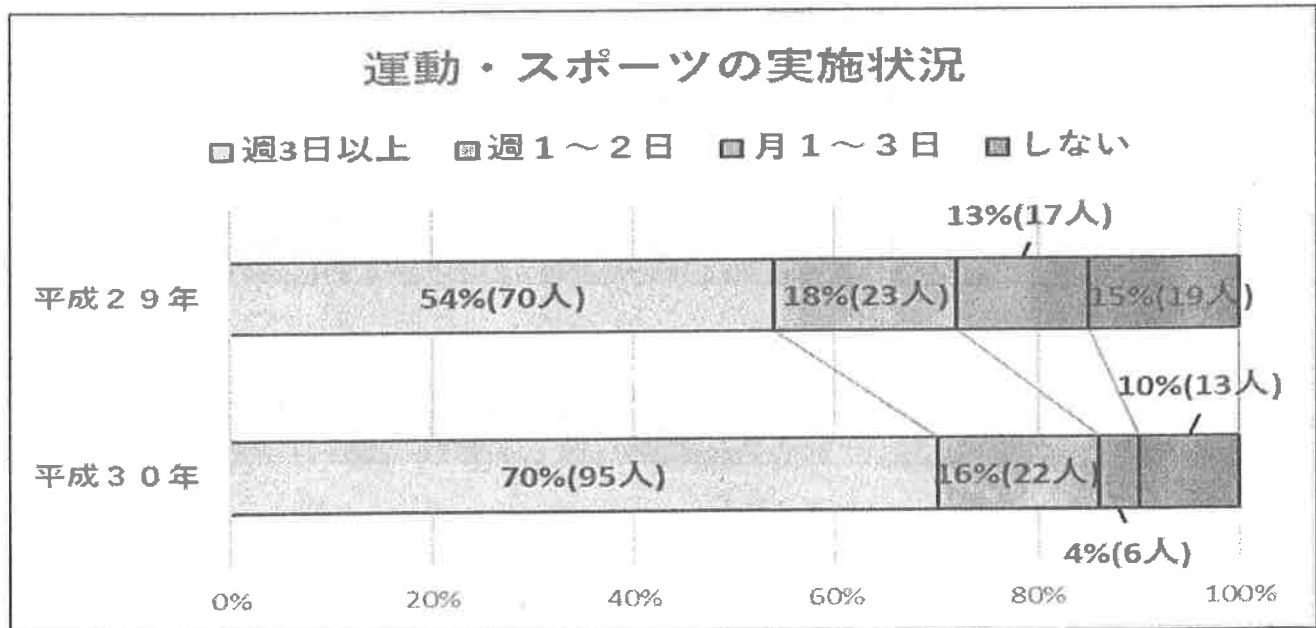
1. 児童の意識調査と児童の実態

①運動部やスポーツクラブに入っていますか。



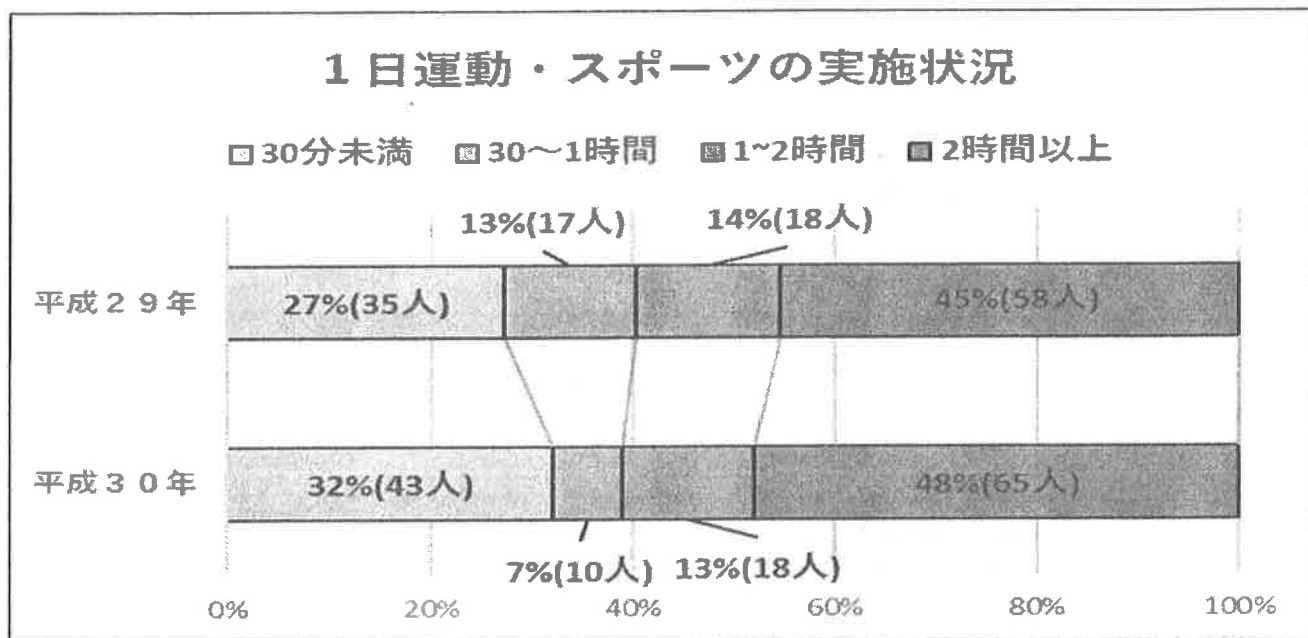
- ・ 半分以上の児童が普段から運動やスポーツに親しんでいる。
- ・ 所属していない児童も、放課後運動場でサッカーや遊具で遊んでいる姿が見られる。
- ・ 学年別では、6年生が65% (23人中15人)、5年生が86% (29人中25人) と、高学年の運動部や地域のスポーツクラブへの所属率が高い。

②運動やスポーツをどのくらいしていますか。



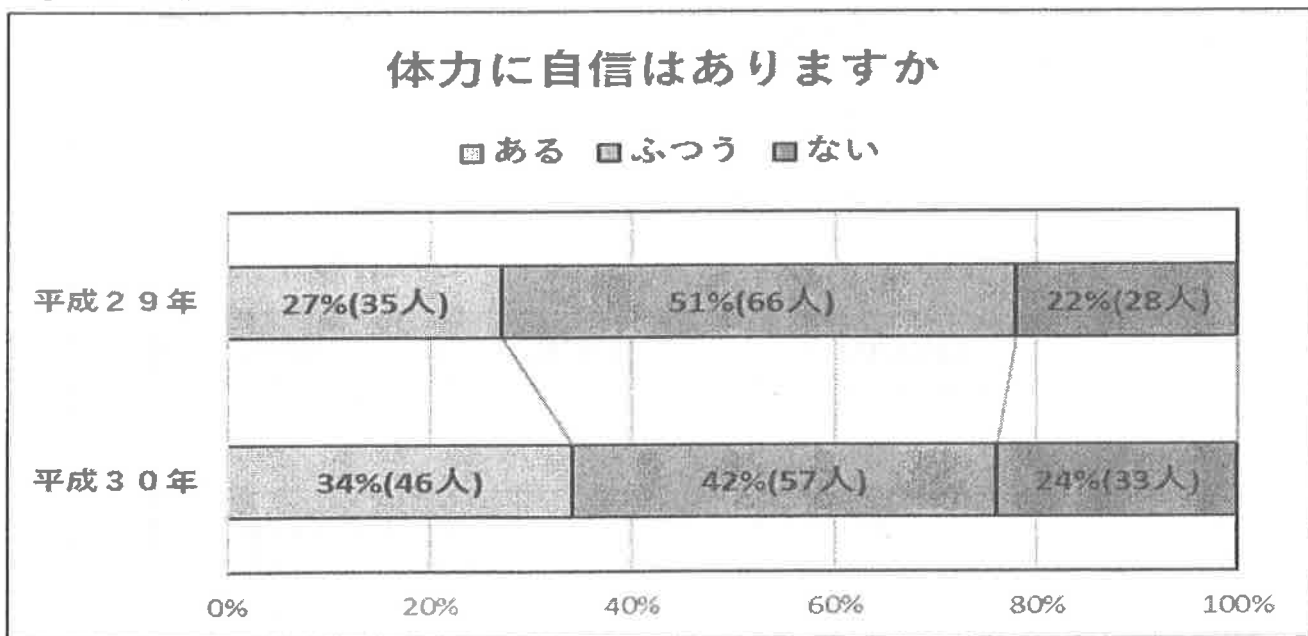
- ・ 約85%以上の児童が毎週運動に親しんでいると解答し、運動する児童が増えた。
- ・ 休み時間や放課後など、普段からサッカーやなわとび、おにごっこなど、外で運動したり遊んだりする姿が多く見られるようになった。

③運動やスポーツをするときは1日どのくらいしますか。



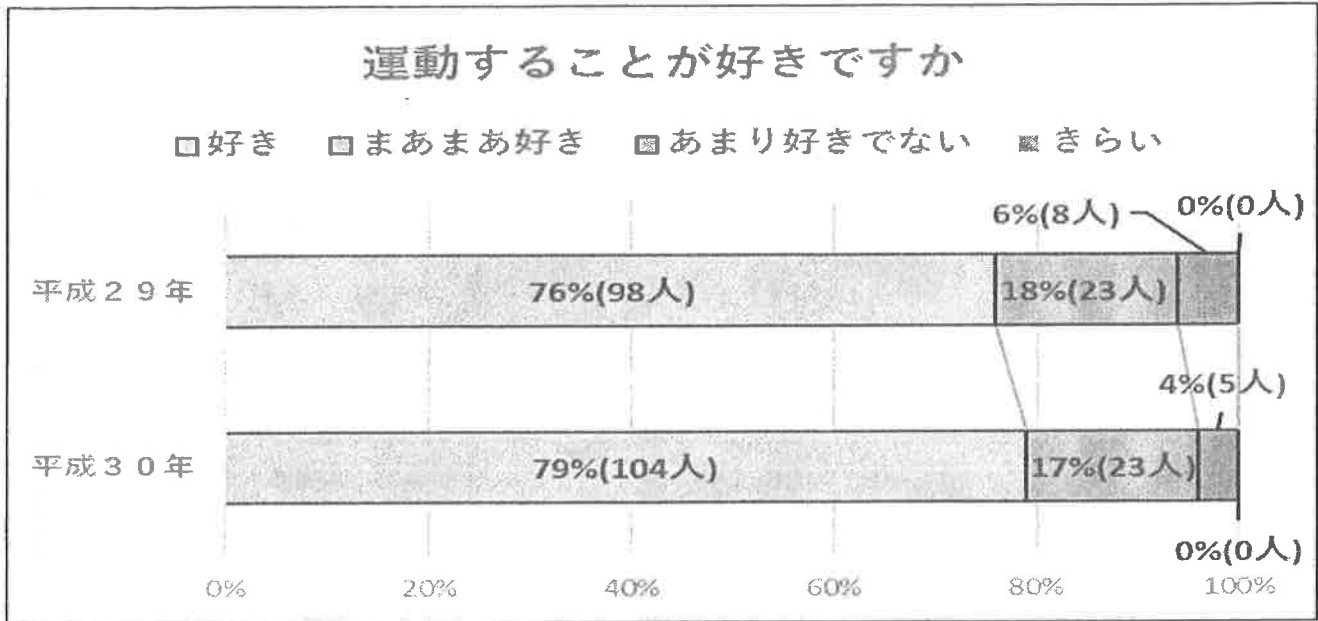
- ・半数以上の児童が1日平均1時間以上運動やスポーツをしている。
- ・1日の運動が30分未満の児童数が増えている。学校周辺に公園等の運動に親しむ場があまりないこともあるが、校内でももっと運動に親しめるような環境を整備していきたい。

④体力に自信はありますか。



- ・体力に自信があると答えた児童が増えているが、ないと答えた児童も増えている。理由として、新体力テストや持久走の結果などから、自分の体力を友だちの記録などと比較するようになったからではないかと考える。

⑤運動することが好きですか。



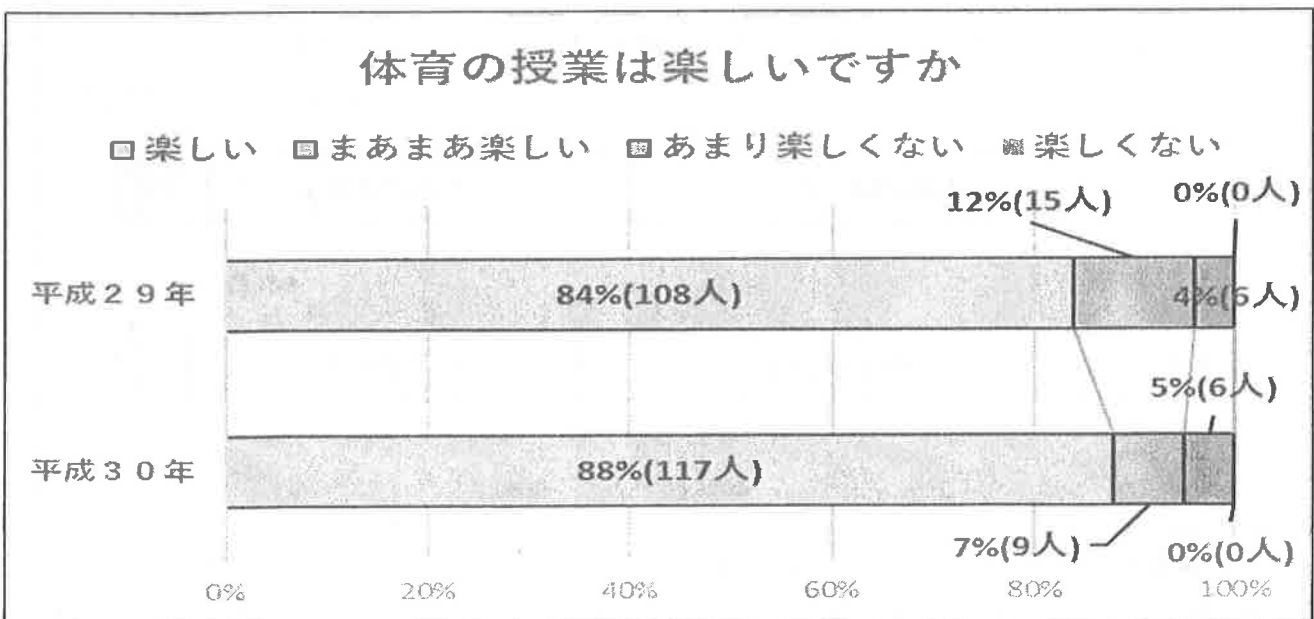
・90%以上の児童が運動することが好き、まあまあ好きと答えている。

【理由】

- 「(汗をかくと)気持ちがいい」「すっきりする」「温まる」「みんなで楽しめる」など
- ▲「めんどくさい」「苦手」「けがをすることがある」「できないこと(種目)がある」など

・あまり好きではないと答える児童も見られる。みんなが楽しめるような授業やルール、環境作りを通して、みんなが楽しめるようにしていきたい。

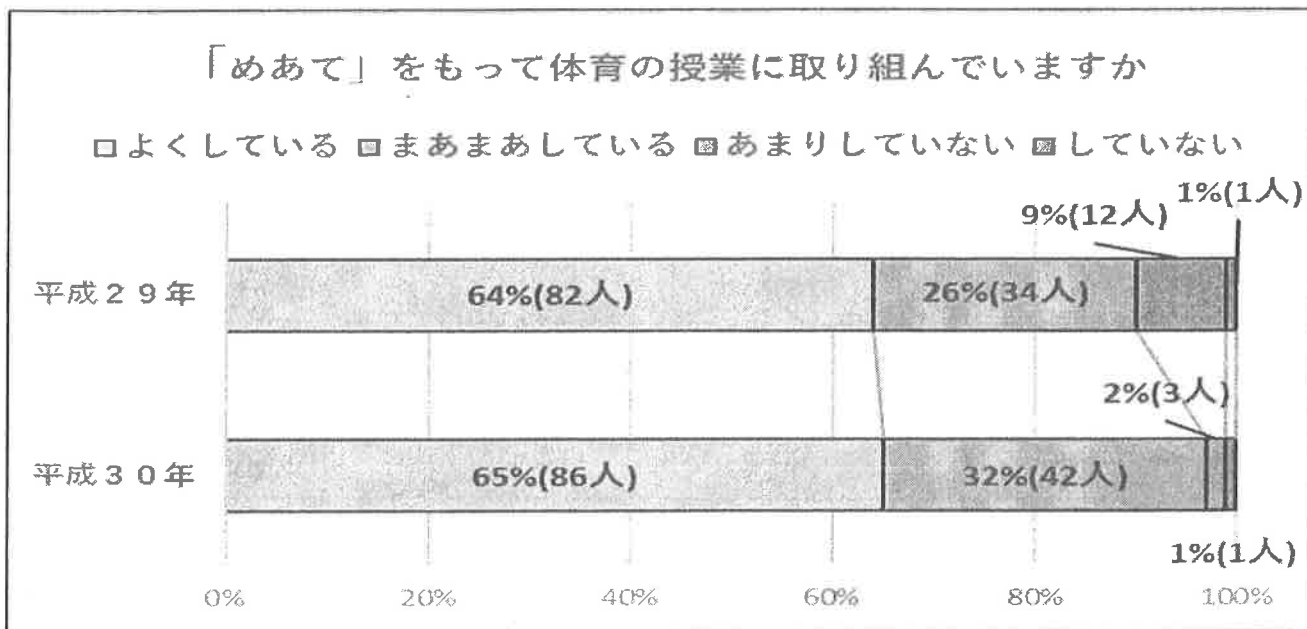
⑥体育の授業は楽しいですか。



・90%以上の児童が運動することが楽しい、まあまあ楽しいと答えている。

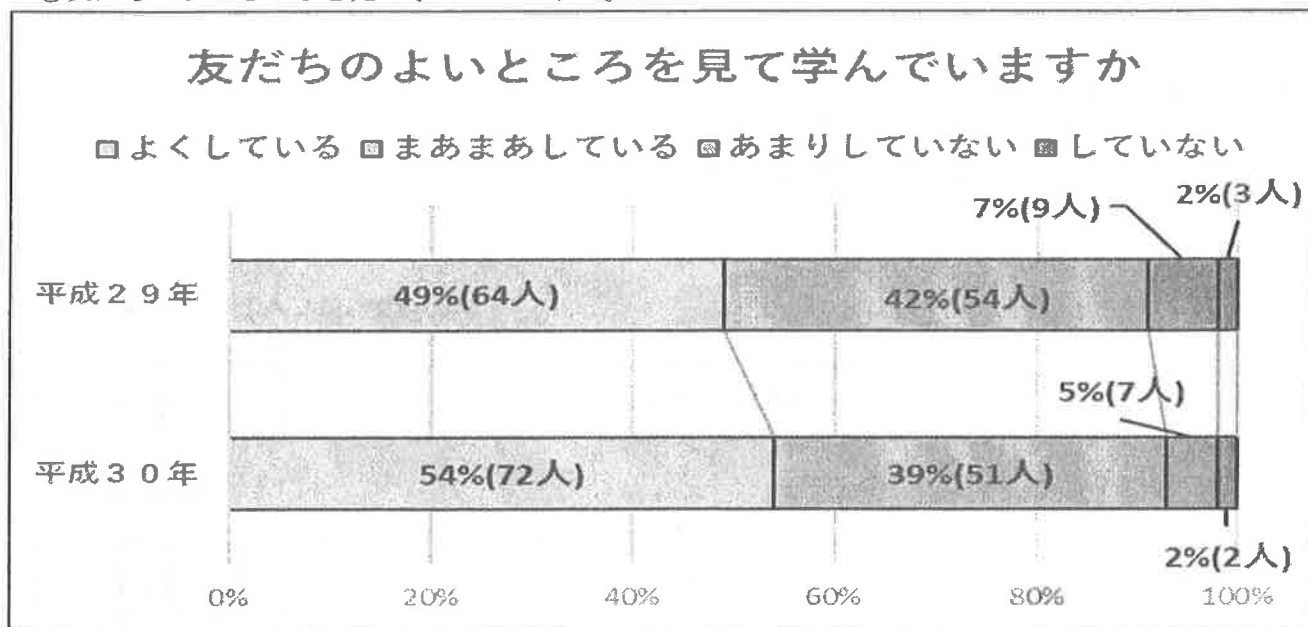
・あまり楽しくないと答えた児童の理由としては、「苦手なこともやらないといけない」が多く、授業の中でチャレンジし、「できる・できた喜び」を味わわせるような授業が展開できるようにしていく。

⑦「めあて」をもって体育の授業に取り組んでいますか。



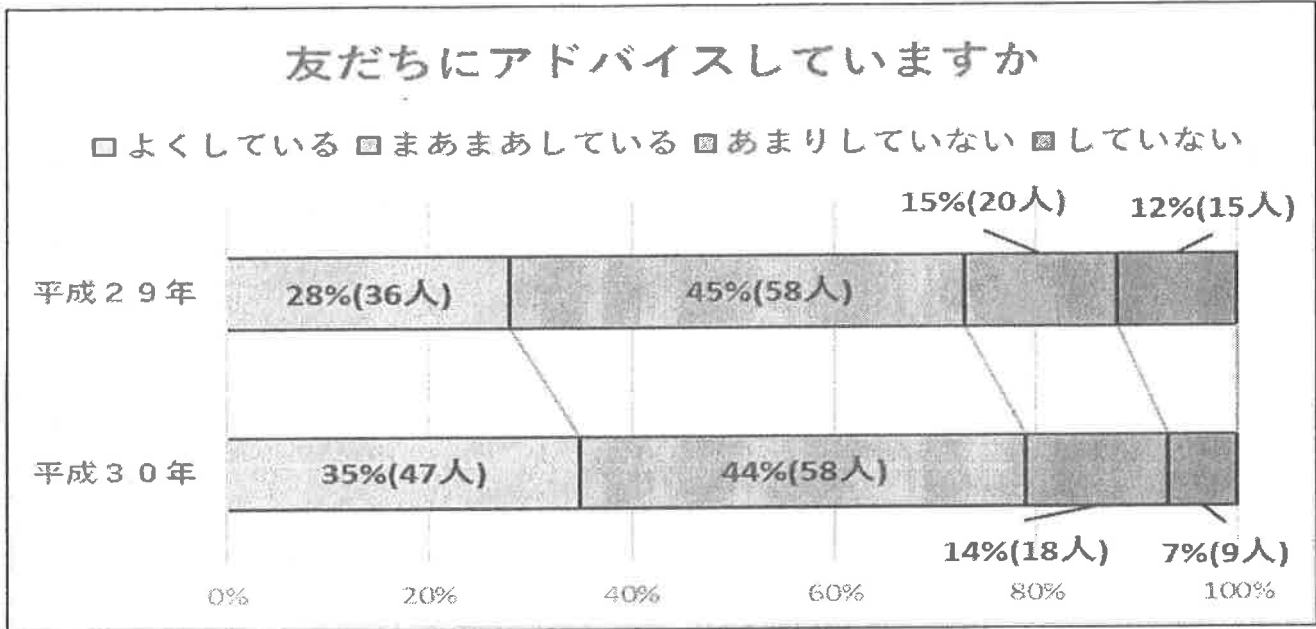
- ・「めあて」をもって授業の取り組む児童が7%増えている。スタイルの確立により、どの単元でも毎時チームやグループ、個人の課題からめあてを立てるようになったからではないかと考えられる。
- ・今後も児童が課題を見つけ、「めあて」が達成されるように、学び合いや場の設定の工夫、改善ができるようにしていきたい。

⑧友だちのよいところを見て学んでいますか。



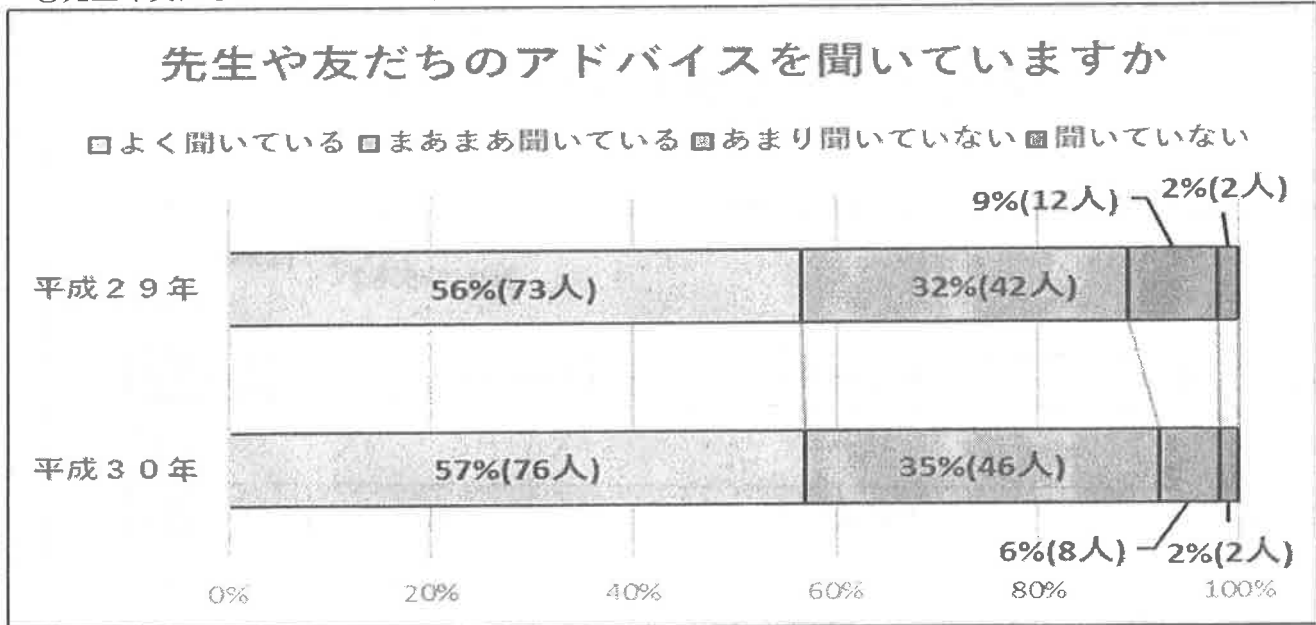
- ・今年度の研究サブテーマである「互いに高め合う学び合い」の中で、授業のタイムマネジメントとして授業スタイルの中に学び合う時間を確保することにより、児童の学び合いの意識が高まったように思われる。
- ・課題として、学び合いの時間を確保すると、運動量が減ってしまうので、単元や第〇時などに合わせてスタイルの中の学び合いの時間を変更していく。

⑨友だちにアドバイスしていますか。



・互いにアドバイスし合うことができている。その要因として、副読本や掲示物の活用、掲示物の工夫などがあげられる。副読本を活用し、技能のポイントをおさえることにより、互いの技能の習熟具合や課題を確認することができるようになったと思われる。

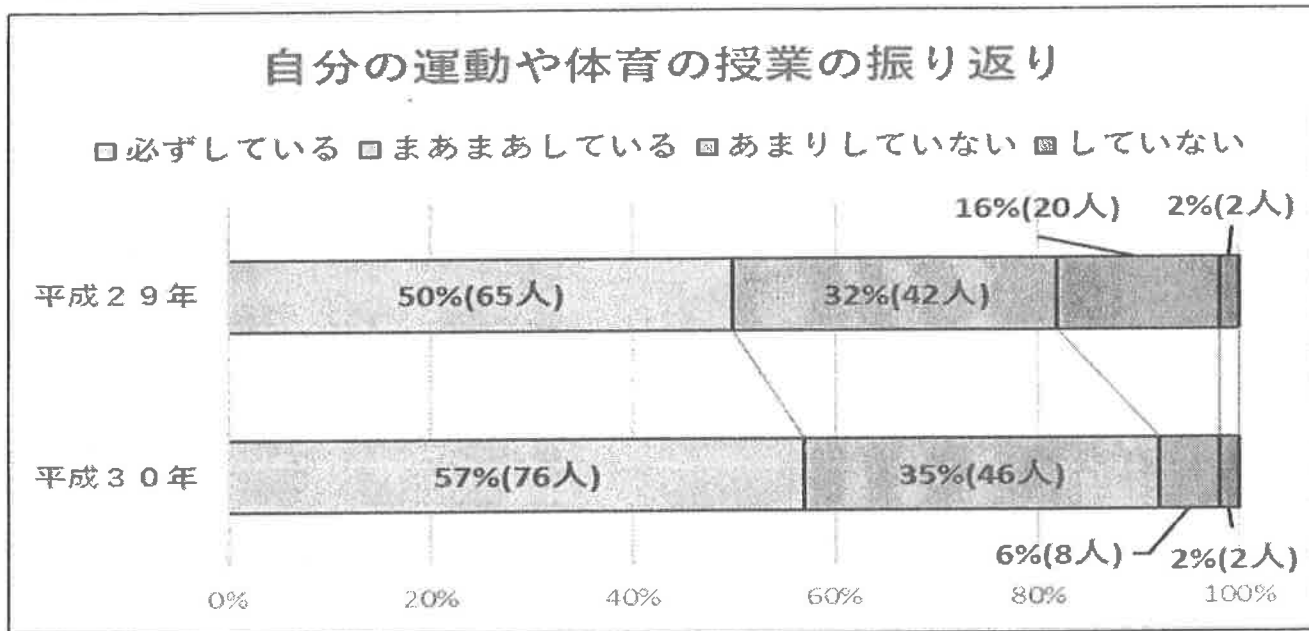
⑩先生や友だちのアドバイスを聞いていますか。



・90%以上の児童が先生や友だちのアドバイスを聞き、体育の授業に取り組んでいる。互いに学び合うことにより、素直に聞く姿勢が定着してきている。

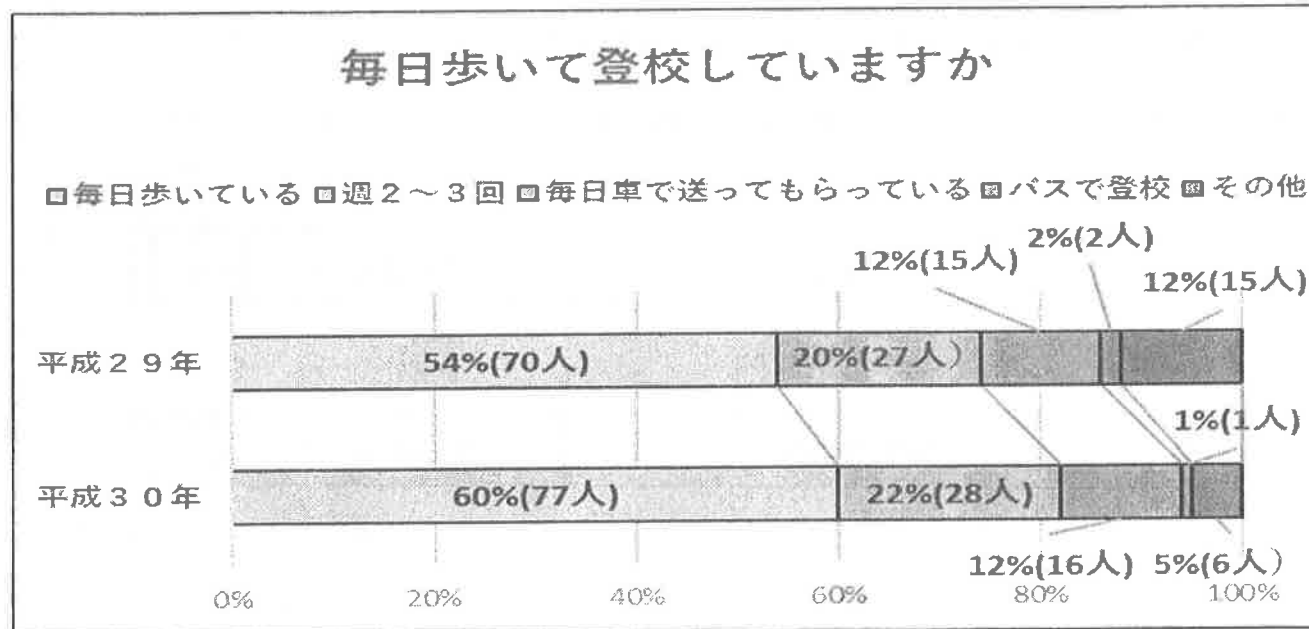
・課題として、先生や友だちに「アドバイスをされるのが嫌」「けんかになってしまう」という意見もあった。互いを尊重して共に成長していくような支持的風土を体育の授業の中でも築けるようにしていく。

⑪自分の運動や体育授業の振り返り



・約10%の児童が前年度よりも振り返りをするようになり、体育の授業における振り返りが定着してきているように思われる。その要因としては、ワークシートを工夫し、振り返りの視点を与えることを担任が意識して取り組んだ結果だと思われる。また、スタイルの確立により、振り返りの時間を確保できたことも要因の一つだと思われる。

⑫毎日歩いて登校していますか。



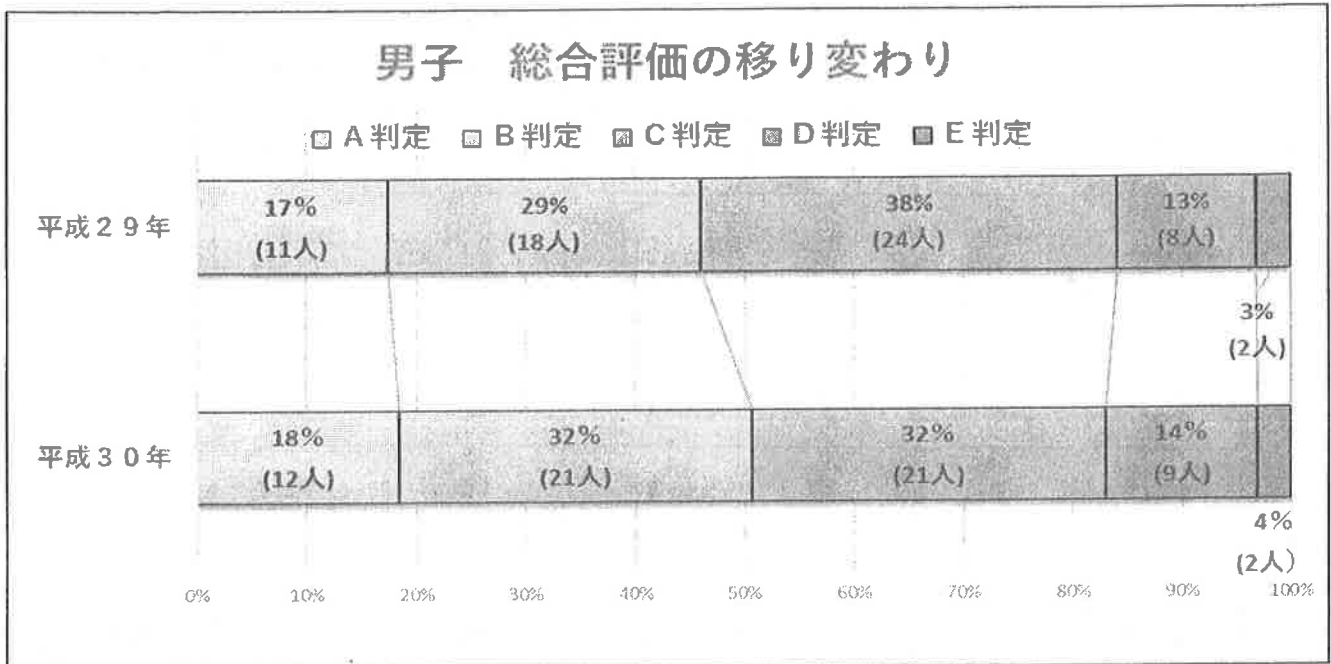
・約60%の児童が毎日徒歩登校している。毎年徒歩登校を推奨。今年度より、全校児童正門より登校することを声かけし、ほぼ全児童が毎朝正門より登校している。

・車で送迎される児童も、学校の手前で車を降り、少しの距離でも歩いて登校する姿が見られるようになった。

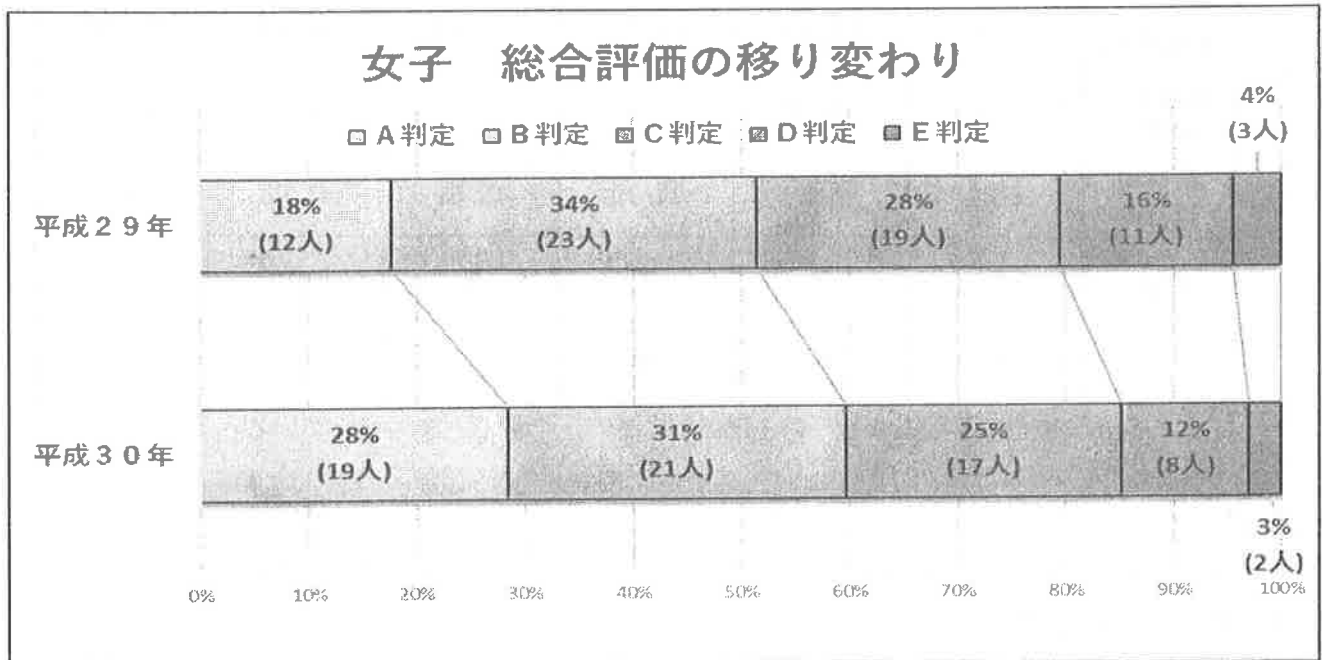
※車、バスで登校の理由として、「家が遠い」「朝時間がない」「雨が降ったときだけ」などが挙げられた。

2. 新体カテストの移り変わり

(1) 新体カテスト男女別総合評価の移り変わり



・男子全体の50%がA判定，B判定となり，わずかではあるが前年度よりも上回る結果となった。



・女子全体の約60%がA判定，B判定の高い評価となり，すべての判定においても前年度よりも上回る結果となった。

【次年度に向けた今後の取り組みとして】

- ・今年度の記録より自身の課題を把握し，課題を意識した運動に取り組めるようにする。
- ・各種目において，記録向上に繋がる運動例を例示し，継続的に取り組めるようにしていく。

(2) 握力【筋力】

男子	(k g)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	8.75	9.33	10.67	15.50	17.50	16.45
	H29 本校平均	9.50	11.69	13.29	17.80	15.50	22.44
	全国平均 (2016)	9.44	11.22	12.81	14.94	16.96	19.76
	県平均 (2016)	9.10	10.64	12.59	14.37	16.52	19.82
	全国との 比較	▼	▼	▼	◎	◎	▼
	県との 比較	▼	▼	▼	◎	◎	▼

女子	(k g)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	7.70	9.47	11.00	13.75	18.71	20.92
	H29 本校平均	9.50	10.13	11.13	15.88	18.08	23.17
	全国平均 (2016)	8.81	10.40	12.03	14.04	16.41	19.70
	県平均 (2016)	8.38	9.89	11.70	13.51	15.98	19.44
	全国との 比較	▼	▼	▼	▼	◎	◎
	県との 比較	▼	▼	▼	◎	◎	◎

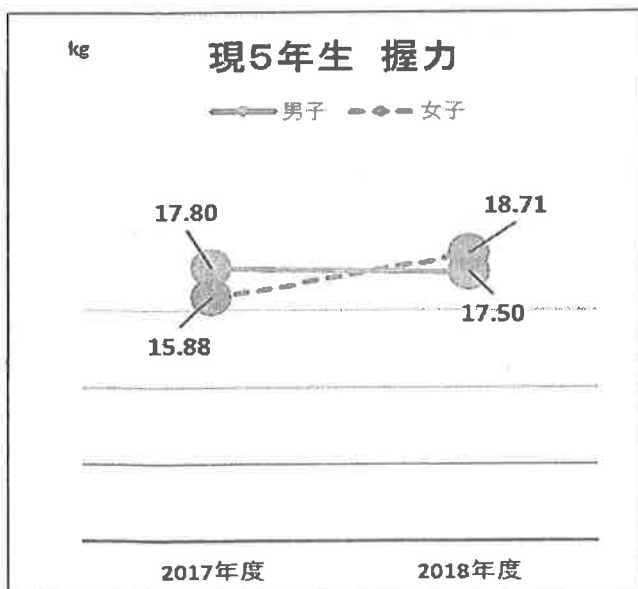
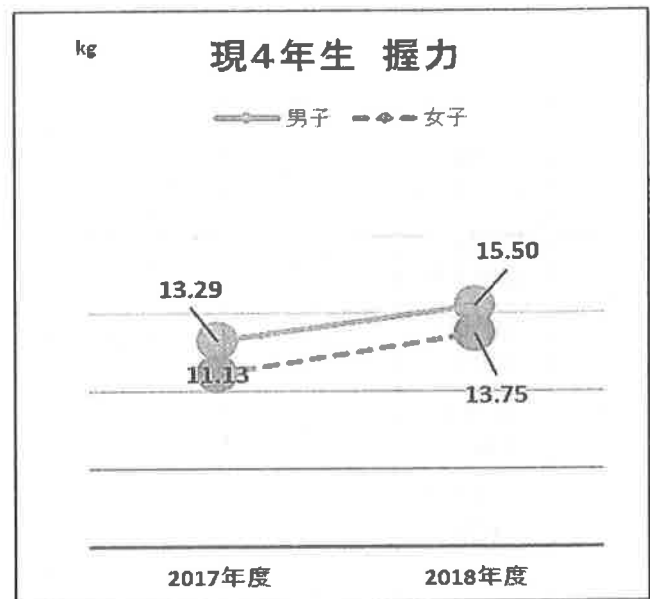
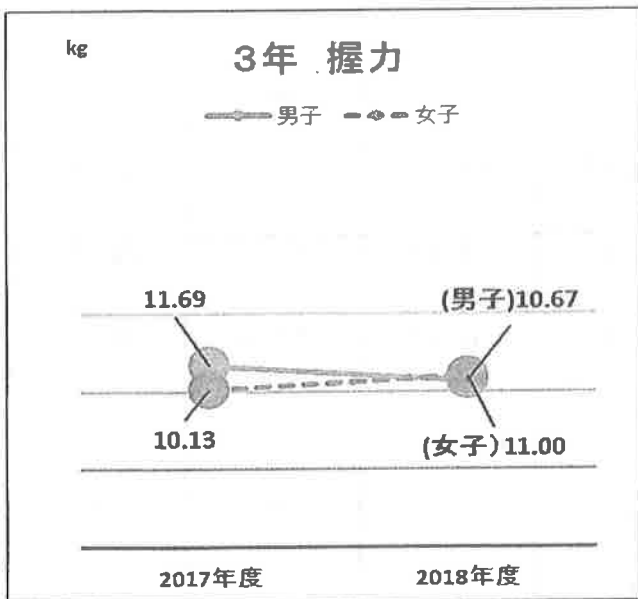
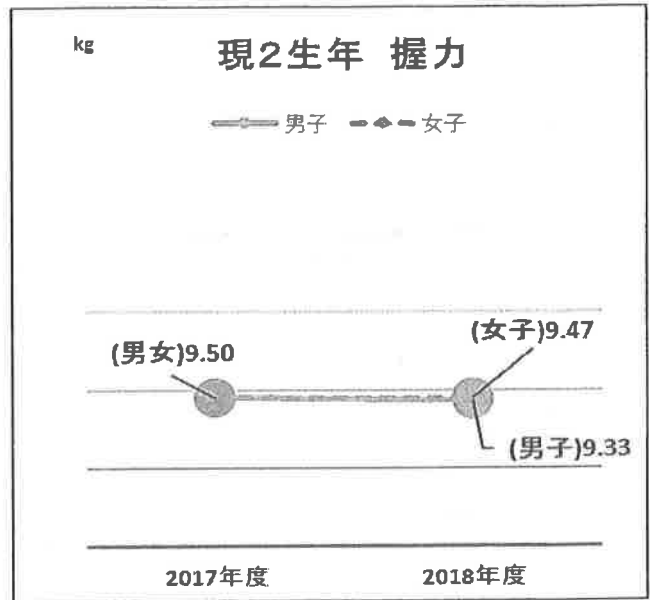
※今年度全国平均よりも ◎上回っている ○同じ ▼下回っている

【考察】

・ほとんどの学年で全国よりも下回るという結果となったが、経年比較で比べると、ほとんどの学年が。記録を上回る結果となった。

⇒朝スポやサーキット運動などで鉄棒や雲梯、登り綱、肋木などの運動を取り入れ、筋力アップを図れるようにしたい。

【握力学年別経年推移】



(3) 上体起こし【筋力・筋持久力】

男子	(回)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	11.64	10.83	19.20	19.21	22.50	21.00
	H29 本校平均	11.00	14.75	12.79	23.50	18.70	23.78
	全国平均 (2016)	11.64	14.56	16.48	18.71	20.81	22.66
	県平均 (2016)	9.94	12.73	15.17	16.61	18.35	20.45
	全国との 比較	○	▼	◎	◎	◎	▼
	県との 比較	◎	▼	◎	◎	◎	◎

女子	(回)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	12.90	18.87	18.13	18.43	21.82	19.00
	H29 本校平均	14.67	11.50	15.88	19.31	16.42	20.08
	全国平均 (2016)	11.25	13.87	15.98	17.87	19.32	20.54
	県平均 (2016)	9.59	11.99	14.40	15.73	16.95	18.64
	全国との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	▼
	県との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※今年度全国平均よりも ◎上回っている ○同じ ▼下回っている

【考察】

・ほとんどの学年で全国や県の平均を上回り、経年比較でも前年度の記録から大きな成長がみられた。
⇒朝スポなどで体力づくり運動などを継続して取り組んでいきたい。

【上体起こし学年別経年推移】



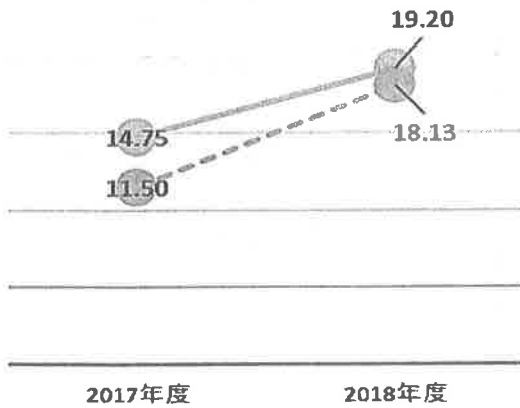
回 現2年生 上体起こし

—●— 男子 - -●- 女子



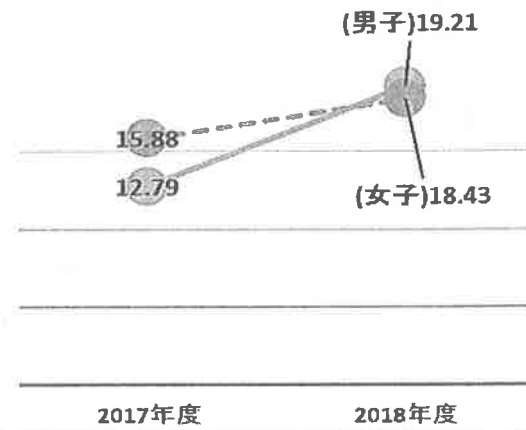
回 現3年生 上体起こし

—●— 男子 - -●- 女子



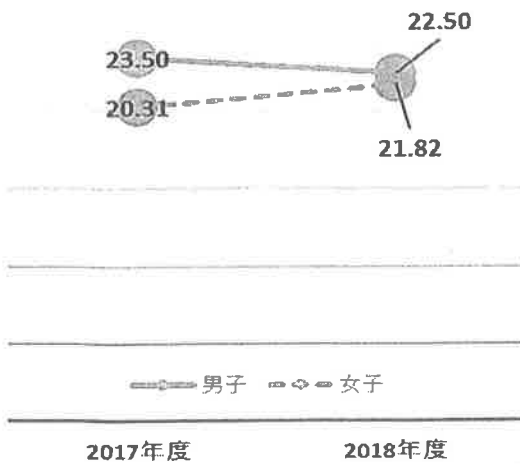
回 現4年生 上体起こし

—●— 男子 - -●- 女子



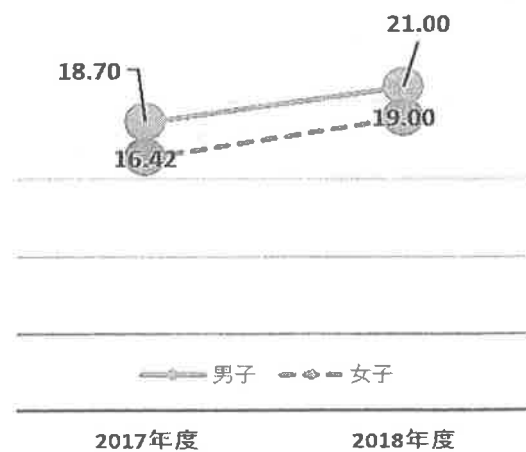
回 現5年生 上体起こし

—●— 男子 - -●- 女子



回 現6年生 上体起こし

—●— 男子 - -●- 女子



(4) 長座体前屈【柔軟性】

男子	(c m)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	31.38	34.50	34.93	38.29	36.33	36.36
	H29 本校平均	34.25	26.44	28.93	35.00	27.70	34.89
	全国平均 (2016)	26.26	27.85	29.28	30.34	33.18	36.03
	県平均 (2016)	25.32	26.75	29.49	30.41	31.81	34.56
	全国との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	県との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎

女子	(c m)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	33.60	40.53	38.38	47.00	39.53	47.58
	H29 本校平均	36.17	32.00	34.00	31.25	33.00	45.83
	全国平均 (2016)	28.23	30.81	32.47	34.13	36.93	40.12
	県平均 (2016)	27.31	29.00	32.02	33.81	35.67	39.04
	全国との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	県との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※今年度全国平均よりも ◎上回っている ○同じ ▼下回っている

【考察】

・すべての学年において全国や県の平均を上回り、とくに女子の記録が前年度から大きく伸びる結果となった。

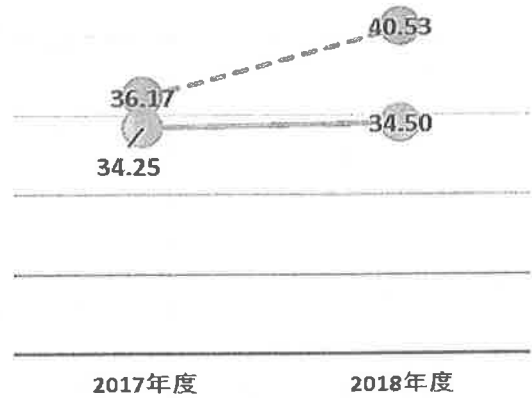
⇒ストレッチなど普段から継続して取り組むようにしたい。

【長座体前屈学年別経年推移】



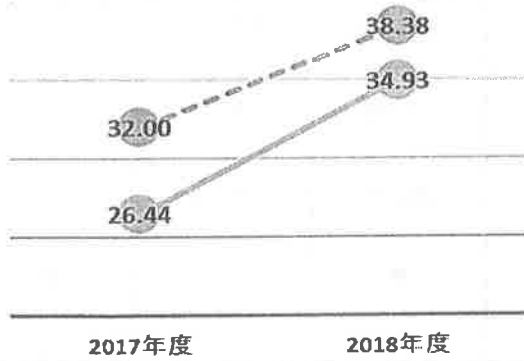
cm 現2年生 長座体前屈

—●— 男子 -◇- 女子



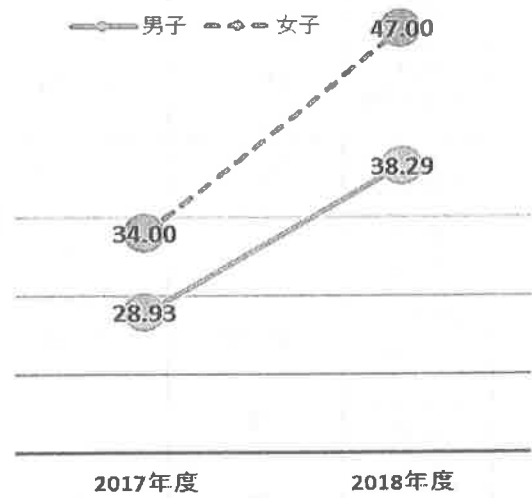
cm 現3年生 長座体前屈

—●— 男子 -◇- 女子



cm 現4年生 長座体前屈

—●— 男子 -◇- 女子



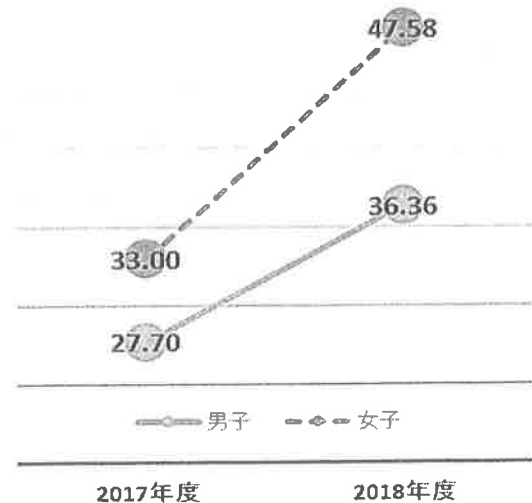
cm 現5年生 長座体前屈

—●— 男子 -◇- 女子



cm 現6年生 長座体前屈

—●— 男子 -◇- 女子



(5) 反復横とび【敏捷性】

男子	(点)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	32.00	28.83	32.00	41.14	46.25	43.20
	H29 本校平均	25.00	34.06	38.29	47.00	40.90	45.67
	全国平均 (2016)	28.13	32.20	36.26	39.66	43.98	46.70
	県平均 (2016)	27.74	31.15	33.68	38.07	40.60	44.51
	全国との 比較	◎	▼	▼	◎	◎	▼
	県との 比較	◎	▼	▼	◎	◎	▼

女子	(点)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	24.50	33.80	34.75	37.71	43.59	41.08
	H29 本校平均	29.33	31.63	35.88	42.13	41.33	45.83
	全国平均 (2016)	27.51	31.15	35.03	37.95	41.95	43.88
	県平均 (2016)	26.42	29.64	32.83	36.52	39.06	42.14
	全国との 比較	▼	◎	▼	▼	◎	▼
	県との 比較	▼	◎	◎	◎	◎	▼

※今年度全国平均よりも ◎上回っている ○同じ ▼下回っている

【考察】

・僅かな差ではあるが全国の平均よりも下回った結果となったが、1、4、5年男子、2、3、4、5年生女子の記録で県の平均を上回る結果となった。

⇒なわとびやラダートレーニングなど、敏捷性を高める運動を取り入れていきたい。

【反復横とび学年別経年推移】



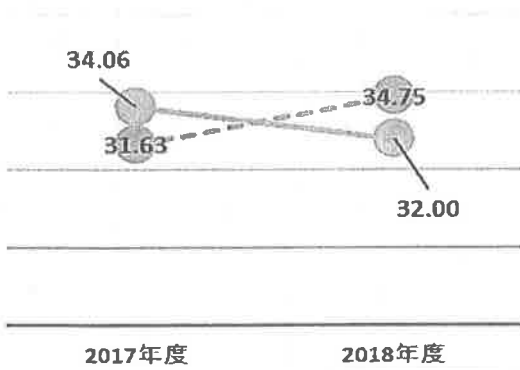
点 現2年生 反復横とび

—●— 男子 -◇- 女子



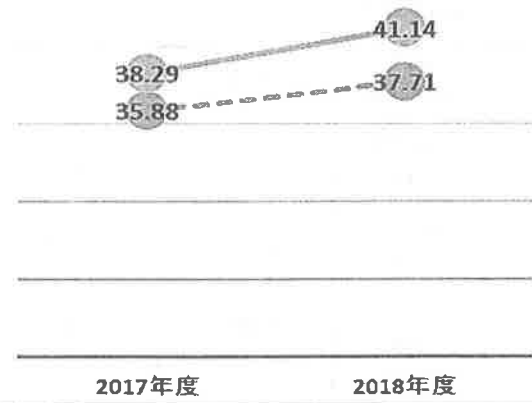
点 現3年生 反復横とび

—●— 男子 -◇- 女子



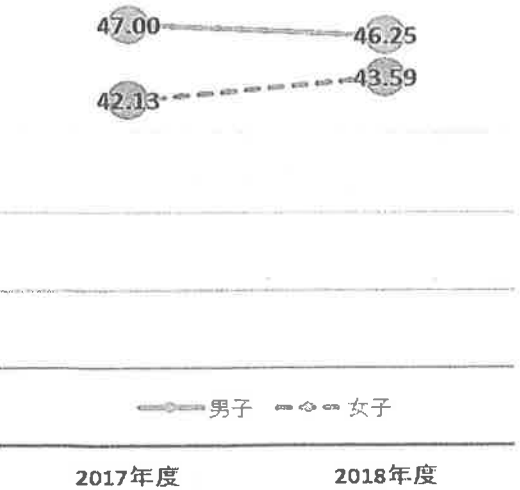
点 現4年生 反復横とび

—●— 男子 -◇- 女子



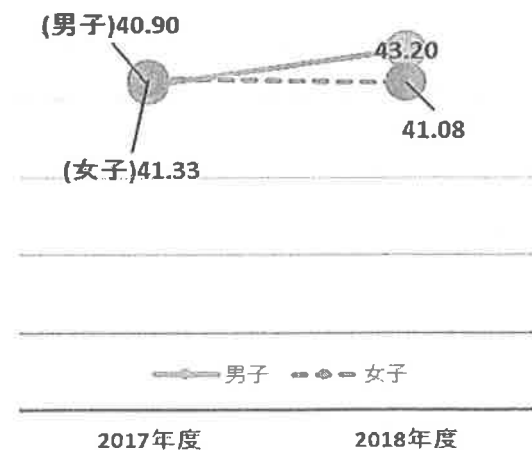
点 現5年生 反復横とび

—●— 男子 -◇- 女子



点 現6年生 反復横とび

—●— 男子 -◇- 女子



(6) 20mシャトルラン【全身持久力】

男子	(回)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	20.13	18.33	40.33	34.79	63.25	50.82
	H29 本校平均	25.00	34.06	38.29	47.00	40.90	45.67
	全国平均 (2016)	19.22	28.69	38.52	48.00	57.48	65.50
	県平均 (2016)	14.98	21.49	30.78	39.33	46.80	56.04
	全国との 比較	◎	▼	◎	▼	◎	▼
	県との 比較	◎	▼	◎	▼	◎	▼

女子	(回)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	13.67	21.47	32.25	24.71	45.63	43.67
	H29 本校平均	13.42	25.25	29.88	32.19	38.75	46.25
	全国平均 (2016)	16.37	22.73	29.23	38.49	45.59	50.47
	県平均 (2016)	13.28	17.88	23.57	29.92	36.48	43.30
	全国との 比較	▼	▼	◎	▼	◎	▼
	県との 比較	◎	◎	◎	▼	◎	◎

※今年度全国平均よりも ◎上回っている ○同じ ▼下回っている

【考察】

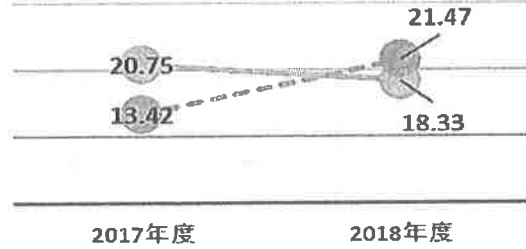
- ・3年, 5年男女で全国平均よりも上回る結果となった。
 - ・女子の記録でほとんどの学年が県の平均を上回ったが, まだまだ持久力に課題がある結果となった。
- ⇒なわとびやおにごっこなど, 普段の遊びなどの中に持久力を高める運動を取り入れていきたい。

【20mシャトルラン学年別経年推移】



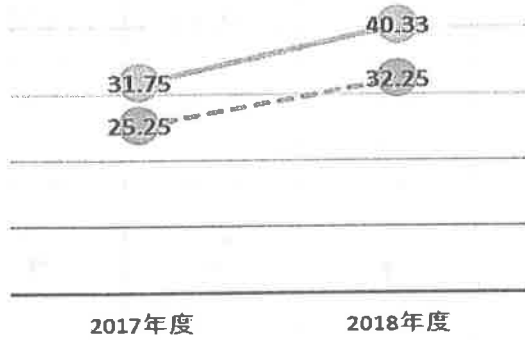
回 現2年生 20mシャトルラン

—●— 男子 -◇- 女子



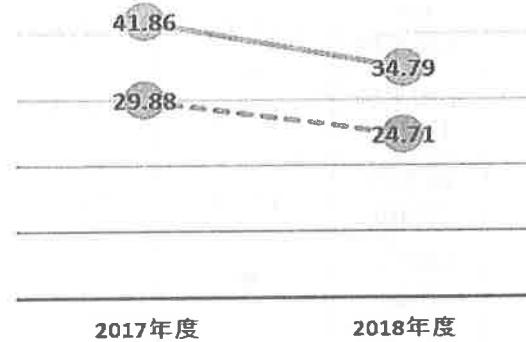
回 現3年生 20mシャトルラン

—●— 男子 -◇- 女子



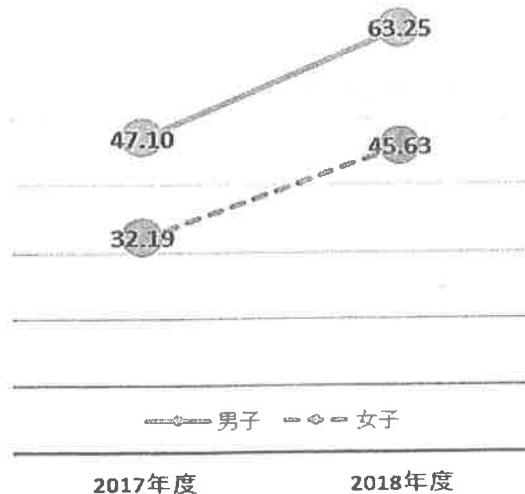
回 現4年生 20mシャトルラン

—●— 男子 -◇- 女子



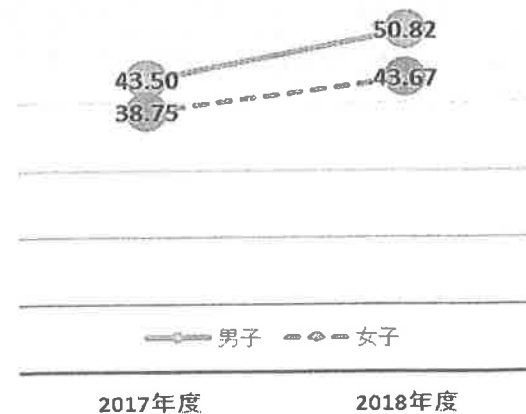
回 現5年生 20mシャトルラン

—●— 男子 -◇- 女子



回 現6年生 20mシャトルラン

—●— 男子 -◇- 女子



(7) 50m走【走力】

男子	(秒)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	11.69	10.89	10.43	9.28	8.95	9.27
	H29 本校平均	12.20	11.08	9.90	9.93	9.94	8.94
	全国平均 (2016)	11.51	10.65	10.01	9.61	9.21	8.79
	県平均 (2016)	12.00	11.08	10.43	9.94	9.59	9.02
	全国との 比較	▼	▼	▼	◎	◎	▼
	県との 比較	◎	◎	○	◎	◎	▼

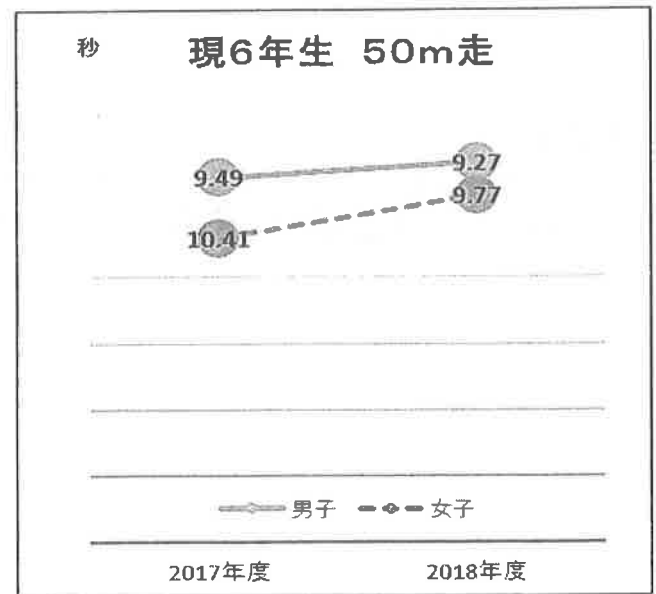
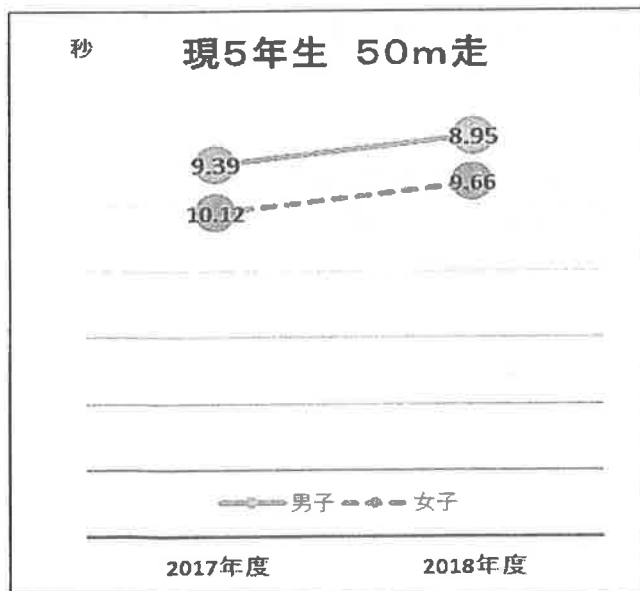
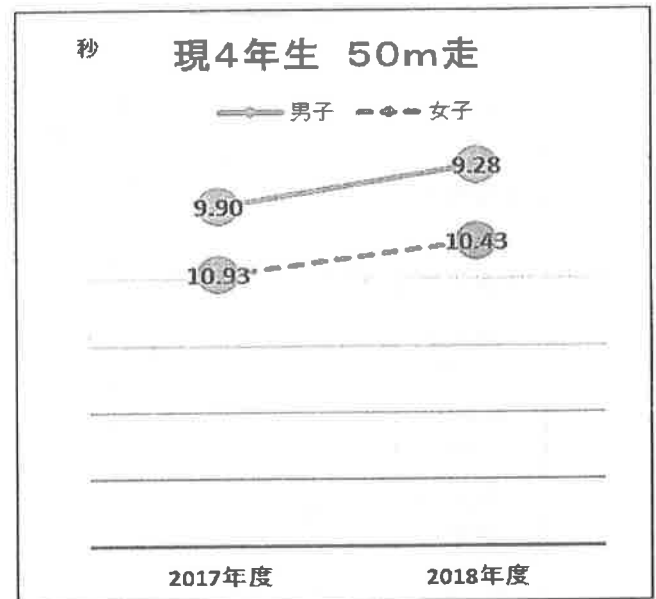
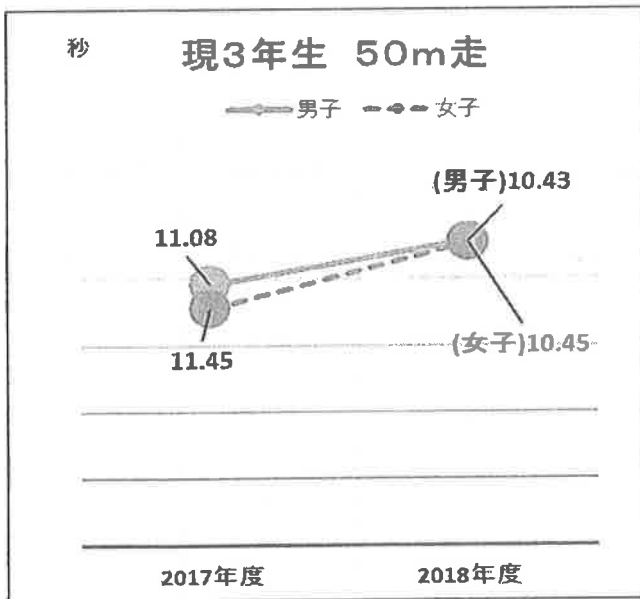
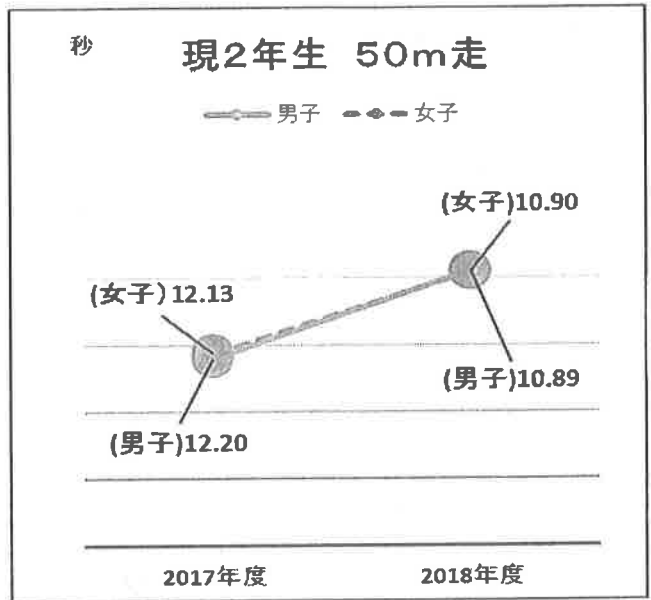
女子	(秒)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	11.99	10.90	10.45	10.43	9.66	9.77
	H29 本校平均	12.13	11.45	10.93	10.12	10.41	9.38
	全国平均 (2016)	11.76	10.99	10.38	9.88	9.45	9.16
	県平均 (2016)	12.50	11.48	10.87	10.31	9.89	9.39
	全国との 比較	▼	◎	▼	▼	▼	▼
	県との 比較	◎	◎	◎	▼	◎	▼

※今年度全国平均よりも ◎上回っている ○同じ ▼下回っている

【考察】

- ・2年生男女以外の学年で僅かな差ではあるが全国よりも下回る結果となった。
- ⇒定期的に記録を測るなど、記録アップを意識した取り組みをしていく。

【50m走学年別経年推移】



(8) 立ち幅とび【跳躍力】

男 子	(c m)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	119.25	127.83	139.13	159.57	164.08	173.27
	H29 本校平均	105.25	124.31	134.43	158.70	150.30	166.22
	全国平均 (2016)	114.36	126.34	136.25	145.26	153.72	166.55
	県平均 (2016)	112.31	123.77	135.92	143.07	150.37	163.38
	全国との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	県との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎

女 子	(c m)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	103.60	129.13	136.38	159.43	149.65	157.17
	H29 本校平均	93.58	115.63	125.63	145.19	131.67	161.50
	全国平均 (2016)	107.41	117.82	127.59	138.89	148.01	156.41
	県平均 (2016)	102.74	113.81	125.81	134.45	142.71	152.41
	全国との 比較	▼	◎	◎	◎	◎	◎
	県との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※今年度全国平均よりも ◎上回っている ○同じ ▼下回っている

【考察】

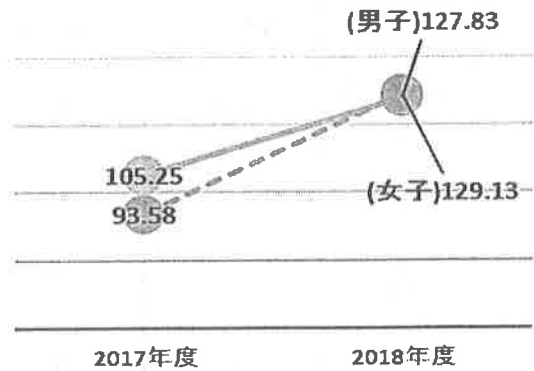
・ほとんどの学年で全国平均を大きく上回り、男女全学年県の平均を上回る結果となった。
⇒なわとびなど、跳躍力を高める運動を取り入れ、さらなる記録アップを目指していきたい。

【立ち幅とび学年別経年推移】



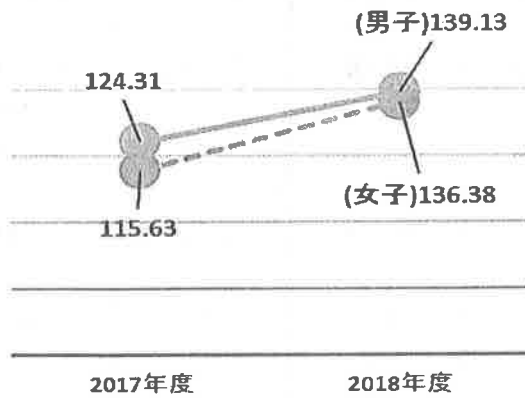
cm 現2年生 立ち幅とび

—●— 男子 - -●- 女子



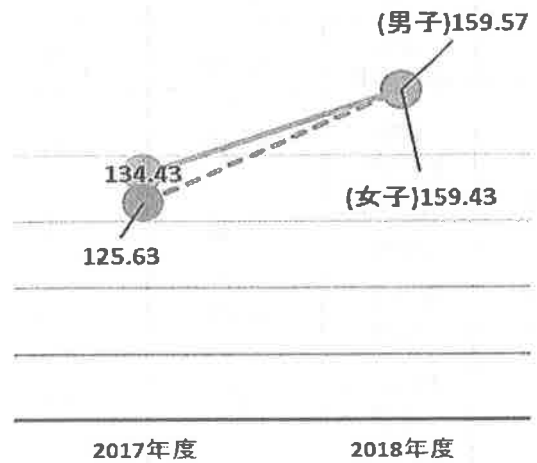
cm 現3年生 立ち幅とび

—●— 男子 - -●- 女子



cm 現4年生 立ち幅とび

—●— 男子 - -●- 女子



cm 現5年生 立ち幅とび

—●— 男子 - -●- 女子



cm 現6年生 立ち幅とび

—●— 男子 - -●- 女子



(9) ソフトボール投げ【投力】

男子	(m)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	11.00	10.67	16.80	24.79	28.92	26.55
	H29 本校平均	10.75	14.31	20.21	26.40	22.20	40.22
	全国平均 (2016)	8.67	12.26	15.89	20.32	23.54	27.21
	県平均 (2016)	9.38	12.84	17.12	20.99	24.64	28.96
	全国との 比較	◎	▼	◎	◎	◎	▼
	県との 比較	◎	▼	▼	◎	◎	▼

女子	(m)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	H30 本校平均	5.90	7.73	10.88	13.57	20.12	20.92
	H29 本校平均	5.42	7.25	10.63	15.06	13.42	17.75
	全国平均 (2016)	5.80	7.58	9.83	12.06	14.43	16.47
	県平均 (2016)	5.81	7.48	9.95	12.10	14.41	17.11
	全国との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	県との 比較	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※今年度全国平均よりも ◎上回っている ○同じ ▼下回っている

【考察】

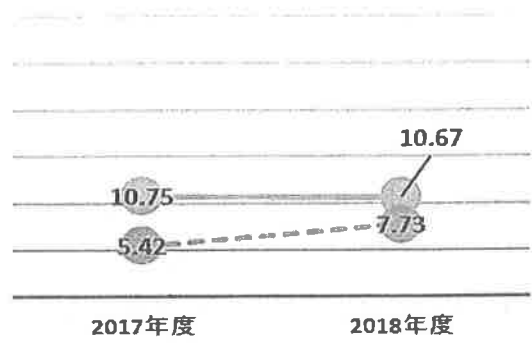
- ・2年，6年男子で僅かな差ではあるが全国よりも下回ったが，その他の学年では，全国を大きく上回る結果となった。
 - ・女子では，全学年全国，県の平均を大きく上回る結果となった。
- ⇒ドッジボールなど，普段から投げる運動を意識して朝スポなどで取り入れていきたい。

【ソフトボール投げ学年別経年推移】



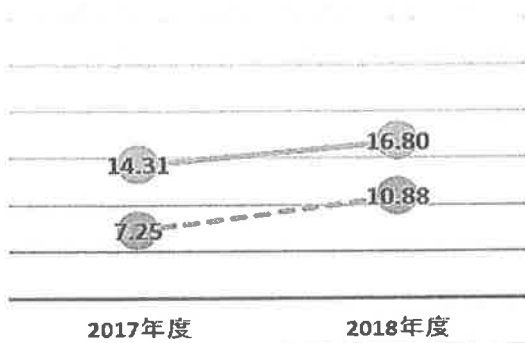
現2年生 ボール投げ

—●— 男子 -◇- 女子



現3年生 ボール投げ

—●— 男子 -◇- 女子



現4年生 ボール投げ

—●— 男子 -◇- 女子



現5年生 ボール投げ

—●— 男子 -◇- 女子



現6年生 ボール投げ

—●— 男子 -◇- 女子



3. 成果と課題

(1) 成果

- ① 2年間の体育の研究を通して、「運動が好き」「体育の授業が楽しい」という児童が増え、積極的に体を動かす姿が見られるようになった。
- ② 「みやびスタイル」が定着し、どの単元でも時間配分を工夫しながら、「準備運動⇒めあて⇒チャレンジ①⇒学び合い⇒チャレンジ②⇒振り返り」という基本的な流れで、スムーズに授業を展開することができた。
- ③ 「みやびスタイル」の定着により、児童が次に何をするか理解して行動し、時間の有効活用ができるようになった。
- ④ 授業スタイルの中に学び合い活動を取り入れることで、児童が意識して技や技能のポイントを確認するようになり、互いに教え合ったり、自分の課題を見つけたりできるようになった。
- ⑤ 「朝スポ」の時間の継続的な活動により、運動に関わる時間が増え、基礎体力の向上に繋がった。また、年間計画にある授業や行事と連動させることで、基礎運動を実施するのに有効であった。
- ⑥ 「ペアラジオ体操」や「ジンギスカン体操」を校内で普及させることで、運動会や授業の導入時の準備運動として全児童ができるようになり、いつでもどこでも統一した準備運動ができるようになった。
- ⑦ 日常的な体育的活動に取り組めるように一輪車や竹馬、登り綱や鉄棒、雲梯等の場として「アスレチック」を設置することで、児童が意欲的に楽しく運動に関わるようになった。
- ⑧ 保護者の皆様からのアンケートより、「肥満傾向の子どもたちがだいぶ減りました。研究校の取り組み成果のような気がします。日頃から体を動かす時間を設けることができるのは素晴らしいと思います。」という感想があり、地域にも浸透した取り組みとなった。

(2) 課題

- ① 「みやびスタイル」の中に「学び合い活動」を組むことで、運動量が確保できない場面があった。学び合いながら活動もできる展開や教師の発問の工夫が必要。
⇒研修等で教師の発問や見取るための動きなどを共通確認する。
⇒チャレンジ運動などの活動中に学び合いが自然にできるように、学び合いの場を工夫・改善していきたい。
- ② 限られた備品で場の設定を工夫して授業改善に努めてきた。今後、効果的に活用できる用具を購入したり、簡易的な用具を作成したりするなど、備品の拡充を図り、どの領域でも運動量をもっと増やせるようにしたい。
- ③ まだまだ普段から運動しないという児童もいる。日常的な運動につながるような体育的行事やイベントなどを工夫して定期的に行えるようにしたい。

おわりに

本校は、平成 29 年度より沖縄県教育委員会の「体育・スポーツ推進研究校」の指定を受け、校内研修の研究テーマを「運動に親しみ進んで体力づくりに取り組む児童の育成」そしてサブテーマとして、「～各領域におけるスタイルの確立と互いを高め合う学び合いを通して～」を設定し研究を進めて参りました。

1 年次は、特に学校全体で統一した体育の授業スタイルを確立し、全学年で統一した朝のスポーツ活動、動的ストレッチ「ジンギスカン体操」を行うなど、全職員で授業実践、理論研究等について共通理解し手立てを講じてきました。

2 年次（最終年次）は、1 年次に見えてきた課題を踏まえ、授業研究会を通して授業内容を深めるとともに、体育科学習指導方法の定着を図ってきました。また、体育学習における運動時間の確保や学び合いの充実が図られ、児童同士が互いに高め合うことができました。なによりも、体育の授業で児童の楽しそうな表情を幾度となく見られたことに全職員が充実感を感じています。

本研究の成果と課題を踏まえ、本校児童の実態に合った適切な指導を行っていけるよう、全職員で日々の実践を一つ一つ積み重ね、今後も体育科の授業改善と体力の向上に取り組んで参ります。

結びに、研究を進めるにあたりましてご指導、ご助言をいただきました先生方に心より感謝いたしますとともに、厚くお礼を申し上げます。今後とも、ご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

平成 31 年 1 月 吉日

石垣市立宮良小学校

教頭 宮川るり子

【平成30年度（最終年次）】

《 指導助言者 》

指導助言 : 県教育庁 保健体育課 健康体育班 主任指導主事 古賀 義之
指導助言 : 八重山教育事務所 指導主事 小林 弘樹

《 研究同人 》

校長	: 仲間 一史	教頭	: 宮川 るり子
教務主任	: 照屋 祐樹	教諭	: 宮良 陽子
教諭	: 白金 晴香	教諭	: 根路銘 結奈
教諭	: 桑江 大地	教諭	: 水谷 直揮
教諭	: 嘉手納 倫	教諭	: 前本 香
養護教諭	: 東嘉弥真 美久	学校司書	: 嘉良 晋一
	伊藤 あつ子		
学校教育支援員	: 後呂 裕美	事務	: 大石 明日香
用務員	: 南風原 史典		

【平成29年度（一年次）】

《 指導助言者 》

指導助言 : 八重山教育事務所 主任指導主事 磯部 大輔

《 研究同人 》

校長	: 桃原 修	教頭	: 宮川 るり子
教務主任	: 金城 守卓	教諭	: 宮良 陽子
教諭	: 水谷 直揮	教諭	: 富山 華子
教諭	: 照屋 祐樹	教諭	: 前本 香
教諭	: 宮良 絵梨	教諭	: 伊良部 郁枝
養護教諭	: 我如古 優子	学校司書	: 嘉良 晋一
	伊藤 あつ子		
学校教育支援員	: 後呂 裕美	事務	: 大石 明日香
用務員	: 古見 恒夫		
	田場 典克		

